
伊方町後期基本計画
まちづくりに関するアンケート調査(住民)

－ 報 告 書 －

令和２年９月

伊方町役場 総合政策課

目 次

I	調査の概要	-----	1
II	回答者の属性	-----	3
	問 1 (1) 性別	-----	3
	問 1 (2) 年齢	-----	3
	問 1 (3) 職業	-----	3
	問 1 (4) 通勤、通学先	-----	4
	問 1 (5) 居住地区(お住いの小学校区)	-----	4
	問 1 (6) 世帯	-----	4
	問 1 (7) 居住歴	-----	5
	問 1 (8) 居住年数	-----	5
III	集計結果	-----	6
1	現在の「住み心地」・今後の居住の意向について	-----	6
	問 2 現在の伊方町の「住み心地」について	-----	6
	問 3 今後も伊方町に住み続けたいか	-----	8
	問 4 (1) ずっと住み続けたい理由について	-----	10
	問 4 (2) 転居したい、せざるを得ない理由について(町外)	-----	12
	問 4 (3) 転居したい理由について(町内)	-----	14
2	「暮らしの幸福度」「心配ごと」について	-----	15
	問 5 (1)、(2) 暮らしの幸福度について	-----	15
	問 6 (1)、(2) 暮らしの心配ごとについて	-----	19
3	伊方町の施策の「満足度」「重要度」について	-----	24
	問 7 これまでの「満足度」とこれからの「重要度」	-----	24
4	「次の5年のまちづくり」について	-----	28
	問 8 まちづくりの「今後の方向性」について	-----	28
	問 9 住民と行政の役割分担について	-----	49
5	感染症について	-----	50
	問 10 新型コロナウイルス感染症による身の回りへの影響	-----	50
	問 11 新型コロナウイルス感染症による制限、自粛	-----	52
	問 12 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化	-----	53
	問 13 新型コロナウイルス感染症による産業、観光業への影響	-----	54
6	町政への参加について	-----	68
	問 14 町政に関する情報の入手先	-----	68
	問 15 情報提供、情報公開について	-----	69
	問 16 住民の町政への参画機会について	-----	69
	問 17 伊方町のこれからのまちづくりについて	-----	70

I 調査の概要

- 1 調査時期：令和2年7月20日～8月11日
- 2 調査対象者：伊方町に居住する満18歳以上の男女
- 3 配布数：2,200人
- 4 調査方法：住基台帳から層化2段無作為抽出
- 5 配布方法：郵送配布、回収
- 6 回収率：

調査票	配布数	有効回収数	有効回収率
町民アンケート	2,200	869	39.5%

7 報告書の見方について

- ・回答結果の割合「%」は、回答者数（n）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数（n）に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「%」合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答条件に沿っていないものを含んでいます。
- ・グラフ及び表中の n（number of case）は、集計対象者総数です。

8 指標化について

「幸福度」「心配ごと」「満足度」「重要度」をよりの確に分析するために、係数（ウェイト）を設定し、加重平均による指標化を行っています。

【計算式】

「2点設定の選択肢」の件数×2点＋「1点設定の選択肢」の件数×1点＋「0点設定の選択肢」の件数×0点＋「-1点設定の選択肢」の件数×-1点＋「-2点設定の選択肢」の件数×-2点）÷ 有効回答数

■ 幸福度

プラス方向に進むほど幸福度が高く、マイナス方向に進むほど幸福度が低くなっています。

【係数（ウェイト）】

「幸福感を感じる」2点、「幸福感をまあまあ感じる」1点、「普通」0点、「幸福感をあまり感じない」-1点、「幸福感を全く感じない」-2点としています。

■ 心配ごと

マイナス方向に進むほど心配の程度が高くなっています。

【係数（ウェイト）】

「非常に心配である」-2点、「少し心配である」-1点、「どちらでもない」0点、「あまり心配でない」1点、「全く心配でない」2点としています。

■ 満足度、重要度

プラス方向に進むほど満足度（重要度）が高く、マイナス方向に進むほど満足度（重要度）が低くなっています。

【係数（ウェイト）】

「満足（重要）」2点、「ある程度満足（やや重要）」1点、「どちらともいえない：」0点、「やや不満（あまり重要でない）」-1点、「不満（重要でない）」-2点としています。

9 「満足度」と「重要度」の相関図について

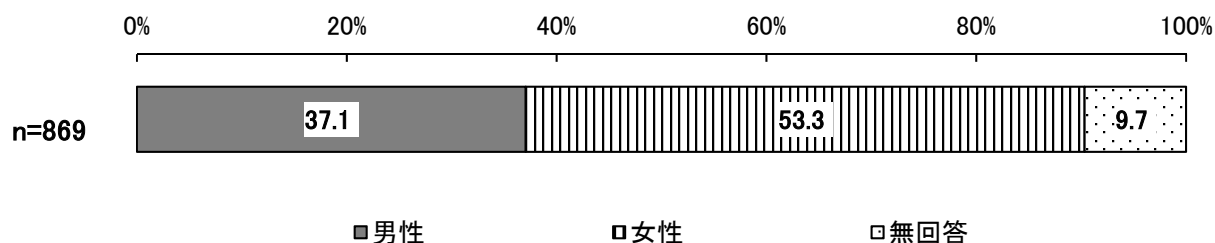
P28の図は「満足度」と「重要度」の相関を表し、各領域は下記のようになります。

A 重点化・見直し領域	「重要度」は高いが、「満足度」が低い 今後のまちづくりにおける重要度は高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含めて、満足度を高める必要がある領域を表します。
B 現状維持領域	「重要度」「満足度」ともに高い 今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域を表します。
C 改善・見直し領域	「重要度」「満足度」ともに低い 今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものを、改めて見直す必要のある領域を表します。
D 現状維持または見直し領域	「重要度」が低く、「満足度」が高い 今後のまちづくりにおける重要度は低いですが、満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直すべき必要のある領域を表します。

Ⅱ 回答者の属性

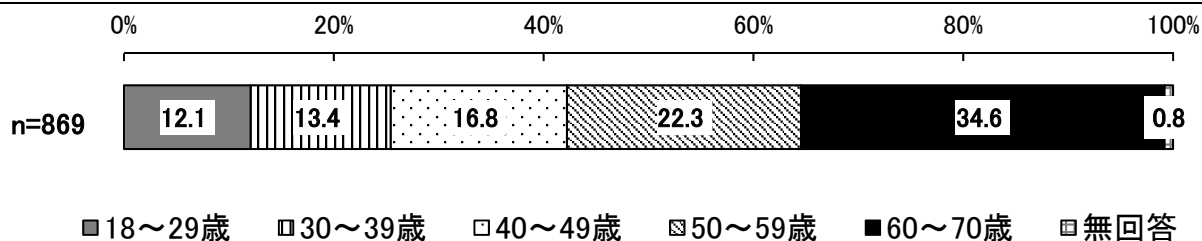
(1) 性別 (○は1つ)

回答者の性別は、「男性」37.1%、「女性」53.3%と、「女性」の割合が「男性」の割合より16.2ポイント高くなっています。



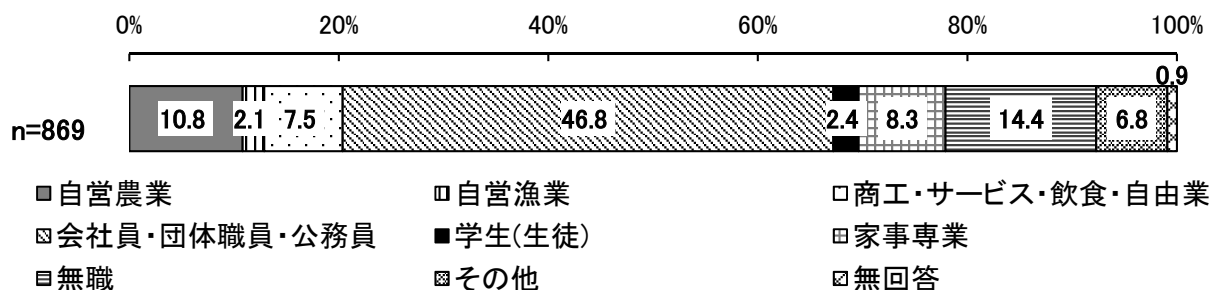
(2) 年齢 (○は1つ)

回答者の年齢は、上位から「60～70歳」34.6%、「50～59歳」22.3%、「40～49歳」16.8%となっており、年齢の高い回答者の割合が高くなっています。



(3) 職業 (○は1つ)

職業は、「会社員・団体職員・公務員」が46.8%と最も高く、次いで「無職」14.4%、「自営農業」10.8%となっています。

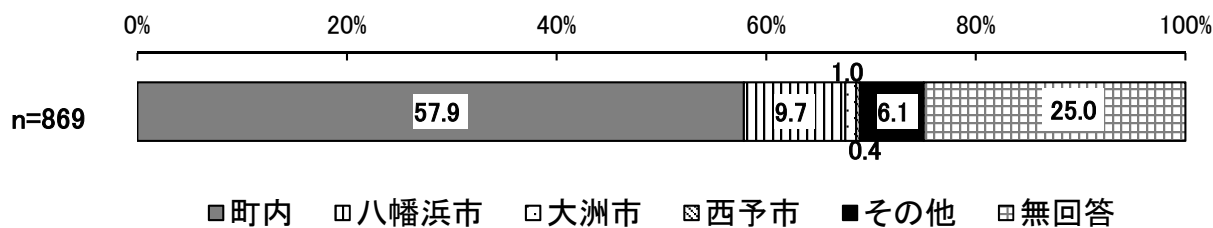


その他の回答

・アルバイト・パート 36件 ・介護関係 4件

(4) 通勤、通学先 (○は1つ)

通勤、通学先は、「町内」が57.9%と最も高く、全体の半数以上を占めています。次いで「八幡浜市」が9.7%となっています。「大洲市」「西予市」は僅かとなっています。

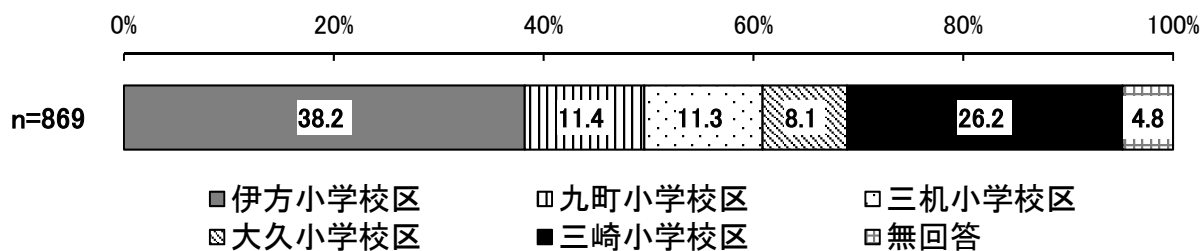


その他の回答

・松山市 14件 ・宇和島市 ・内子町 ・東京都 ・大阪府 ・岡山市
・高知県 ・広島県

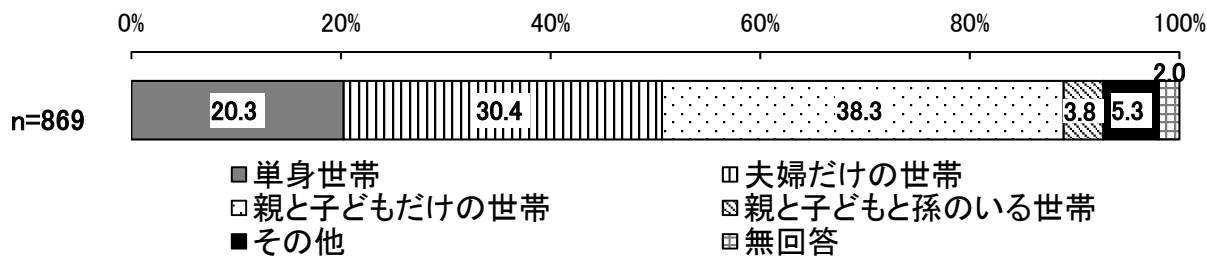
(5) 居住地区(お住いの小学校区) (○は1つ)

居住地区は、「伊方小学校区」が38.2%と最も高く、全体の4割近くを占めています。次いで「三崎小学校区」26.2%となっています。



(6) 世帯 (○は1つ)

世帯は、上位から「親と子どもだけの世帯」38.3%、「夫婦だけの世帯」30.4%、「単身世帯」20.3%となっています。

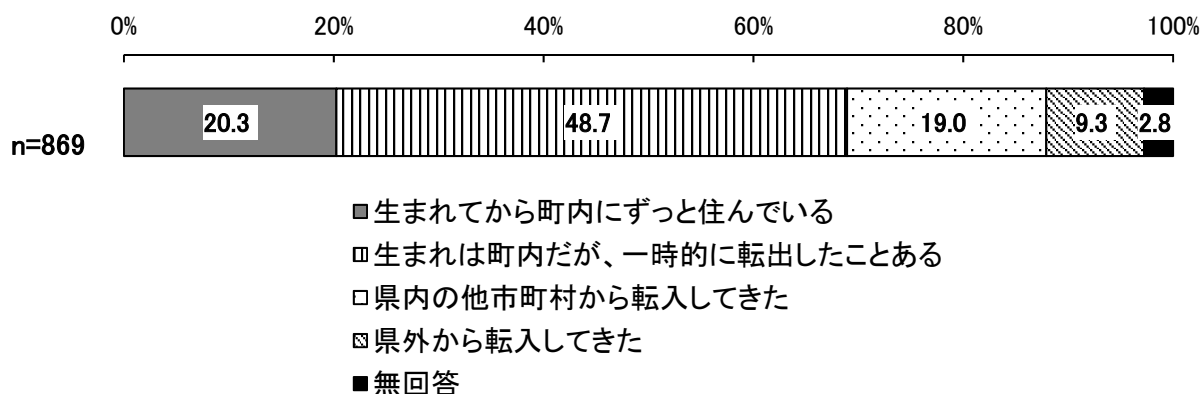


その他の回答

・兄妹 ・兄弟

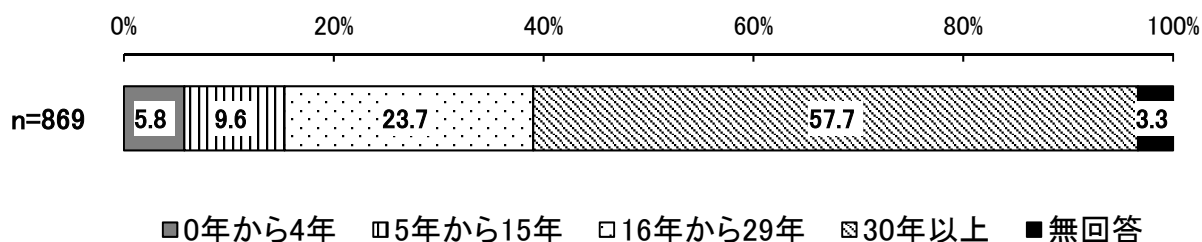
(7) 居住歴 (○は1つ)

居住歴は、「生まれは町内だが、一時的に転出したことある」が48.7%と最も高く、全体の半数近くを占めています。次いで「生まれてから町内にずっと住んでいる」が20.3%となっています。



(8) 居住年数 (数字を記入)

居住年数は、「30 年以上」が57.7%と最も高く、全体の半数以上を占めています。次いで「16 年から 29 年」が23.7%となっています。



Ⅲ 集計結果

Ⅰ. 現在の「住み心地」・今後の居住の意向について

問2 現在の伊方町の「住み心地」について

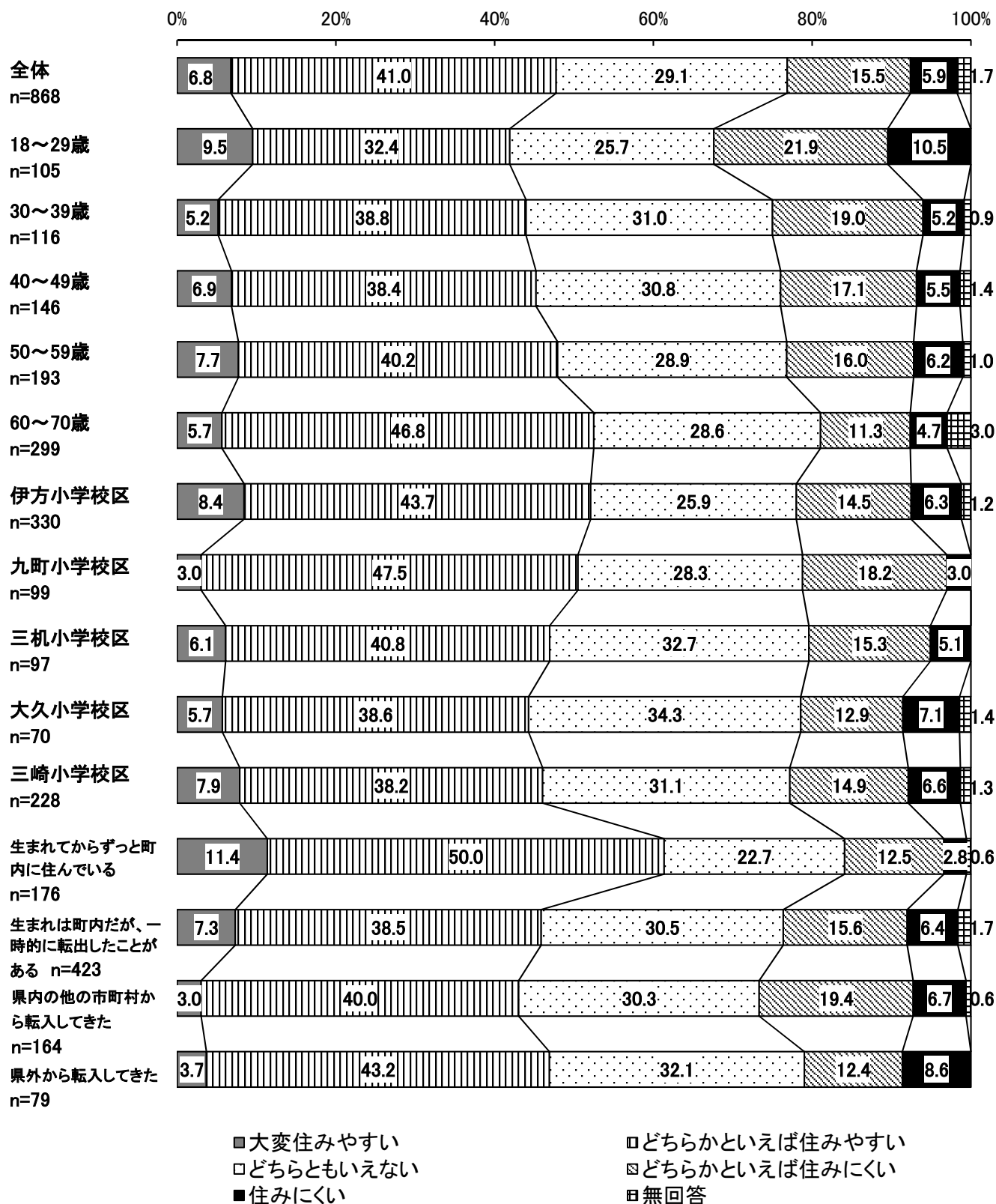
あなたは、現在の伊方町の「住み心地」について、どう思いますか。（○は1つ）

全体では、「どちらかといえば住みやすい」が41.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.1%となっています。

年齢別にみると、「大変住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合の合計が、年齢が高くなるほど高く、「18歳～29歳」では41.9%、「60～70歳」では52.5%となっています。

居住地区別では、大きな差は見られませんが、「大変住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合の合計は、「伊方小学校区」が52.1%と最も高く、次いで「九町小学校区」が50.5%となっています。

居住歴別にみると、「大変住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合の合計は、「生まれてからずっと町内に住んでいる」が他よりも突出して高く、61.4%となっています。最も低い「県内の他の市町村から転入してきた」では43.0%となっています。



問 3 今後も伊方町に住みたいか

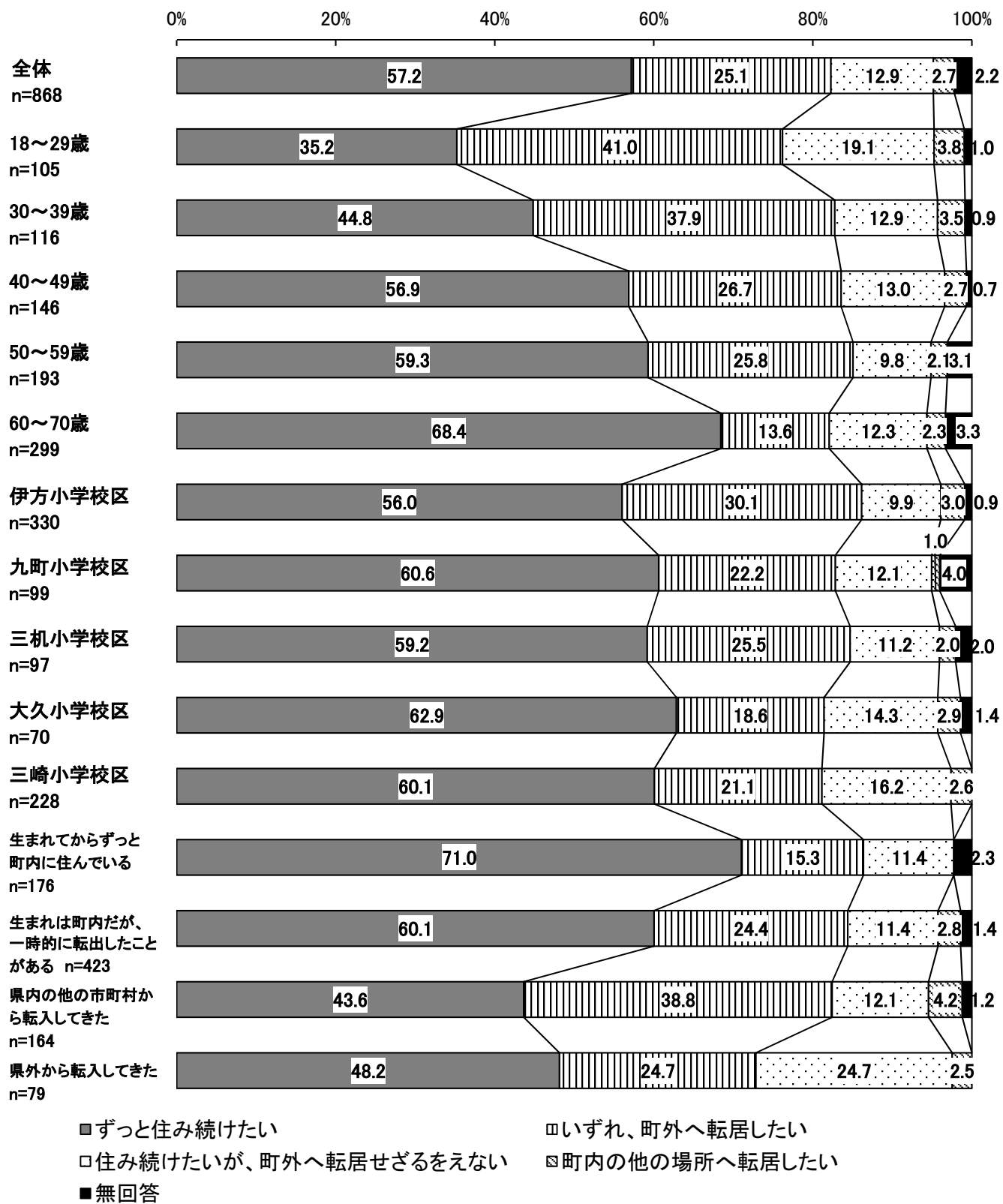
あなたは、今後も伊方町に住みたいと思いますか。(○は1つ)

全体では、「ずっと住みたい」が57.2%と最も高く、全体の半数以上を占めています。次いで「いずれ、町外に転居したい」が25.1%となっています。

年齢別にみると、「ずっと住みたい」の割合が、年齢が高くなるほど高く、「18歳～29歳」では35.2%、「60～70歳」では68.4%となっています。

居住地区別では、大きな差は見られませんが、「ずっと住みたい」の割合は、「大久小校区」が62.9%と最も高く、次いで「九町小校区」が60.6%となっています。

居住歴別にみると、「ずっと住みたい」の割合は、「生まれてからずっと町内に住んでいる」が他よりも高く、71.0%となっています。次いで「生まれは町内だが一時的に転出したことがある」で60.1%、最も低い「県内の他の市町村から転入してきた」では43.6%となっています。



問 4(1) ズっと住み続けたい理由について

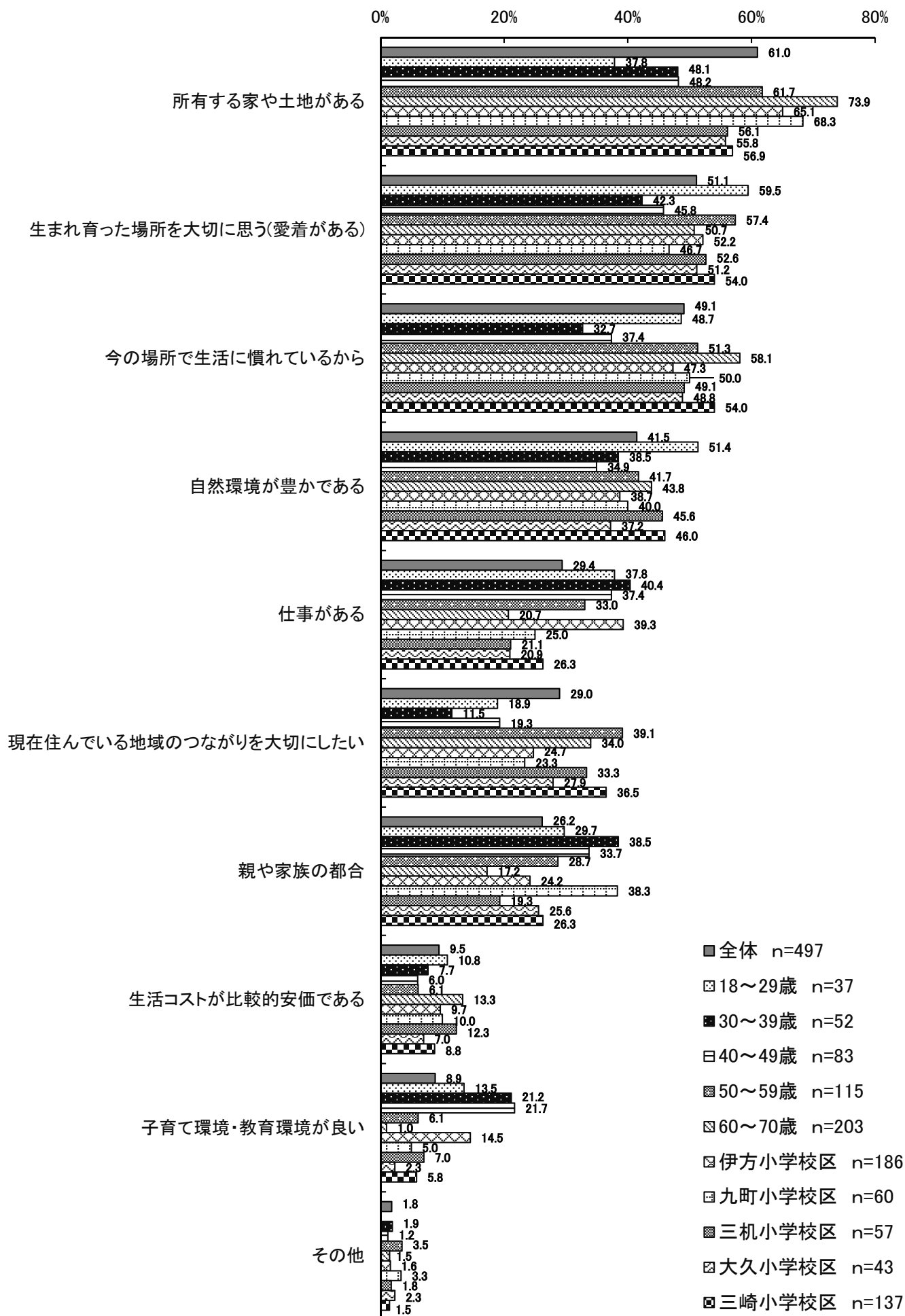
問3で「1 ズっと住み続けたい」と回答した人におたずねします。

回答した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

全体では、上位から「所有する家や土地がある」61.0%、「生まれ育った場所を大切に思う(愛着がある)」51.1%、「今の場所での生活に慣れているから」49.1%となっています。

年齢別にみると、「所有する家や土地がある」の割合が、年齢が高くなるほど高く、「18歳～29歳」では37.8%、「60～70歳」では73.9%となっています。「生まれ育った場所を大切に思う(愛着がある)」の割合は、「18歳～29歳」が他よりも高く、59.5%となっています。

居住地区別では、大きな差は見られませんが、「所有する家や土地がある」の割合は、「九町小学校区」が68.3%と最も高く、次いで「伊方小学校区」が65.1%となっています。



その他の回答

- ・他に行くところがない。 6件 ・主人の仕事のため。
- ・景色が良い。 ・医療に不安があるため、町外転居の可能性もある。
- ・年齢が高齢になったら車の運転ができなくなると住むのが不安。

問 4(2) 転居したい、せざるを得ない理由について（町外）

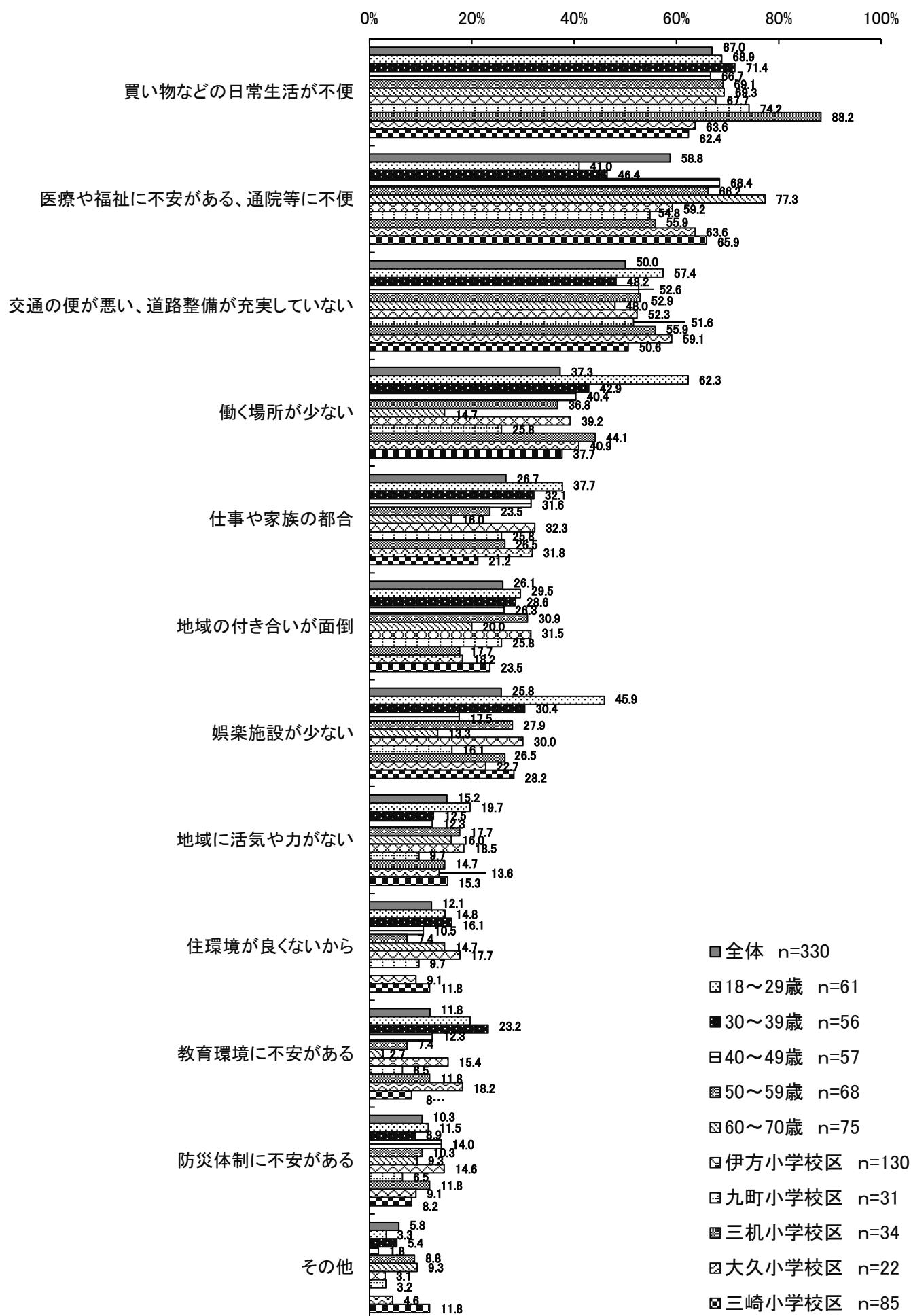
問 3 で「2 いずれ、町外に転居したい」又は「3 住み続けたいが、町外に転居せざるを得ない」と回答した人におたずねします。

回答した理由として、あてはまるものはどれですか。（○はいくつでも）

全体では、上位から「買い物などの日常生活が不便」67.0%、「医療や福祉に不安がある、通院等に不便」58.8%、「交通の便が悪い、道路整備が充実していない」50.0%となっています。

年齢別にみると、「医療や福祉に不安がある」の割合は、「60～70 歳」が他よりも高く、77.3%となっており、最も低い「18～29 歳」では41.0%となっています。また、「働く場所がない」と「娯楽施設が少ない」の割合は、「18～29 歳」が他よりも突出して高く、「働く場所がない」62.3%、「娯楽施設が少ない」45.9%となっています。

居住地区別にみると、「買い物などの日常生活が不便」の割合は、「三机小学校区」が他よりも突出して高く、88.2%となっており、最も低い「三崎小学校区」では62.4%となっています。



その他の回答

- ・病院が遠く不便である。 2件
- ・高齢になり免許返納すると公共交通機関が不便であり生活がしづらい。 5件
- ・資格を生かした仕事、短期就業のため等就業のため。 2件
- ・親（介護）が県外に住んでいるや町外に住居があるため。 3件
- ・将来、子供（世話になるため）の近くに住みたい。 2件
- ・生活の都合。 ・原発がある。 ・新しい人、文化を受け入れようとしない。
- ・銀行がない。 ・結婚を機に町外へ。 ・老後の生活形態、収入に不安。
- ・地域の行事とか面倒。 ・生活に干渉される。
- ・子供の成長または進学等でその時に伊方に魅力があるのかないのか。現時点では魅力は感じないから。

問 4(3) 転居したい理由について（町内）

「4 町内のほかの場所に転居したい」と回答した人におたずねします。

回答した理由をお書きください。

- ・（車の運転ができなくなると）交通が不便で、買い物、通院に不便。 8件
- ・高齢になって不便さを感じるから 2件
- ・いろいろと不便。
- ・住み心地は良いが、不便がある。店や飲食店など。
- ・現在の場所に住み続けたいが、自立して行動するには限界がある。
- ・便利が悪く、交通費にお金がかかる。
- ・自分は、身体障がい者で、家の周りの生活道が不便で大変苦勞をしている。
- ・地域や近所との関係がわずらわしいから 2件
- ・近所との関係、つながりが希薄になり生活がしにくい。
- ・働く場所がない、町外で働きたいなど 2件
- ・職場から少し遠いため、今現在も八幡浜市に住んでいる。
- ・福岡県でまだ親が2人ともいます。
- ・結婚して子供ができ学校の事を考えると八幡浜と考えている。
- ・小さい子を連れての4階までの上り下りがしんどい。子供の事でうるさく言われる。
- ・子供の仕事場所、住居近くに徒歩10分くらいのところで住みたい。車の運転ができなくなったときに転居を考える。
- ・歳をとると子の近くに行かないといけなかと考える。
- ・実家が当町ですが、一時は永住を考えていましたが、住んでみて今一度他地を考えています。
- ・現在、町営住宅に住んでおり、いずれは出るべきかと思う。
- ・家の老朽化。
- ・1人になったので、生まれたところに戻ってみたい。
- ・引っ越しをしたい。
- ・すでに町外に住んでいる。
- ・町内人口がいずれ少なくなる。
- ・先行き不透明。

2. 「暮らしの幸福度」「心配ごと」について

問 5(1) 暮らしの幸福度について

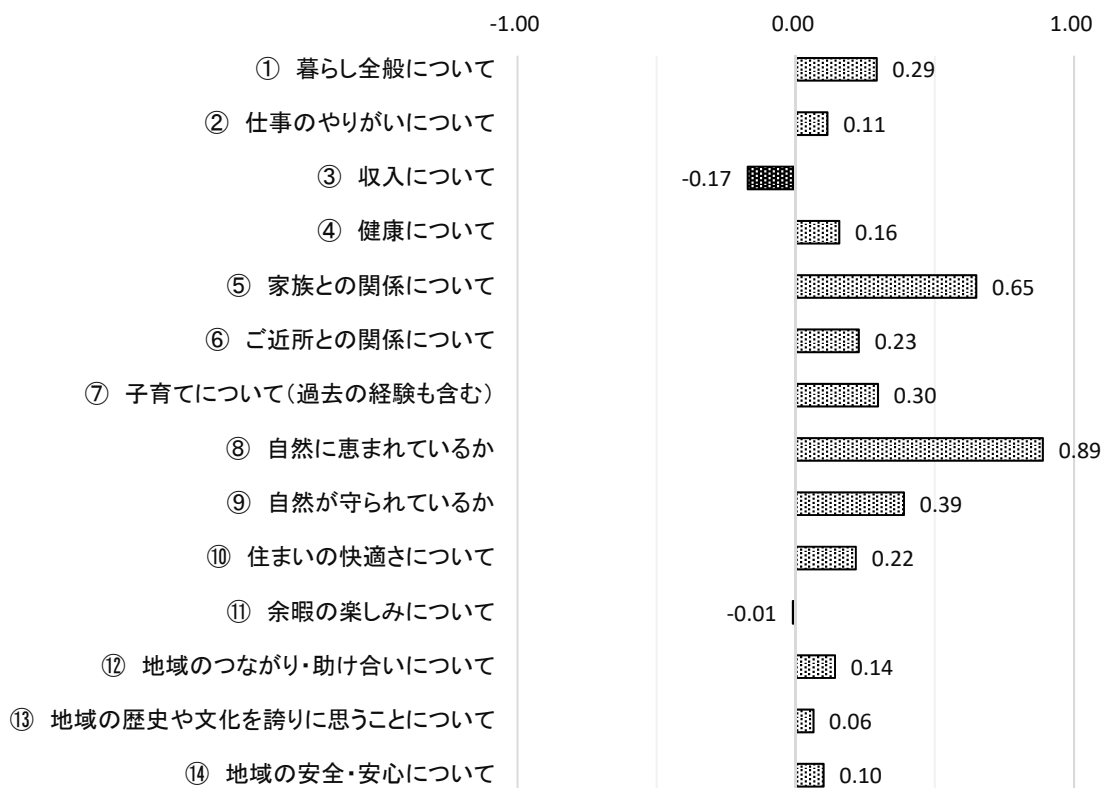
あなたは、伊方町の暮らしでの「幸福度」についてどう感じていますか。

それぞれの項目ごとに、あなたのお考えに一番近い番号を選んでください。(項目ごとに○は1つ)

幸福度の高いものは上位から、「自然に恵まれているか」(0.89)、「家族との関係について」(0.65)、「自然が守られているか」(0.39)となっています。

幸福度の低いものは下位から、「収入について」(-0.17)、「余暇の楽しみについて」(-0.001)、「地域の歴史や文化を誇りに思うことについて」(0.06)となっています。

■ 幸福度指標



■ 幸福度、回答数と割合

		合 計	幸 福 感 を 感 じ る	ま あ ま あ 幸 福 感 を 感 じ る	普 通	あ ま り 幸 福 感 を 感 じ ない	幸 福 感 を 全 く 感 じ ない	無 回 答
① 暮らし全般について	人数(人)	869	43	260	453	78	11	24
	割合(%)	100.0	4.9	29.9	52.1	9.0	1.3	2.8
② 仕事のやりがいについて	人数(人)	869	57	183	407	115	45	62
	割合(%)	100.0	6.6	21.1	46.8	13.2	5.2	7.1
③ 収入について	人数(人)	869	30	133	409	178	79	40
	割合(%)	100.0	3.5	15.3	47.1	20.5	9.1	4.6
④ 健康について	人数(人)	869	51	172	510	95	23	18
	割合(%)	100.0	5.9	19.8	58.7	10.9	2.6	2.1
⑤ 家族との関係について	人数(人)	869	163	270	369	33	8	26
	割合(%)	100.0	18.8	31.1	42.5	3.8	0.9	3.0
⑥ ご近所との関係について	人数(人)	869	58	201	487	68	29	26
	割合(%)	100.0	6.7	23.1	56.0	7.8	3.3	3.0
⑦ 子育てについて(過去の経験も含む)	人数(人)	869	73	201	410	64	27	94
	割合(%)	100.0	8.4	23.1	47.2	7.4	3.1	10.8
⑧ 自然に恵まれているか	人数(人)	869	208	375	237	24	6	19
	割合(%)	100.0	23.9	43.2	27.3	2.8	0.7	2.2
⑨ 自然が守られているか	人数(人)	869	83	286	379	73	25	23
	割合(%)	100.0	9.6	32.9	43.6	8.4	2.9	2.6
⑩ 住まいの快適さについて	人数(人)	869	71	221	404	133	23	17
	割合(%)	100.0	8.2	25.4	46.5	15.3	2.6	2.0
⑪ 余暇の楽しみについて	人数(人)	869	50	178	388	187	50	16
	割合(%)	100.0	5.8	20.5	44.6	21.5	5.8	1.8
⑫ 地域のつながり・助け合いについて	人数(人)	869	32	211	481	97	29	19
	割合(%)	100.0	3.7	24.3	55.4	11.2	3.3	2.2
⑬ 地域の歴史や文化を誇りに思うことについて	人数(人)	869	34	159	515	111	31	19
	割合(%)	100.0	3.9	18.3	59.3	12.8	3.6	2.2
⑭ 地域の安全・安心について	人数(人)	869	40	178	485	119	27	20
	割合(%)	100.0	4.6	20.5	55.8	13.7	3.1	2.3

問 5(2) 暮らしの幸福度について

① から⑭以外で、あなたが「幸福」を感じる事があればお書きください。

※以下、自由意見記載欄については、個人に関するもの、または特定の個人を識別できるもの等については、記載しておりませんのでご了承ください。

- ・ 自然に囲まれ静かに暮らせること。
- ・ 自然に恵まれ、人間性も良く、治安も良いので暮らしやすいです。
- ・ 海の幸、山の幸をいただくことができる。
- ・ 伊方町は食べ物がおいしいので、「食」に関しては幸福を感じています。
- ・ きれいな海を見た時。おいしいみかんや魚を食べた時。
- ・ 空気が良い。縁がある。川がないので水害が少ない。
- ・ 夜空、星、波の音。
- ・ 自然がいっぱいで海山が見渡せる環境が大好きである。
- ・ いつも変わらない穏やかな日常。きれいな海や山の景色。
- ・ 松山で暮らして分かったことですが、海と山が近くにあることがとても幸福です。
- ・ 自然は自然のままでは、ただの藪。人の手がかかって初めて自然になる。
- ・ 県外に出ている子供達が、休みにふるさととして、孫たちを連れて帰って来るには、最高の自然に恵まれたふるさとだと思います。
- ・ 財産の山、土地があり、農作業に忙しく、またやりがいがあるので。でもたくさん不満もある。
- ・ 騒音がなく、自然の音が聞こえ、夕日が沈んでいくのを見ると幸福だなあ～って感じる。
- ・ 交通量が少なく、安全、静か。
- ・ ゆったりとした時間の流れ方。
- ・ 手のひらにヒマワリの種を乗せるとヤマガラが止まり、くちばしで手をチュンとつついてくれます。孫がいなくて孫のようにかわいいです。
- ・ 私は U ターンして大阪から帰って来ました。自然のすばらしさ、地域のコミュニケーション、少し買い物とか病院は不便はありますが、私が生まれ育った所に帰ってこれ子供達に感謝しています。
- ・ 出会う人はみな声かけしてくれる。
- ・ 自然災害（地震、豪雨）、発電所の事故もなく毎日普通に暮らせている。普通が一番感じる事などない。
- ・ 大きい災害がなく今のところ安心しています。
- ・ 町内ショパーズ行きの 100 円バスが運行していることです。このきららバスを走らそうとした人はとても頭が良い。うれしいです。
- ・ 病院や巡回バススーパーなども近くにありとても暮らしやすい。
- ・ 病院が近くにあること。
- ・ 人間は、衣食住のバランスが大切だと思うが、自分は福祉の充実に「幸せ」を感じる。（感謝している）
- ・ 健康で働けること。
- ・ 家族（夫婦、娘たち、孫たち）が健康で毎日生活していけることが大変ありがたく、幸福だと実感しています。
- ・ パケ代を気にせず、24 時間スマホが使える。
- ・ 田舎にしてはネット環境が良い。
- ・ テレビが見られる。

- ・自分たちの若いころに行っていた行事や習わしが形を変えながらも実施されていること。
- ・地域とのつながり、助け合いについて、密なかかわりが昔に比べて少なくなっていると感じる部分もあるが、大切にしている現状も見られ、うれしく思っている。
- ・土地独特の血縁が強いのか、土地に守られている感じがあること。
- ・人とのつながりが財産である。
- ・地域住民の人柄の良さ。
- ・田舎にははまあまあの医療機関がある。
- ・四国の中で最も大分（九州）にアクセスが良く（三崎）、いざという時病院その他の高度なインフラが活用できる。というか四国内はあまりに不便。
- ・近くに娯楽施設がないので、休日に旅行に行くととても楽しく感じる。
- ・小中学校の先生方との関係性。
- ・小学生、中学生、高校生が元気。特に高校生を大切にしていきたい。
- ・子育ての支援が他の町に比べて行き届いている。
- ・良くも悪くも、幼いころのことを地域の方が知っており、自分が生活する中で子どもたちが成長する姿を長く感じられること。
- ・ボランティア等でやりがいを感じる。
- ・後悔することがない。過去の経験。（ボランティア等）
- ・動員数が増えると潤いという幸福感になります。
- ・前に不便な所に生活していて今は幸せに暮らせています。町に出てきて良かった。
- ・現在「自立」できていることに幸福を感じる。
- ・何事もなく普通に生活できること、そのこと自体に幸福を感じています。
- ・産業全般に対する街の補助制度が充実している。
- ・仕事、お金、ある程度満足している。将来、人が少なくなることが心配。
- ・仕事、収入、地域の活気等、一体感がなければ「幸福」は感じられないのではないかな。
- ・家族、近所、環境すべて。
- ・町外に住んでいる姉妹や子供たちと連絡を取り元気であること。
- ・「幸福度」と言われても。
- ・あまり幸福を感じることは少ない。

問6(1) 暮らしの心配ごとについて

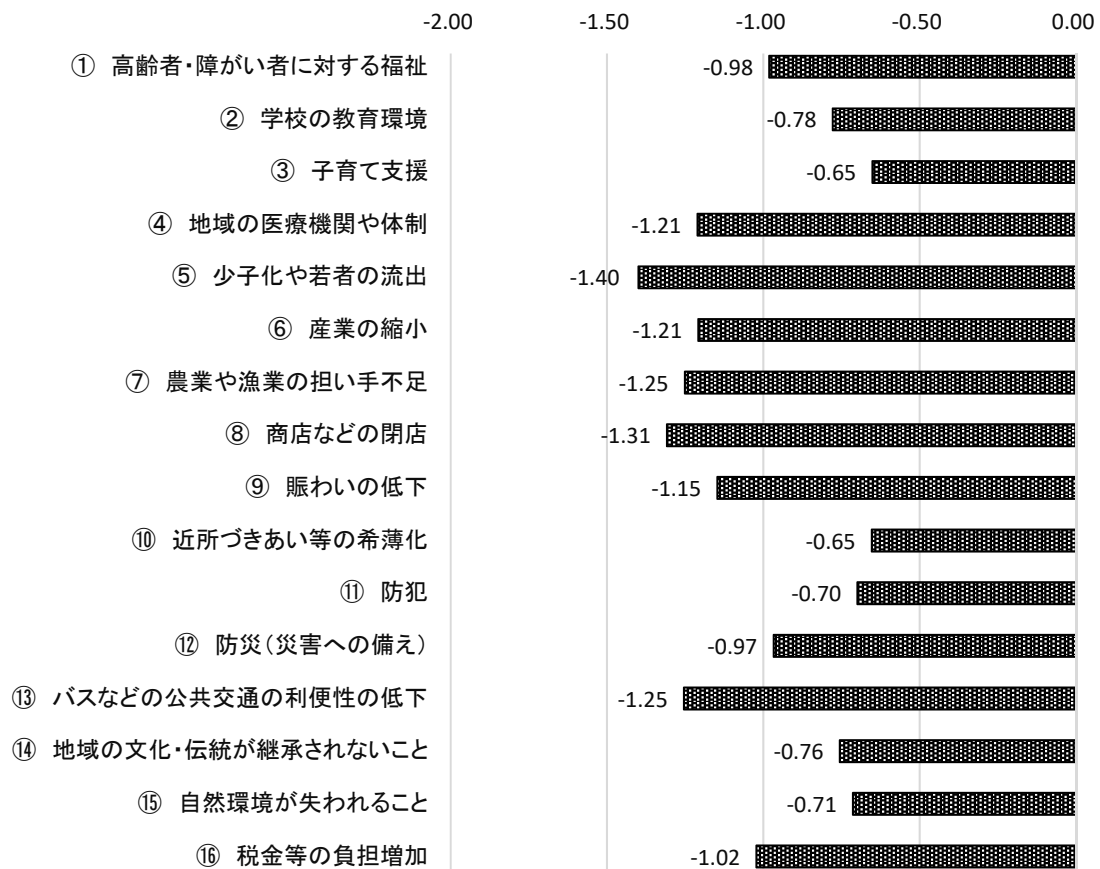
あなたは、伊方町の暮らしでの「心配ごと」についてどう感じていますか。

それぞれの項目ごとに、あなたのお考えに一番近い番号を選んでください。(項目ごとに○は1つ)

心配の程度が高いものは、「少子化や若者の流出」(-1.40)、「商店などの閉店」(-1.31)、「農業や漁業の担い手不足」と「バスなどの公共交通の利便性の低下」が(-1.25)となっています。

心配の程度が低いものは、「子育て支援」と「近所づきあい等の希薄化」が(-0.65)、「防犯」(-0.70)、「自然が失われること」(-0.71)となっています。

■ 心配ごと指標



■ 心配ごと、回答数と割合

		合 計	非 常 に 心 配 で あ る	少 し 心 配 で あ る	ど ち ら で も な い	あ ま り 心 配 で な い	全 く 心 配 で な い	無 回 答
① 高齢者・障がい者に対する福祉	人数(人)	869	178	408	197	69	3	14
	割合(%)	100.0	20.5	47.0	22.7	7.9	0.3	1.6
② 学校の教育環境	人数(人)	869	85	299	299	128	28	30
	割合(%)	100.0	9.8	34.4	34.4	14.7	3.2	3.5
③ 子育て支援	人数(人)	869	62	203	381	156	29	38
	割合(%)	100.0	7.1	23.4	43.8	18.0	3.3	4.4
④ 地域の医療機関や体制	人数(人)	869	305	365	129	52	4	14
	割合(%)	100.0	35.1	42.0	14.8	6.0	0.5	1.6
⑤ 少子化や若者の流出	人数(人)	869	437	296	99	20	4	13
	割合(%)	100.0	50.3	34.1	11.4	2.3	0.5	1.5
⑥ 産業の縮小	人数(人)	869	323	360	151	11	5	19
	割合(%)	100.0	37.2	41.4	17.4	1.3	0.6	2.2
⑦ 農業や漁業の担い手不足	人数(人)	869	352	330	146	17	8	16
	割合(%)	100.0	40.5	38.0	16.8	2.0	0.9	1.8
⑧ 商店などの閉店	人数(人)	869	371	355	115	7	8	13
	割合(%)	100.0	42.7	40.9	13.2	0.8	0.9	1.5
⑨ 賑わいの低下	人数(人)	869	297	350	181	17	10	14
	割合(%)	100.0	34.2	40.3	20.8	2.0	1.2	1.6
⑩ 近所づきあい等の希薄化	人数(人)	869	58	239	393	129	38	12
	割合(%)	100.0	6.7	27.5	45.2	14.8	4.4	1.4
⑪ 防犯	人数(人)	869	74	251	355	151	24	14
	割合(%)	100.0	8.5	28.9	40.9	17.4	2.8	1.6
⑫ 防災(災害への備え)	人数(人)	869	190	365	229	60	11	14
	割合(%)	100.0	21.9	42.0	26.4	6.9	1.3	1.6
⑬ バスなどの公共交通の利便性の低下	人数(人)	869	357	320	143	37	5	7
	割合(%)	100.0	41.1	36.8	16.5	4.3	0.6	0.8
⑭ 地域の文化・伝統が継承されないこと	人数(人)	869	103	340	330	64	18	14
	割合(%)	100.0	11.9	39.1	38.0	7.4	2.1	1.6
⑮ 自然環境が失われること	人数(人)	869	90	281	357	105	22	14
	割合(%)	100.0	10.4	32.3	41.1	12.1	2.5	1.6
⑯ 税金等の負担増加	人数(人)	869	242	337	232	35	9	14
	割合(%)	100.0	27.8	38.8	26.7	4.0	1.0	1.6

問6(2) 暮らしの心配ごとについて

①から⑩以外で、あなたが「心配」を感じることがあればお書きください。

- ・原子力発電所が立地していること。 2件
- ・原発の安全性に関する事。 3件
- ・原発の存在。メルtdownは地震だけで起こるのに、風前の灯の自覚がゆきわたっていない。生活も心も奪われてしまっている。ここにその項目さえない。
- ・原発はやめたほうがいい。
- ・伊方に住む以上、伊方原発の今後が心配です。四電さんもがんばってくれているだけに皆にとっていい方向（特に未来ある若い方々に）に進んでもらえたらと思います。
- ・災害の時のヘリポート不足、避難道路、港の整備不足、連絡（通信）手段の不足。
- ・南海トラフ大地震が起きた際、原発での被害がどれ程あるのか、町民の逃げ場はあるのかなどが一番心配です。
- ・1人住まいなので災害時不安を感じます。
- ・年々豪雨がすごくなってきているので、豪雨などによる道路の崩れ、陥没など交通面で心配。
- ・家の裏のがけ崩れ、家の裏の放置された畑の雑林。
- ・雨によって流れてきた土砂が川にたまったまま放置されていること。
- ・主要道路の不整備。（高枝、支障木）
- ・バイパスへの連絡道路の木が大きくなって、ジャングルようになって通りにくい。昼でも夜のようである。
- ・三崎支所より西部地区の道路は獣道になっております。県道256号線からの木が生い茂って、電線に接触して、台風時には即停電になる箇所が大変多くなっております。
- ・町内の道を車で走ったら、両側に草が多く、木も垂れて道路にかぶっている。環境整備が間に合わないのでは。
- ・木々が生い茂る中、雨風の後の枯葉の処理が大変であり、また、木が大きくなりすぎて個人での伐採が不可能。
- ・道路の狭さ、歩道がない、ツーリング用の道路がなくて危ない。
- ・バスが停車する場所の近くに、道路の境に止め石があるが反射板などついていないので夜は暗くて紛れるため危険を感じる。
- ・高齢化と後継者不足で農地が荒れて、山々の美観がなくなり獣たちが増えること。
- ・家庭菜園畑を食べつくすイノシシ、ハクビシンです。カボチャ、さつまいも、みかん何でも食べつくします。
- ・イノシシの出没で不安や被害が出ている。 2件
- ・専門医療機関が無いこと。救急病院が遠いこと。高齢介護施設が少ないことなど。 2件
- ・高齢化が進む中、入院のできる瀬戸診療所の存在は大きいと感じる。地域の人が安心して利用できるよう整備し、職員の確保をしてほしい。
- ・一年に1回、ドックを受けているが（八幡浜市民病院）料金が高いと感じている。
- ・これから高齢になり、施設等へ入居できるかが不安である。 5件
- ・今後の医療体制が気にかかる。（高齢化に伴い自分で運転が出来なくなるため）
- ・10～20年後、福祉体制が果たしてどんなになるのか心配である。近所の方々と助け合う日々が来るのではないかと思います。
- ・国保・介護の個人負担。国の悪政がそのまま住民にのしかかっている。
- ・放置されている空き家や畑の増加で虫による被害が出てくるのではないかと。 3件
- ・将来年金だけになった時など土地や家の維持、管理ができないと思う。 4件

- ・デマンドの方が便利だった。とても困っている。
- ・土日祝のバスが運行しない便があり、とても不便を感じる。
- ・将来の免許返納後の公共交通機関等のこと。
- ・車がないと非常に不便。高齢者の運転マナーが悪すぎる。
- ・高齢になり車の運転ができなくなった時は、医療機関受診の時交通が不便になることが心配。
- ・老後の交通や買い物の心配が多い。
- ・今はまだ夫婦で車を利用し、松山の病院へ、そして気分転換に大洲、八幡浜へと週1回程度の買い物にと出かける日々ですが、もう少し年を重ねて車に乗れなくなったら、病院や買物、日々の生活はどうなるかととても心配しています。
- ・親を八幡浜や松山市の病院へ連れていくことが多々ある。元気なうちは自分で車を運転して移動できるが、自分が歳をとったとき、自力で行くことができるか。また、連れて行ってくれる子供が地元に残っているかどうかを考えた時。
- ・人口減少。
- ・年配の方の増加に比べて子供が少なく、とても淋しいです。伊方に働くところがあれば若者も地元根付いてくれると思います。
- ・若者の働く所がなく、農業、漁業、商業の跡取りも少なくなって、年寄りばかりになってしまう。郷土に働く場所を。
- ・働く所が少ないので若者が町外に流出し、結果高齢者ばかりになるので10年もすれば今の人口の半分以上になるのではないかと心配している。人がいなくなれば何もすることができなくなるから。
- ・若い方が転出され、高齢者ばかりの町となっているが、今後もっと若い方が流出され高齢者を支えられない。若い方が生活できない町となって将来不安。
- ・高齢者が増え生産年齢人口の減少、新型コロナウイルス対策と対応
- ・単身世帯の増加に対する行政の対応。
- ・伊方町だけでなく、人口減少は仕方が無いと思う。少しでも何か方法はあるのではないかな。少し老後が心配である。
- ・高齢者が多いので、5年先、10年先が心配。地域の役員を務める人も高齢になるので。
- ・地域の役を担う人が少なく、すぐに役をするようになること。
- ・高齢化が進む中で、近所付き合いや人とのつながりがどのようになっているか心配な面もある。大切にしていきたいと痛感している。
- ・人口の減少、近所がない、高齢化が進行しており地区の環境も整備困難が見受けられる。児童の減少でこれ以上受け入れ体制（身障者など）は無理なのでは？
- ・シルバーの活用。
- ・コンビニが197号線の間地点になく不便。
- ・周辺に1件も商店がなくなり少し寂しさを感じます。
- ・町の中心となる場所（繁華街等）がない。公園があり、ミュージアム等の文化施設、イベントができるエリアが必要である。
- ・過疎化。
- ・限界集落化。
- ・少ない年金から税金が天引きされていること。
- ・収入が少ない、魚も取れない、不安。
- ・自営での仕事のため収入減となり、生活苦になる。
- ・後継者の育成に力を入れてほしい。

- ・三崎高校がなくなること。
- ・都会の人と同じように自分勝手すぎる。だから放ったらかしはダメ。
- ・モラルの悪い方が少々おられるように思います。
- ・道德。
- ・古い慣例にこだわり、若い人の意見をあまり聞かない傾向がある。
- ・歳を重ねると心配事がふえて来る。
- ・町政のあり方。
- ・支所の職員が少なく住民への対応が本庁任せになって遅い。
- ・今後、町としての機能が継続していくのか不安である。
- ・愛媛県内を見てみて、何にしても遅れている。(下から1～3位争い) 八幡浜を合併しても5万人弱。人員の整理から始めて無駄を省こう。
- ・公共サービスの低下が感じられる。(コスト削減や人手不足による)
- ・合併が起こり、伊方町が吸収合併して、行政サービスが細部まで行き届かなくなること。
- ・町というより国に対して、政治への不快感。
- ・他県とのつながりを有効に生かせば、町も少し栄えるような気がします。地域おこし。
- ・八幡浜ぐらい近くにコロナ患者が出たら現実味を帯びてくるのかもしれないが、ほとんどの人がマスクをつけてないし、対面での接触を避けたいのに、マナーとしてなのか、手渡しを優先してくる。(郵便局の宅配は印鑑必要)
- ・永住が目的で転入した場合の宗教的特色。普通乗用車にかかる税金が高い。司法行政、警察行政について、ルールの認識・意識が踏みにじられていては困る。
- ・豊かな自然のアドバンテージに不理解な指導者が多いためか、子どもは都会の子以上に、1年中学校にしばりつけられ、年齢が下がるにしたがって、自然との乖離が進んでいる。野外で休みに遊んでいるのは町外の子ばかり。
- ・海や山における、プラスチックごみの多さ。
- ・乱立する風力発電の騒音と低周波被害。

3. 伊方町の施策の「満足度」「重要度」について

問7 これまでの「満足度」とこれからの「重要度」

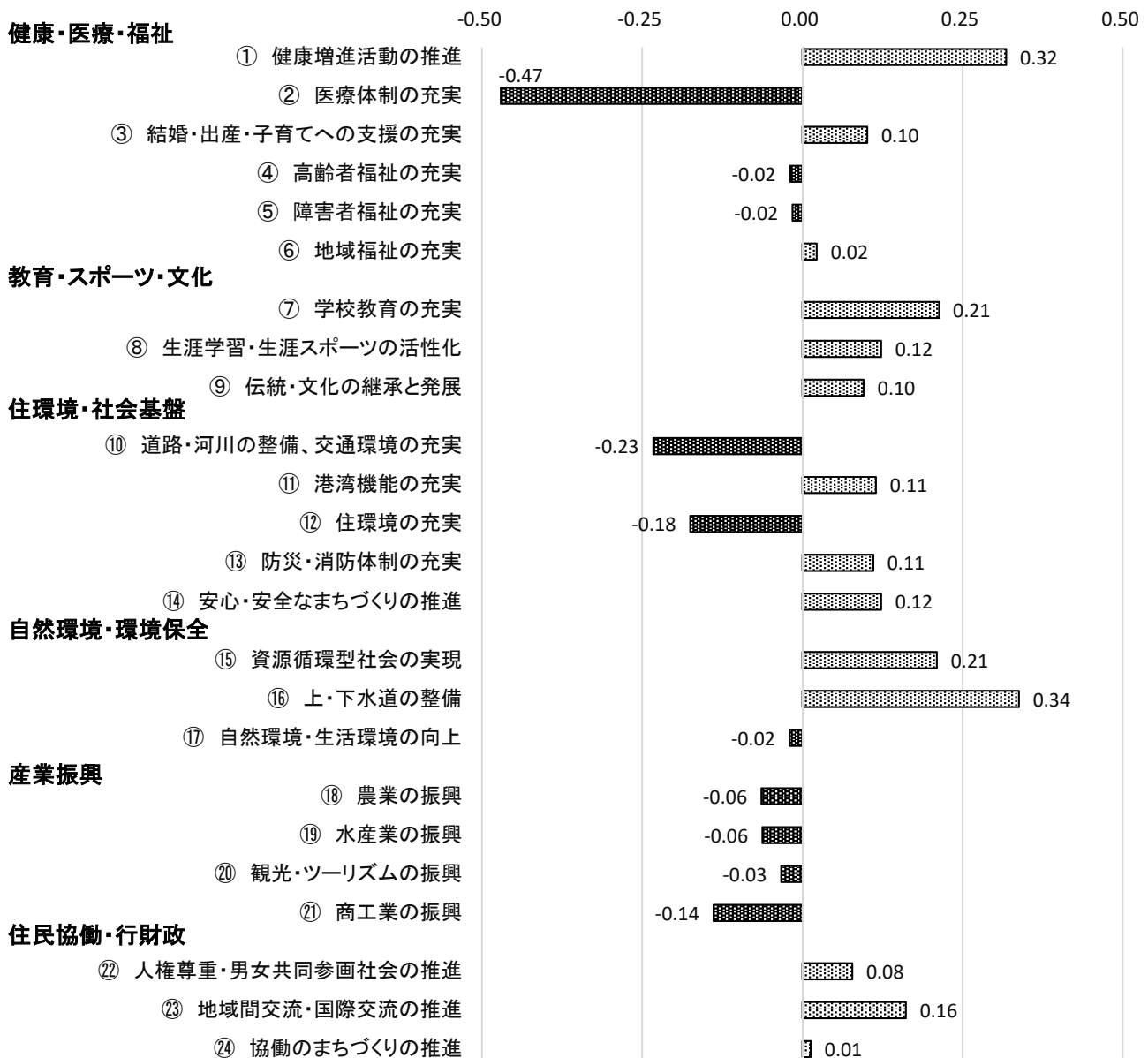
伊方町では、各分野で様々な施策を実施しております。伊方町が実施する取組について、これまでの「満足度」と、これからの「重要度」についてあなたのお考えに一番近い番号を選んでください。

(項目ごとに○は1つ)

■ これまでの「満足度」指標

「満足度」が高いものは上位から、「上・下水道の整備」(0.34)、「健康増進活動の推進」(0.32)、「学校教育の充実」と「資源循環型社会の実現」が(0.21)となっています。

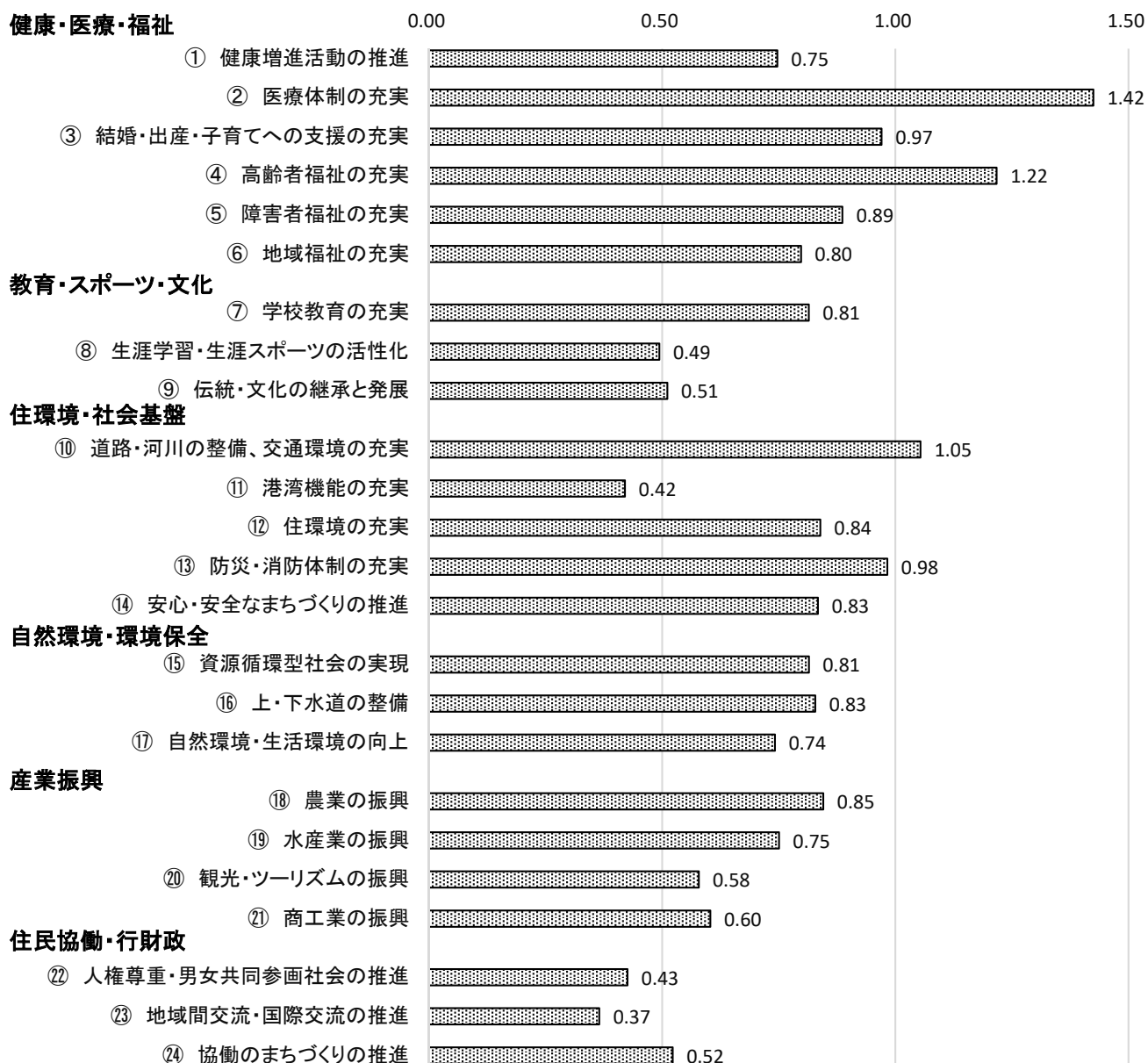
「満足度」が低いものは下位から「医療体制の充実」(-0.47)、「道路・河川の整備、交通環境の充実」(-0.23)、「住環境の充実」(-0.18)となっています。



■ これからの「重要度」指標

「重要度」が高いものは上位から、「医療体制の充実」(1.42)、「高齢者福祉の充実」(1.22)、「道路・河川の整備、交通環境の充実」(1.05)となっています。

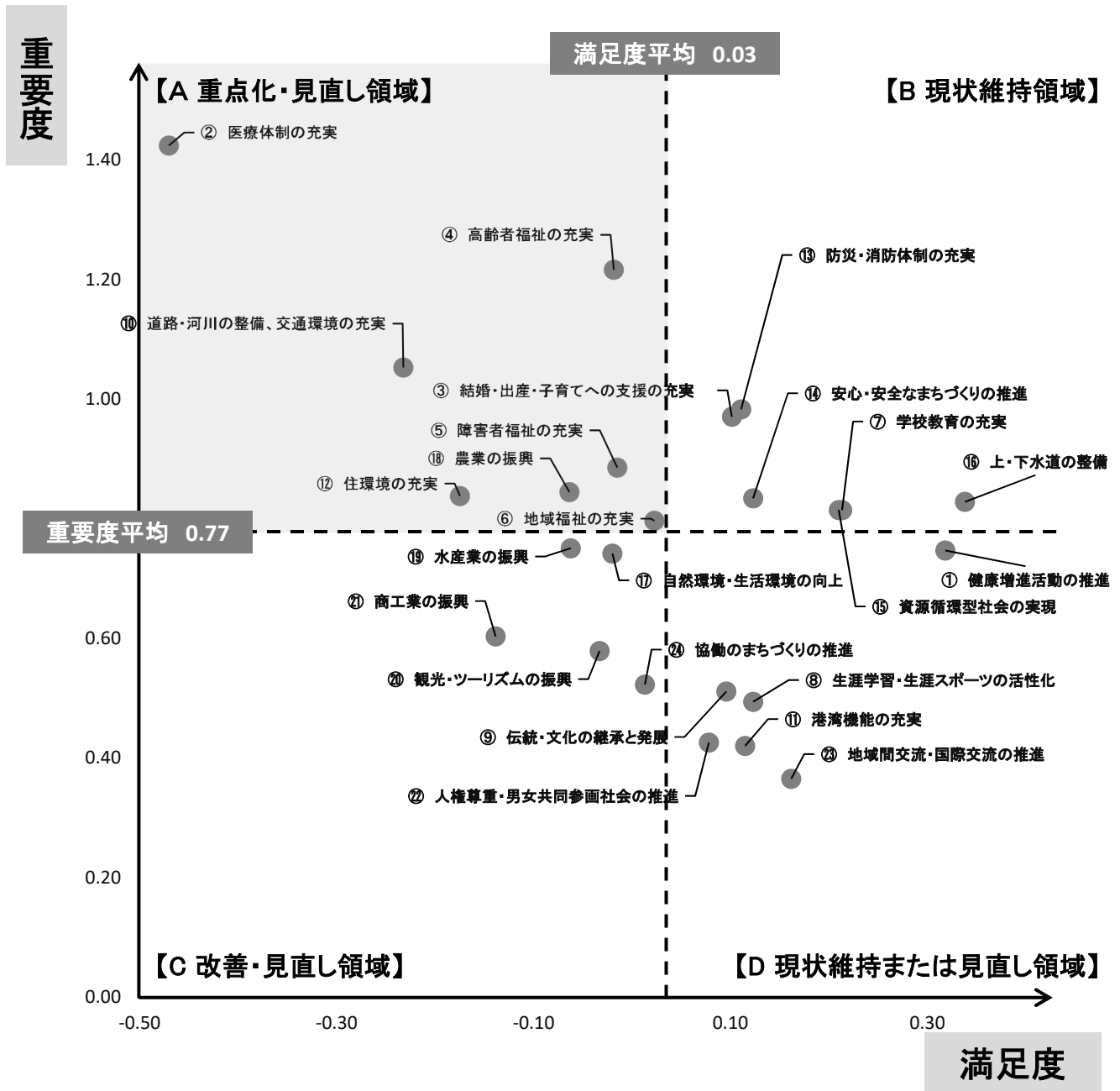
「重要度」が低いものは下位から「地域間交流・国際交流の推進」(0.37)、「港湾機能の充実」(0.42)、「人権尊重・男女共同参画社会の推進」(0.43)となっています。



■ 「満足度」と「重要度」の相関図

「満足度」が低い「医療体制の充実」(-0.47)、「道路・河川の整備、交通環境の充実」(-0.23)は「重要度」も高く、「重要度」は「医療体制の充実」(1.42)、「道路・河川の整備、交通環境の充実」(1.05)となっています。

他に、「高齢者福祉の充実」「障がい者福祉の充実」「住環境の充実」「農業の振興」「地域福祉の充実」が、A 重点化・見直し領域に入っています。



■ 現在の「満足度」とこれからの「重要度」、回答数と割合

		合計	現在の満足度						合計	これからの重要度					
			満足	ある程度満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	無回答		重要	ある程度重要	どちらとも言えない	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
保健・医療・福祉															
① 健康増進活動の推進	人数(人)	869	30	277	492	33	17	20	869	175	296	313	22	8	55
	割合(%)	100.0	3.5	31.9	56.6	3.8	2.0	2.3	100.0	20.1	34.1	36.0	2.5	0.9	6.3
② 医療体制の充実	人数(人)	869	14	107	314	301	118	15	869	471	239	110	1	3	45
	割合(%)	100.0	1.6	12.3	36.1	34.6	13.6	1.7	100.0	54.2	27.5	12.7	0.1	0.3	5.2
③ 結婚・出産・子育てへの支援の充実	人数(人)	869	18	198	507	83	33	30	869	267	270	269	8	2	53
	割合(%)	100.0	2.1	22.8	58.3	9.6	3.8	3.5	100.0	30.7	31.1	31.0	0.9	0.2	6.1
④ 高齢者福祉の充実	人数(人)	869	12	183	480	127	48	19	869	371	275	168	6	4	45
	割合(%)	100.0	1.4	21.1	55.2	14.6	5.5	2.2	100.0	42.7	31.6	19.3	0.7	0.5	5.2
⑤ 障害者福祉の充実	人数(人)	869	12	115	606	80	36	20	869	252	239	316	10	3	49
	割合(%)	100.0	1.4	13.2	69.7	9.2	4.1	2.3	100.0	29.0	27.5	36.4	1.2	0.3	5.6
⑥ 地域福祉の充実	人数(人)	869	13	125	610	74	29	18	869	199	278	327	13	4	48
	割合(%)	100.0	1.5	14.4	70.2	8.5	3.3	2.1	100.0	22.9	32.0	37.6	1.5	0.5	5.5
教育・スポーツ・文化															
⑦ 学校教育の充実	人数(人)	869	28	239	483	73	21	25	869	209	260	335	5	5	55
	割合(%)	100.0	3.2	27.5	55.6	8.4	2.4	2.9	100.0	24.1	29.9	38.6	0.6	0.6	6.3
⑧ 生涯学習・生涯スポーツの活性化	人数(人)	869	25	180	537	82	22	23	869	105	243	426	34	8	53
	割合(%)	100.0	2.9	20.7	61.8	9.4	2.5	2.6	100.0	12.1	28.0	49.0	3.9	0.9	6.1
⑨ 伝統・文化の継承と発展	人数(人)	869	11	160	594	63	19	22	869	118	236	418	33	11	53
	割合(%)	100.0	1.3	18.4	68.4	7.2	2.2	2.5	100.0	13.6	27.2	48.1	3.8	1.3	6.1
住環境・社会基盤															
⑩ 道路・河川の整備、交通環境の充実	人数(人)	869	19	156	373	207	92	22	869	285	305	213	11	2	53
	割合(%)	100.0	2.2	18.0	42.9	23.8	10.6	2.5	100.0	32.8	35.1	24.5	1.3	0.2	6.1
⑪ 港湾機能の充実	人数(人)	869	26	167	557	68	27	24	869	122	178	452	44	18	55
	割合(%)	100.0	3.0	19.2	64.1	7.8	3.1	2.8	100.0	14.0	20.5	52.0	5.1	2.1	6.3
⑫ 住環境の充実	人数(人)	869	10	116	498	169	58	18	869	203	310	287	15	6	48
	割合(%)	100.0	1.2	13.3	57.3	19.4	6.7	2.1	100.0	23.4	35.7	33.0	1.7	0.7	5.5
⑬ 防災・消防体制の充実	人数(人)	869	22	200	511	82	34	20	869	268	288	253	7	5	48
	割合(%)	100.0	2.5	23.0	58.8	9.4	3.9	2.3	100.0	30.8	33.1	29.1	0.8	0.6	5.5
⑭ 安心・安全なまちづくりの推進	人数(人)	869	17	176	557	69	19	31	869	216	265	318	12	3	55
	割合(%)	100.0	2.0	20.3	64.1	7.9	2.2	3.6	100.0	24.9	30.5	36.6	1.4	0.3	6.3
自然環境・環境保全															
⑮ 資源循環型社会の実現	人数(人)	869	21	255	478	80	19	16	869	191	311	298	15	5	49
	割合(%)	100.0	2.4	29.3	55.0	9.2	2.2	1.8	100.0	22.0	35.8	34.3	1.7	0.6	5.6
⑯ 上・下水道の整備	人数(人)	869	54	288	421	63	23	20	869	203	290	314	12	2	48
	割合(%)	100.0	6.2	33.1	48.4	7.2	2.6	2.3	100.0	23.4	33.4	36.1	1.4	0.2	5.5
⑰ 自然環境・生活環境の向上	人数(人)	869	18	137	539	118	36	21	869	171	288	346	11	5	48
	割合(%)	100.0	2.1	15.8	62.0	13.6	4.1	2.4	100.0	19.7	33.1	39.8	1.3	0.6	5.5
産業振興															
⑱ 農業の振興	人数(人)	869	11	93	600	113	28	24	869	210	290	300	12	4	53
	割合(%)	100.0	1.3	10.7	69.0	13.0	3.2	2.8	100.0	24.2	33.4	34.5	1.4	0.5	6.1
⑲ 水産業の振興	人数(人)	869	8	90	621	103	28	19	869	182	277	338	15	6	51
	割合(%)	100.0	0.9	10.4	71.5	11.9	3.2	2.2	100.0	20.9	31.9	38.9	1.7	0.7	5.9
⑳ 観光・ツーリズムの振興	人数(人)	869	10	119	578	111	28	23	869	139	267	358	39	16	50
	割合(%)	100.0	1.2	13.7	66.5	12.8	3.2	2.6	100.0	16.0	30.7	41.2	4.5	1.8	5.8
㉑ 商工業の振興	人数(人)	869	6	59	628	114	37	25	869	140	257	382	24	11	55
	割合(%)	100.0	0.7	6.8	72.3	13.1	4.3	2.9	100.0	16.1	29.6	44.0	2.8	1.3	6.3
住民協働・行財政															
㉒ 人権尊重・男女共同参画社会の推進	人数(人)	869	19	114	643	56	15	22	869	98	205	474	34	9	49
	割合(%)	100.0	2.2	13.1	74.0	6.4	1.7	2.5	100.0	11.3	23.6	54.5	3.9	1.0	5.6
㉓ 地域間交流・国際交流の推進	人数(人)	869	23	147	635	30	13	21	869	91	202	457	53	16	50
	割合(%)	100.0	2.6	16.9	73.1	3.5	1.5	2.4	100.0	10.5	23.2	52.6	6.1	1.8	5.8
㉔ 協働のまちづくりの推進	人数(人)	869	10	100	647	71	19	22	869	114	245	423	29	8	50
	割合(%)	100.0	1.2	11.5	74.5	8.2	2.2	2.5	100.0	13.1	28.2	48.7	3.3	0.9	5.8

4. 「次の5年のまちづくり」について

問8 まちづくりの「今後の方向性」について

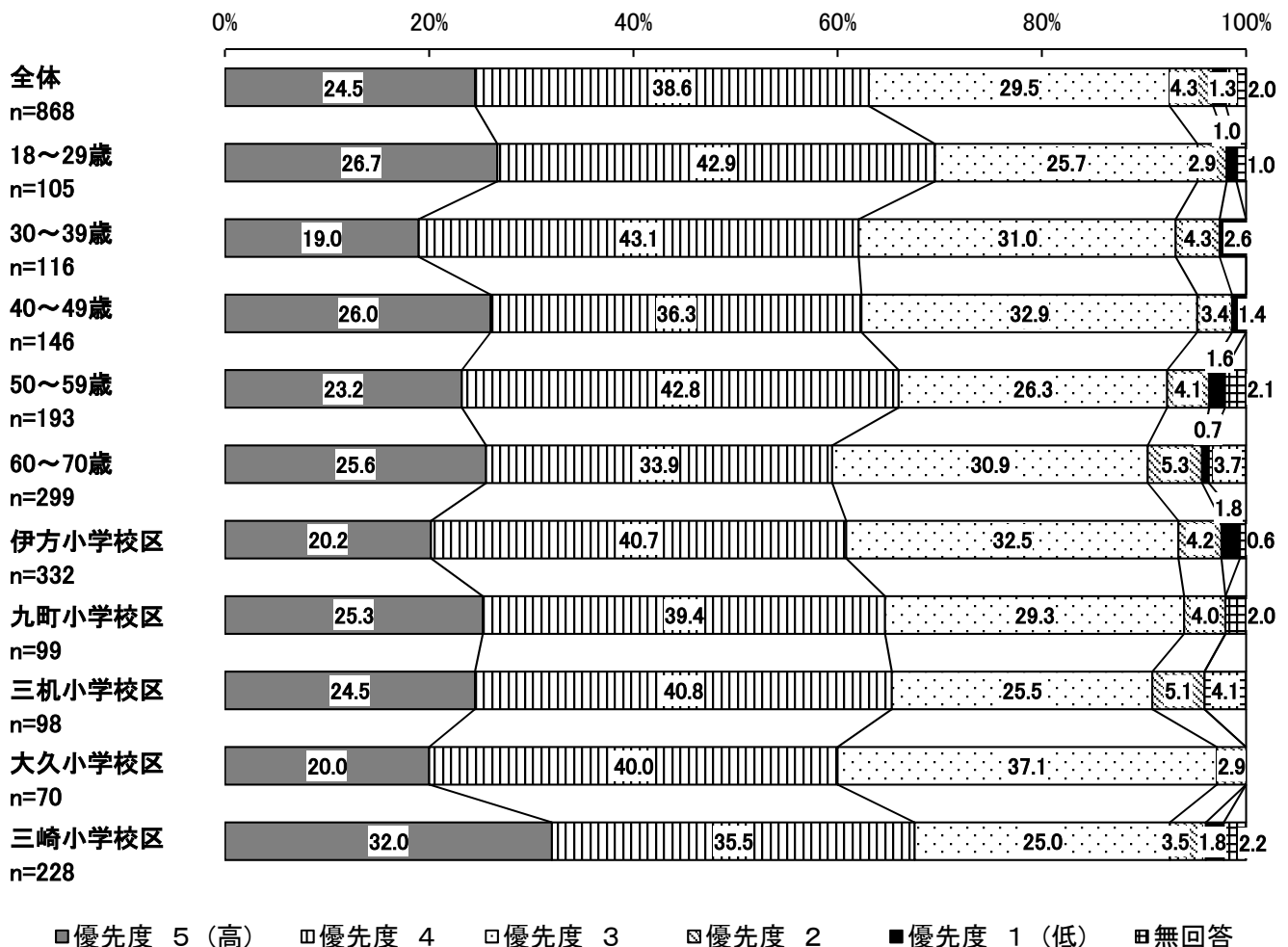
伊方町のまちづくりの「今後の方向性」について、あなたが考える各分野のまちづくりの優先度をお聞きします。(項目ごとに○は1つ)

(1) 自然

自然分野全体をみると、「優先度5」と「優先度4」の割合の合計は、「① 海、山、段々畑等をきれいに残したまち」63.1%、「② 段々畑が美しく農業が活発なまち」58.8%、「③ 海や海辺が美しく漁業が活発なまち」63.4%となっています。

① 海、山、段々畑等をきれいに残したまち

全体でみると、「優先度5」と「優先度4」の割合の合計は63.1%となっています。
 年齢別にみると、「優先度5」と「優先度4」の割合の合計は、「18～29歳」で69.6%と最も高く、次いで「50～59歳」で66.0%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度5」と「優先度4」の割合の合計は、「三崎小学校区」で67.5%と最も高く、次いで「三机小学校区」で65.3%となっています。

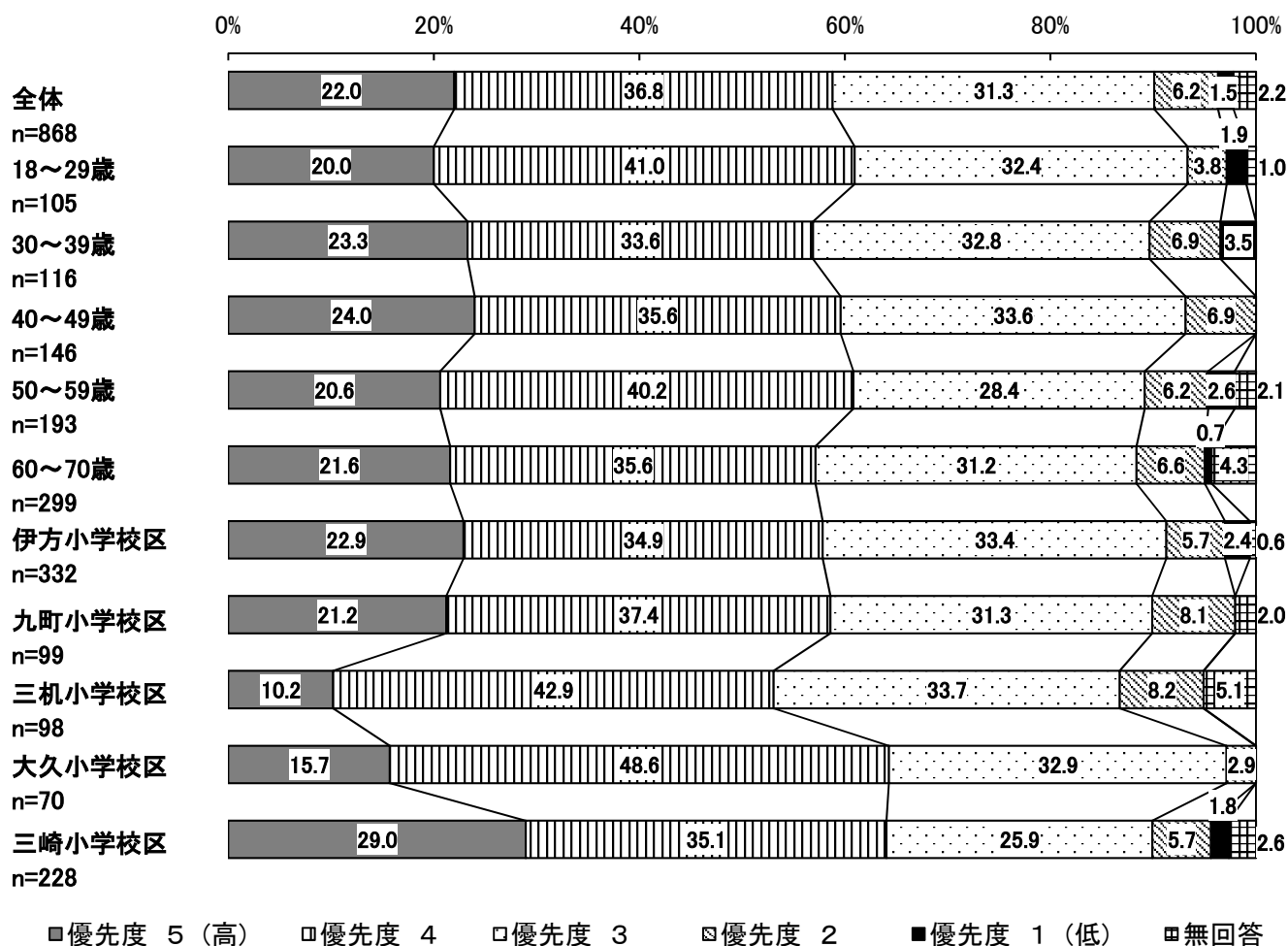


② 段々畑が美しく農業が活発なまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 58.8%となっています。

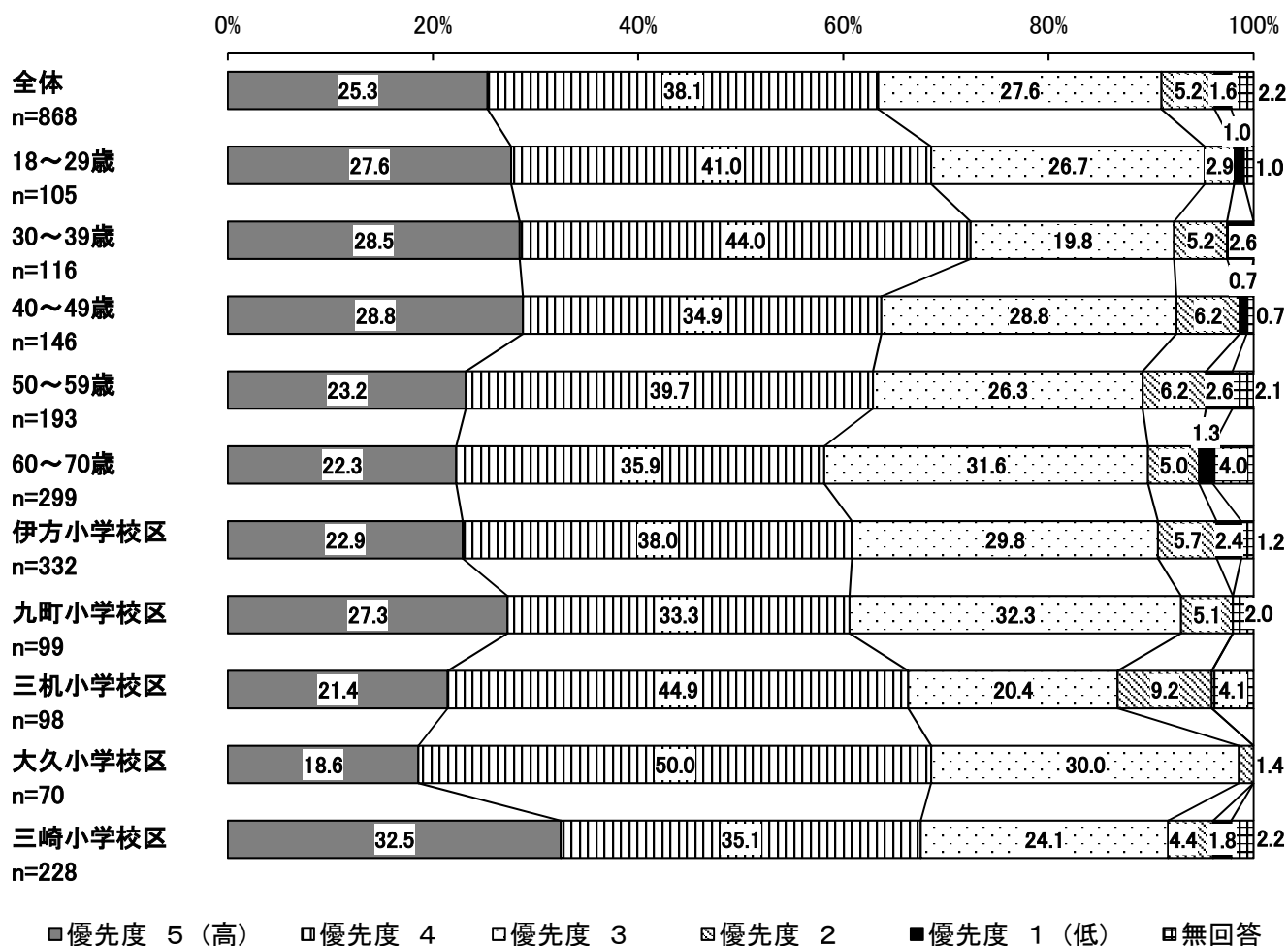
年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 61.0%と最も高く、次いで「50～59 歳」で 60.8%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「大久小学校区」で 64.3%と最も高く、次いで「三崎小学校区」で 64.1%となっています。



③ 海や海辺が美しく漁業が活発なまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 63.4%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「30～39 歳」で 72.5%と最も高く、次いで「18～29 歳」で 68.6%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「大久小学校区」で 68.6%と最も高く、次いで「三崎小学校区」で 67.6%となっています。



残したい自然、場所

- ・ 亀ヶ池温泉と周りの自然 ・ 黒島 ・ 高茂草原 ・ 須賀公園 ・ 須賀神社付近
- ・ 三机須賀公園の九軍神関連。きれいな海岸線特に本当の砂浜（よその砂浜に行くことがあった時、砂でなく土と感じたことがあったから）
- ・ アグリトピアと風の丘パークはとて素晴らしいと思うのでぜひ残してほしいです。
- ・ 川之浜の砂浜いつもきれい。 ・ 青い石垣、三机の内湾、大久の砂浜 ・ 見晴山の自然
- ・ 大久の展望台等から見える美しい海、景色。ドライブがてらに来る人に良く見えるように美しいところは木を切って見えやすい様にすればもっと楽しめるのではないかと、思います
- ・ 正野地区の正野浜の軍艦波礎。
- ・ 高神様、二名津道の鳥越峠の地蔵さんと水呑み場、御津ヶ浜、伽監山登山道、大鳥、小鳥、童子鼻、白波、長浜。

- ・佐田岬灯台、灯台周辺の自然、山桜 ・伽藍山、浜と山
- ・長浜等浜。阿弥陀池。あこう樹。 ・三崎トンネルから三崎高校の間の桜並木
- ・大佐田地区の神社の石垣 ・ムーンビーチ ・三崎港 ・三崎～高浦の海辺
- ・明神のすべりが何年も壊れたままになっている。区長さんも言うらしいのですが取り合ってくれない。お盆にはささ舟を流す重要な所と考える。高齢者や子どもが転んだらと心配する。直してほしい。
- ・街並みや石垣等の自然 ・海、海岸線の光景 ・名勝 ・美しい景色
- ・美しい海と山に感動しました。整備しながら残していったほしい。
- ・段々畑、ハウスでの柑橘栽培。ミカン山。 ・佐田岬半島全体の自然
- ・生活と結びついた自然環境（里山、里海） ・風車、島、石垣、城跡
- ・伊方町すべて ・メロディラインの休憩所
- ・一面の菜の花、みかんの花にミツバチが訪れる景色。
- ・ツワブキの生えている所や海産物が採れる海は今のまま残してほしい。
- ・道の駅 ・歴史建築物 ・各地区神社、お寺
- ・町内で先人が築いた道（農作業で通行した道）無理な頼みかもしれない。
- ・風車を含めた景観 ・堂堂山
- ・砂浜、海岸（近年は埋め立て等により、砂浜が減少している。貴重な財産でもあるのに、積極的に残してほしい）
- ・まだまだ自然は残っていますが、我家の竹林、高齢者ばかり自分の家の回り、公園、みんなで維持していくのはとても大変です。自然を綺麗に維持して住みやすくするのはとても大変です。
- ・国道県道にはみ出した雑木や雑草を整備してほしい。側溝に溜まった落ち葉をきれいにしてほしい。
- ・今は目の前に海が見られなくなって残念です。
- ・風車が見苦しい。これ以上増えてほしくない。
- ・伊方町は第一次産業と観光で生き延びていくしかない。しかし、現実には厳しい、行政がバックアップしても衰退に追いつかない。
- ・川、年に1回の掃除ではきれいにできない。大雨の時の心配。きれいに水が流れる川を維持してほしい。

(2) 産業経済

産業経済分野全体をみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「① エネルギー産業が活発なまち」36.7%、「② 農産加工、水産加工、6次産業が活発なまち」58.6%、「③ サービス産業や商業が身近にあるまち」47.4%、「④ 外国人観光客が訪れるまち」16.3%、「⑤ 多くの観光客が訪れ、交流が盛んなまち」33.2%、「⑥ 道の駅などの観光施設が充実したまち」46.5%、「⑦ フェリー航路、道路などが充実し、交通の要衝として人の交流が活発なまち」54.2%となっています。

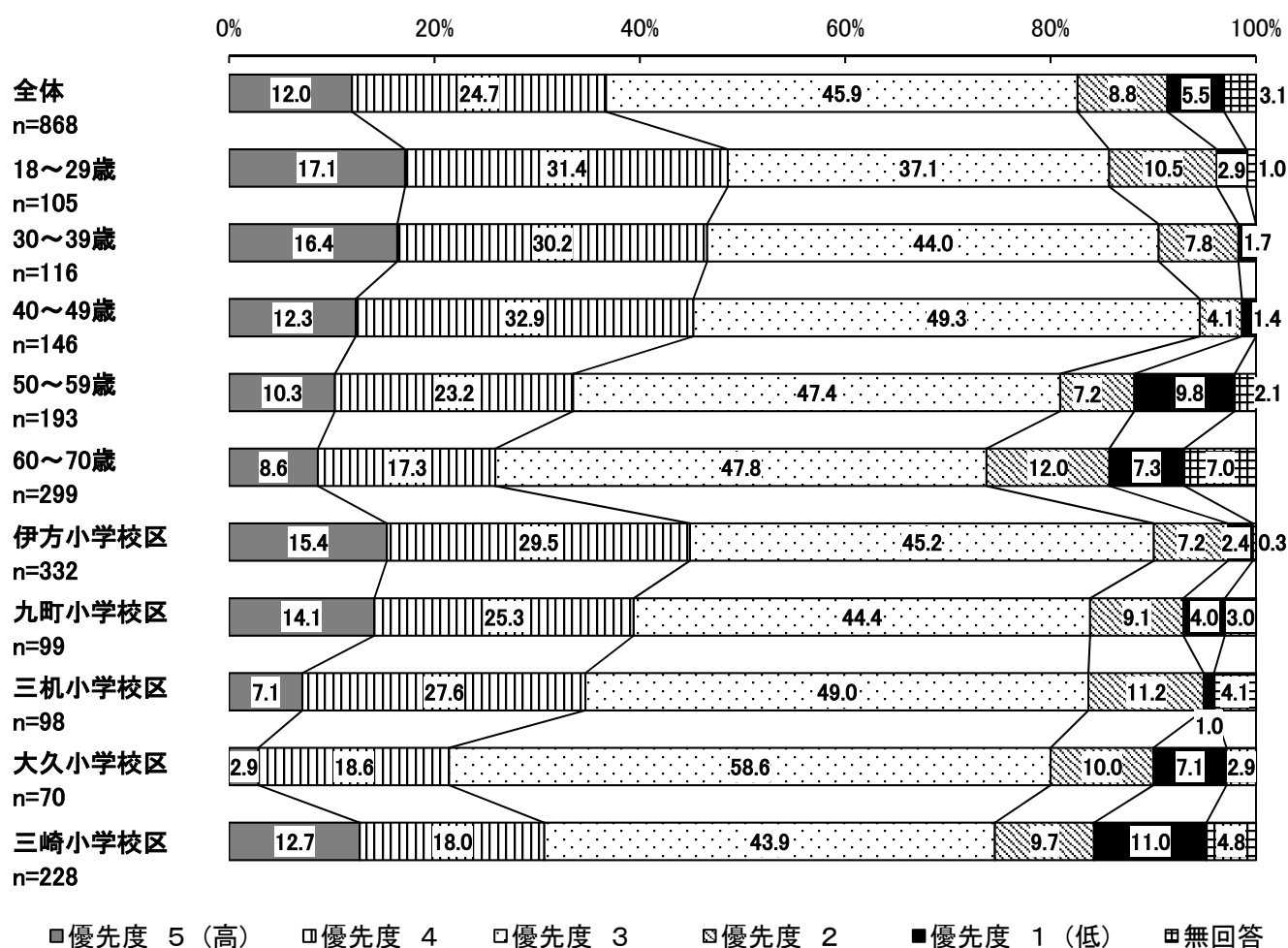
「② 農産加工、水産加工、6次産業が活発なまち」で優先度が高く、「④ 外国人観光客が訪れるまち」で優先度が低くなっています。

① エネルギー産業が活発なまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 36.7%となっています。

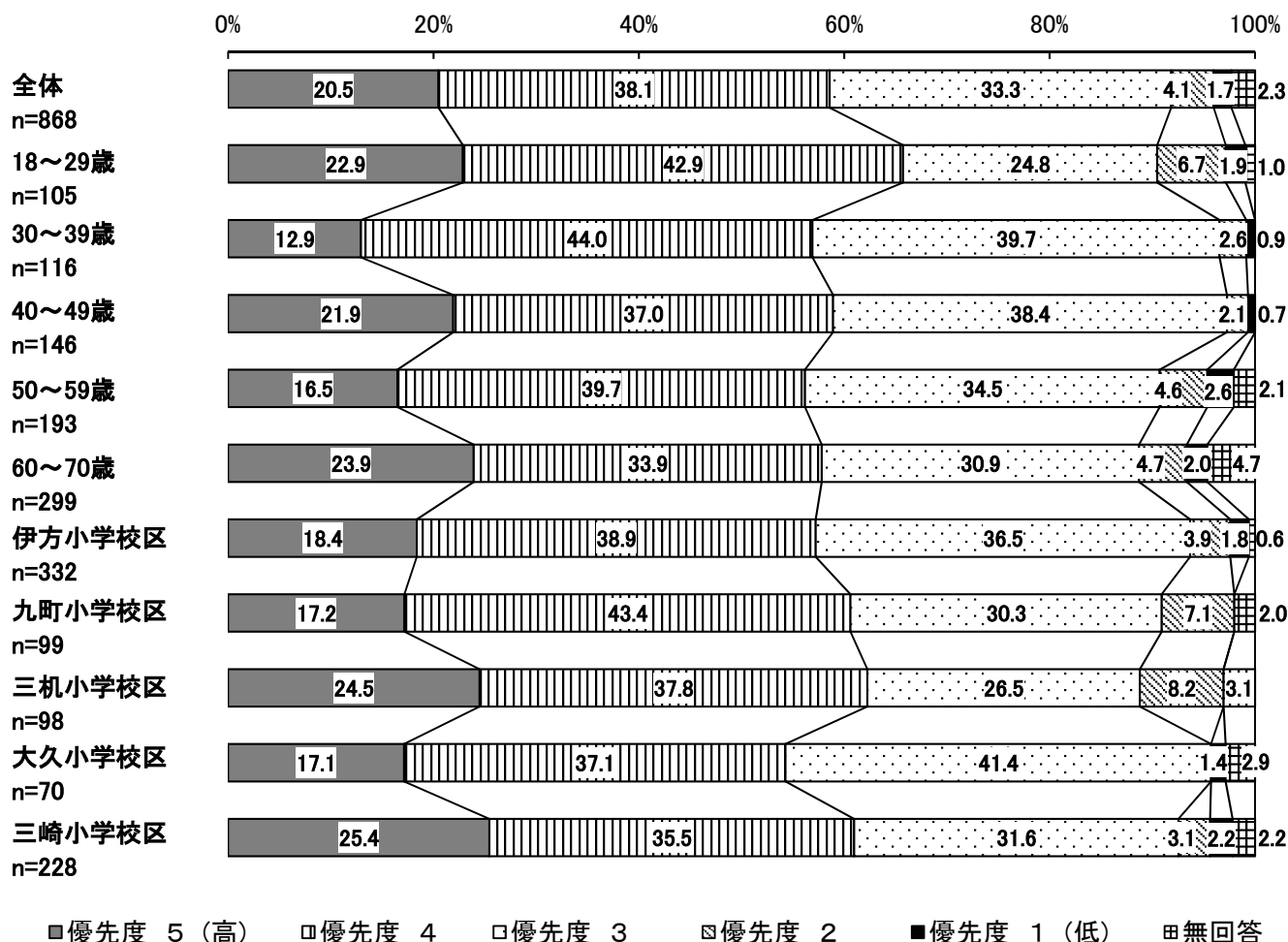
年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、年齢が高くなるほど低く、「18歳～29歳」では 48.5%、「60～70歳」では 25.9%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 44.9%と最も高く、「大久小学校区」で 21.5%と最も低くなっています。



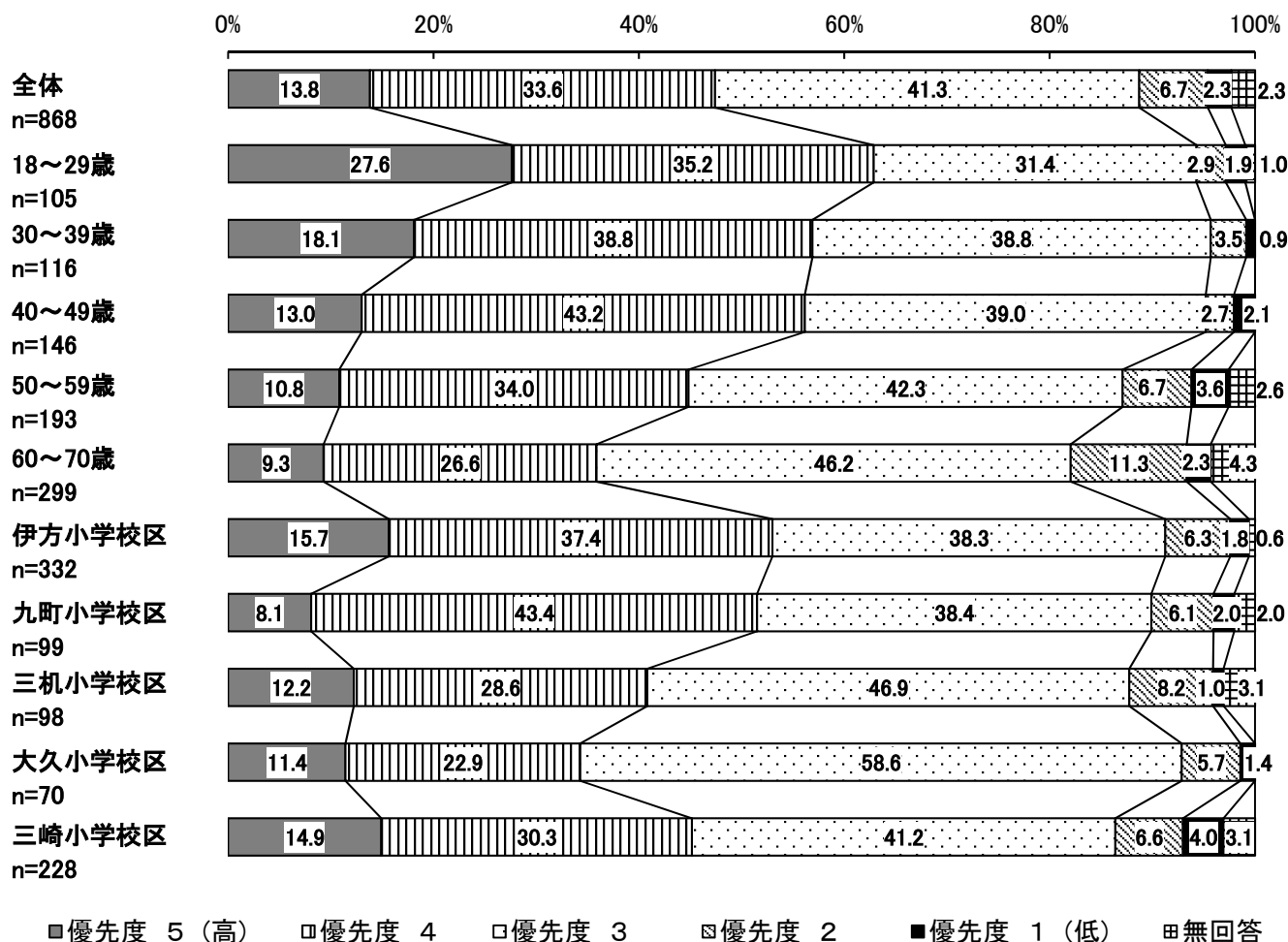
② 農産加工、水産加工、6次産業が活発なまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 58.6%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 65.8%と最も高く、次いで「40～49 歳」で 58.9%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「三机小学校区」で 62.3%と最も高く、次いで「三崎小学校区」で 60.9%となっています。



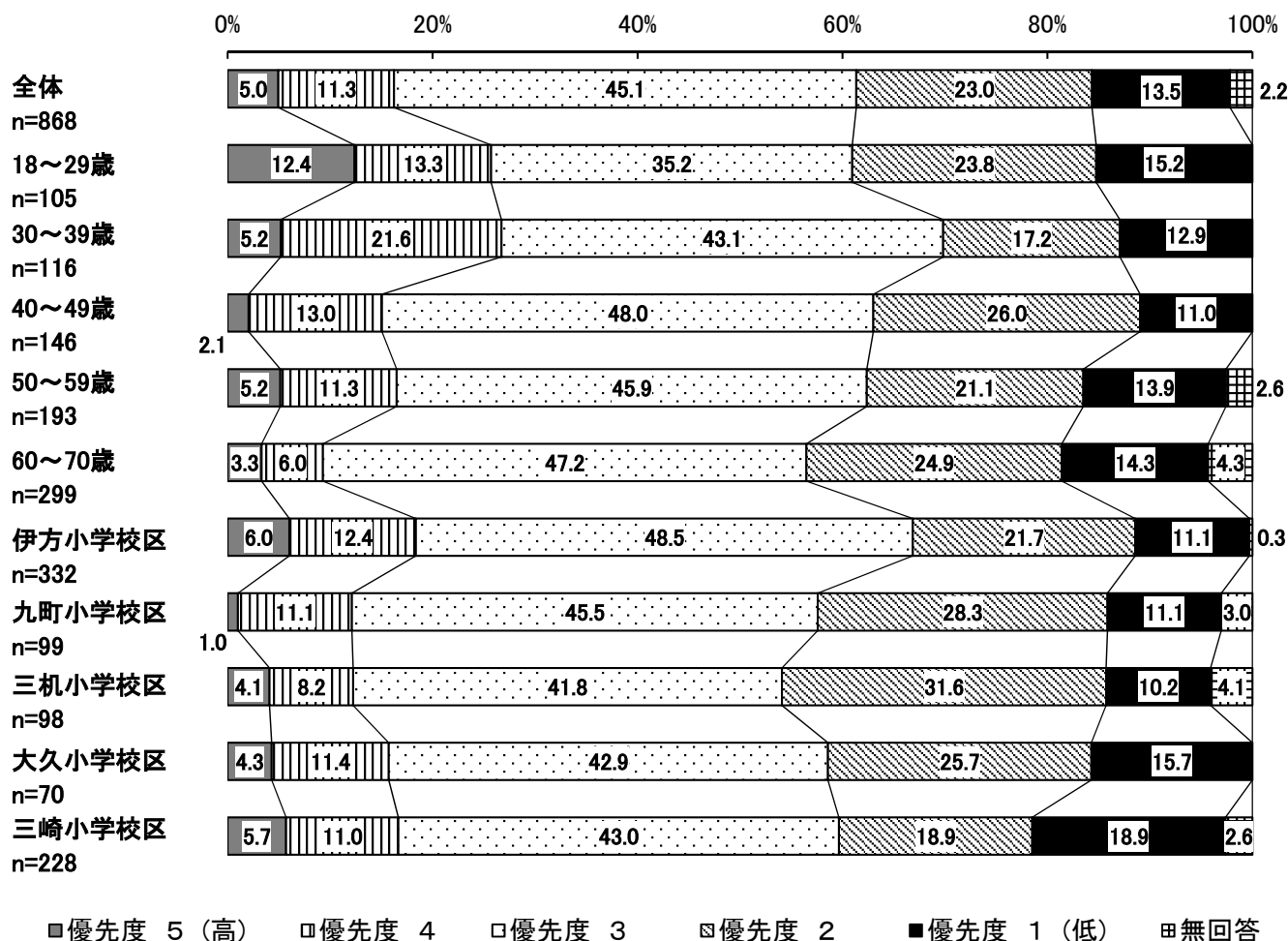
③ サービス産業や商業が身近にあるまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 47.4%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、年齢が高くなるほど低く、「18 歳～29 歳」では 62.8%、「60～70 歳」では 35.9%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 53.1%と最も高く、「大久小学校区」で 34.3%と最も低くなっています。



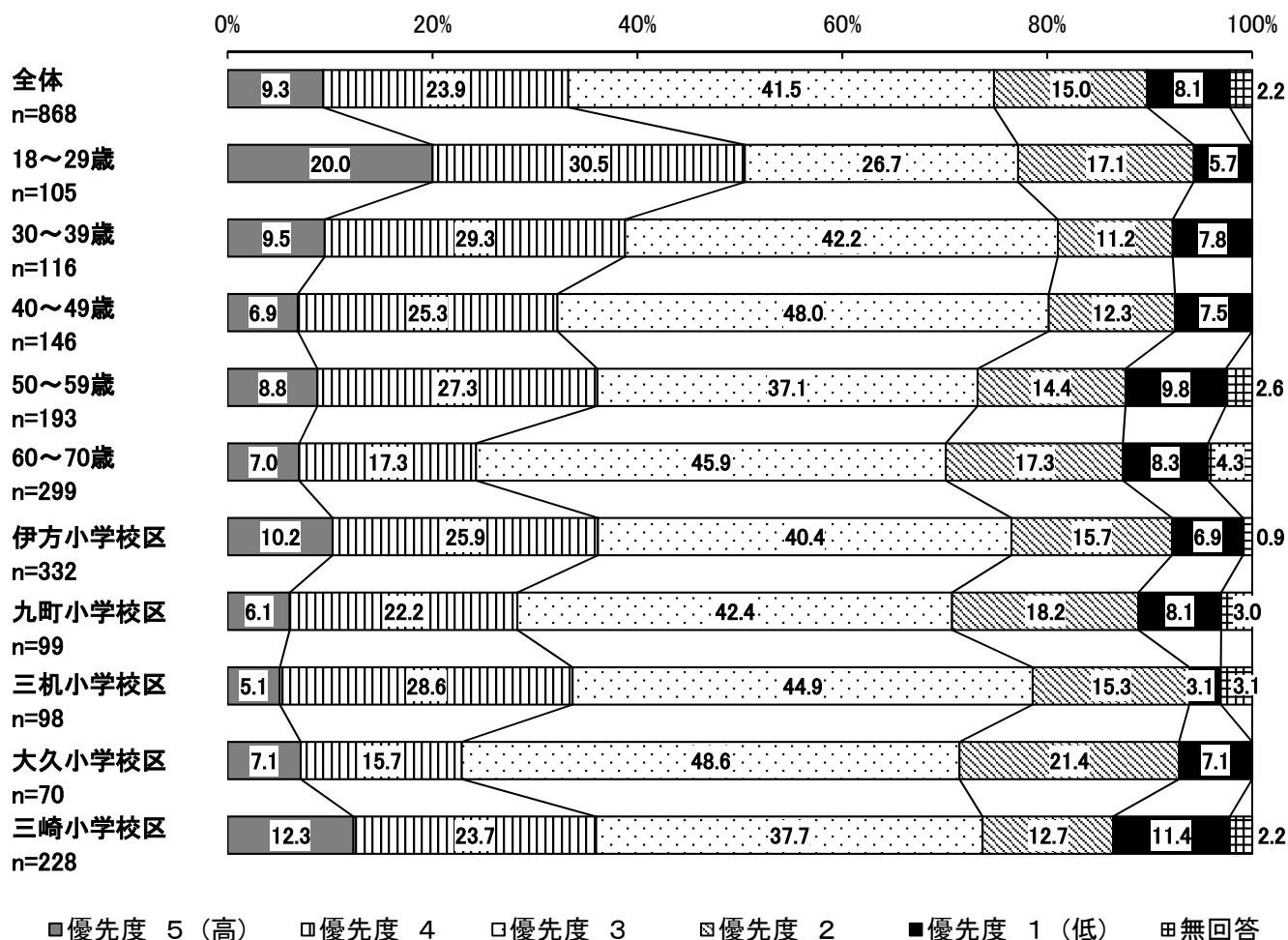
④ 外国人観光客が訪れるまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 16.3%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「30～39 歳」で 26.8%と最も高く、次いで「18～29 歳」で 25.7%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 18.4%と最も高く、次いで「三崎小学校区」で 16.7%となっています。



⑤ 多くの観光客が訪れ、交流が盛んなまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 33.2%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 50.5%と最も高く、次いで「30～39 歳」で 38.8%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 36.1%と最も高く、次いで「三崎小学校区」で 36.0%となっています。

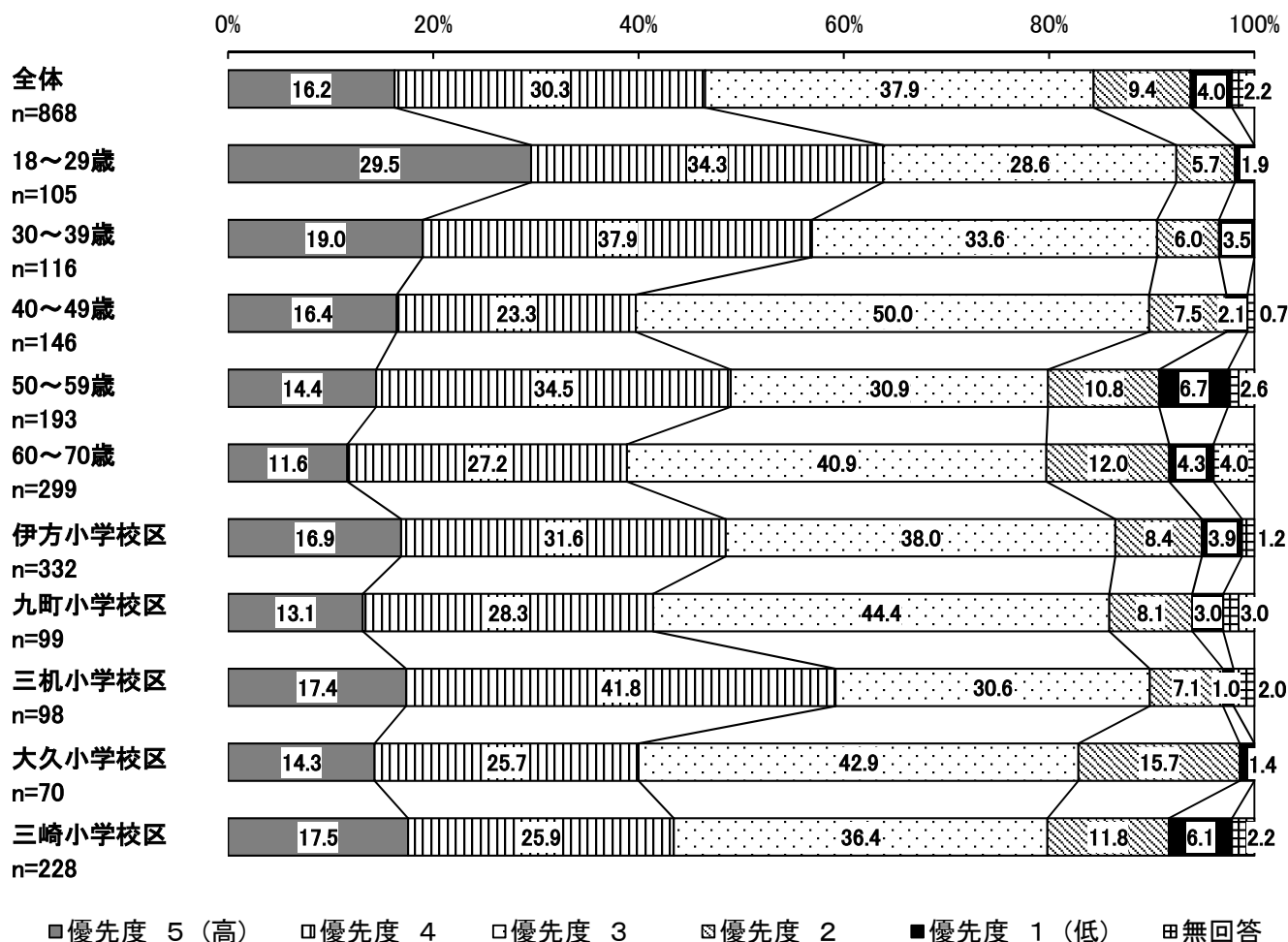


⑥ 道の駅などの観光施設が充実したまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 46.5%となっています。

年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 63.8%と最も高く、次いで「30～39 歳」で 56.9%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「三机小学校区」で 59.2%と最も高く、次いで「伊方小学校区」で 48.5%となっています。

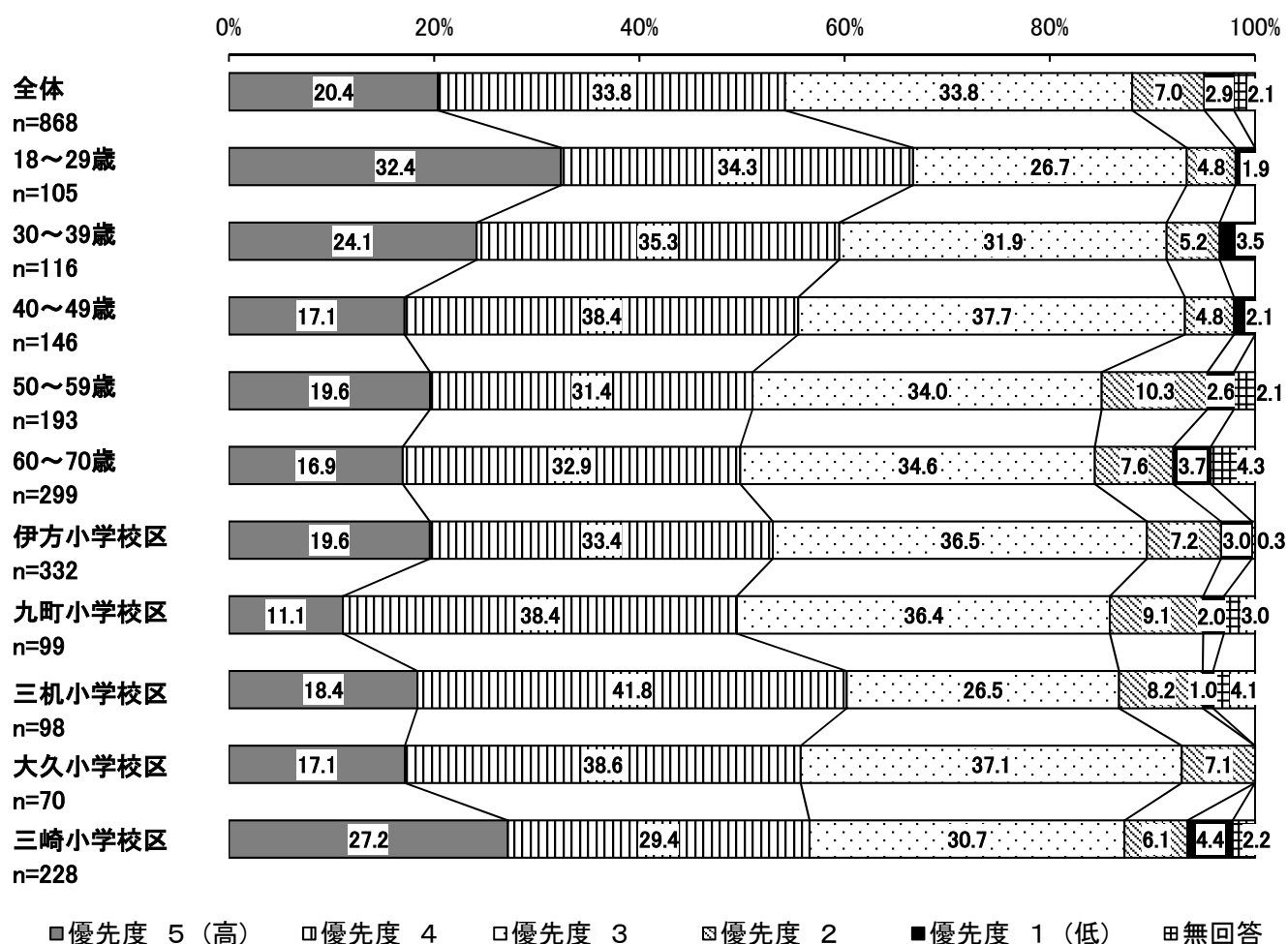


⑦ フェリー航路、道路などが充実し、交通の要衝として人の交流が活発なまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 54.2%となっています。

年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、年齢が高くなるほど低く、「18 歳～29 歳」では 66.7%、「60～70 歳」では 49.8%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「三机小学校区」で 60.2%と最も高く、次いで「三崎小学校区」で 56.6%となっています。



(3) 暮らし

暮らし分野全体をみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「① 福祉のまち」69.8%、「② 快適な暮らしの環境があるまち」73.5%、「③ 医療・福祉・健康対策が充実したまち」82.5%、「④ 健康づくりやスポーツ活動が盛んなまち」43.2%、「⑤ 地域文化・伝統や地域の行事を継承した文化のまち」42.4%、となっています。

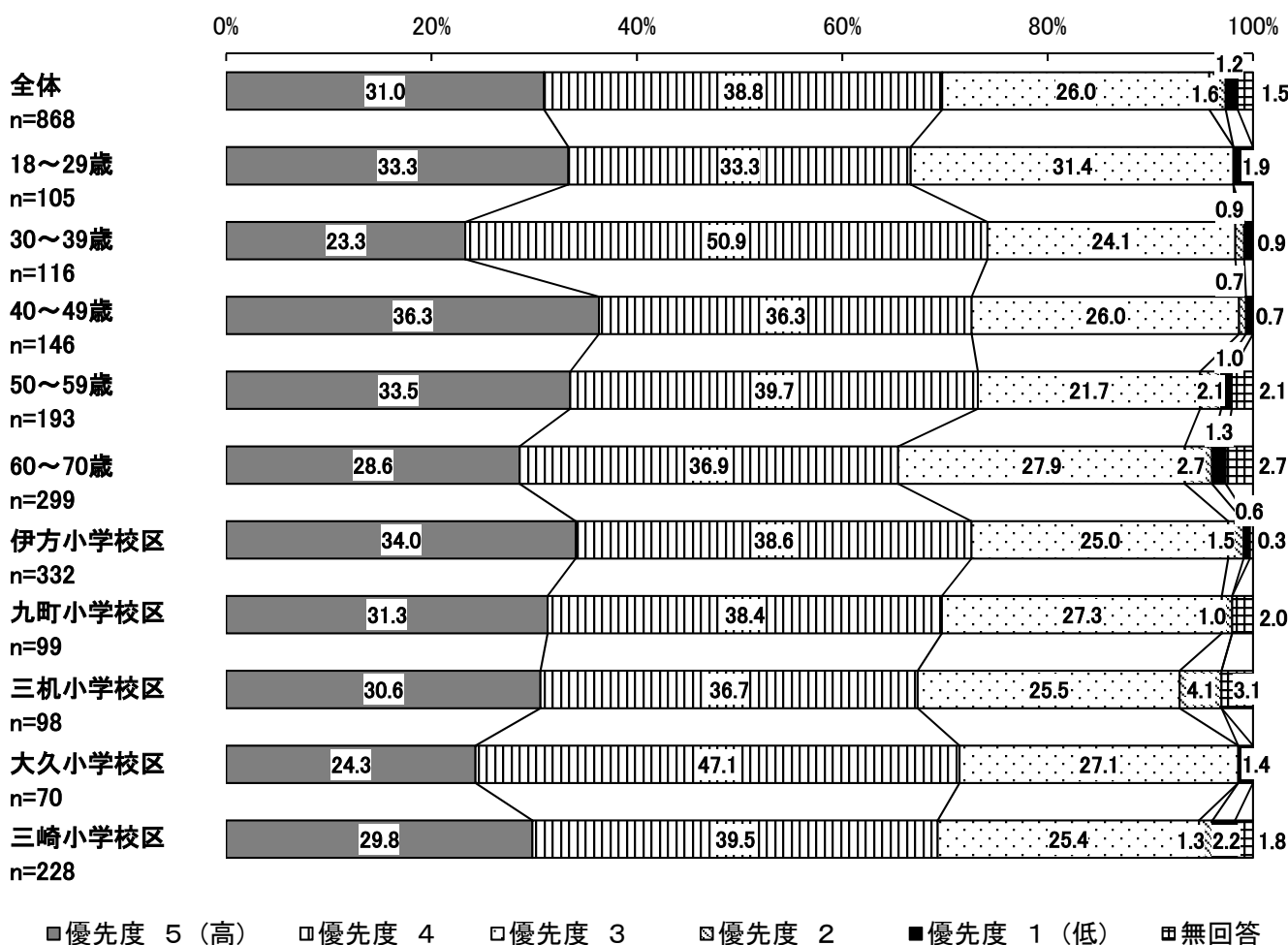
「③ 医療・福祉・健康対策が充実したまち」については、8 割以上の人々が、「優先度 5」または「優先度 4」と回答しており、福祉、医療分野で優先度が高くなっています。

① 福祉のまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 69.8%となっています。

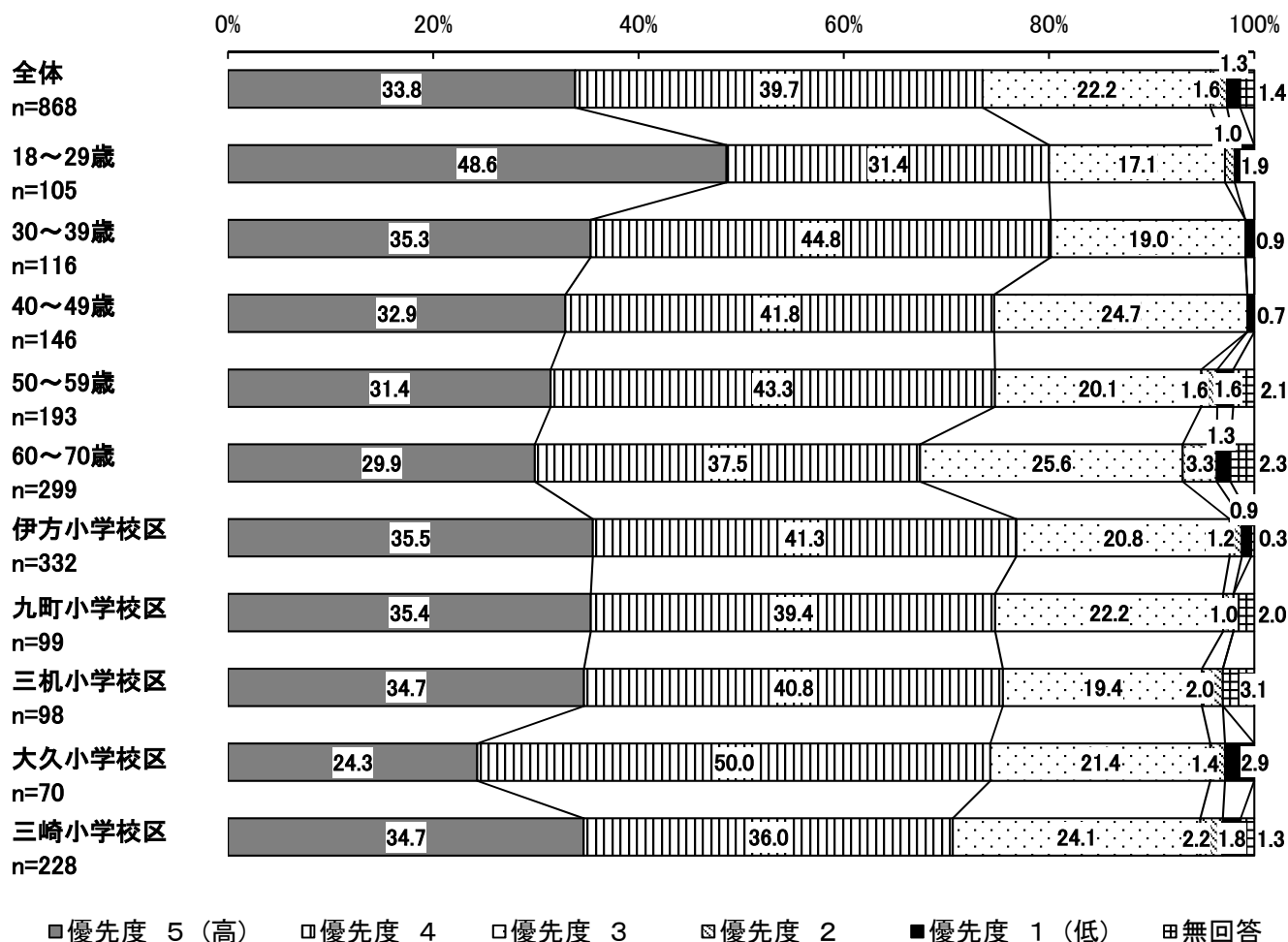
年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「30～39 歳」で 74.2%と最も高く、次いで「50～59 歳」で 73.2%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 72.6%と最も高く、次いで「大久小学校区」で 71.4%となっています。



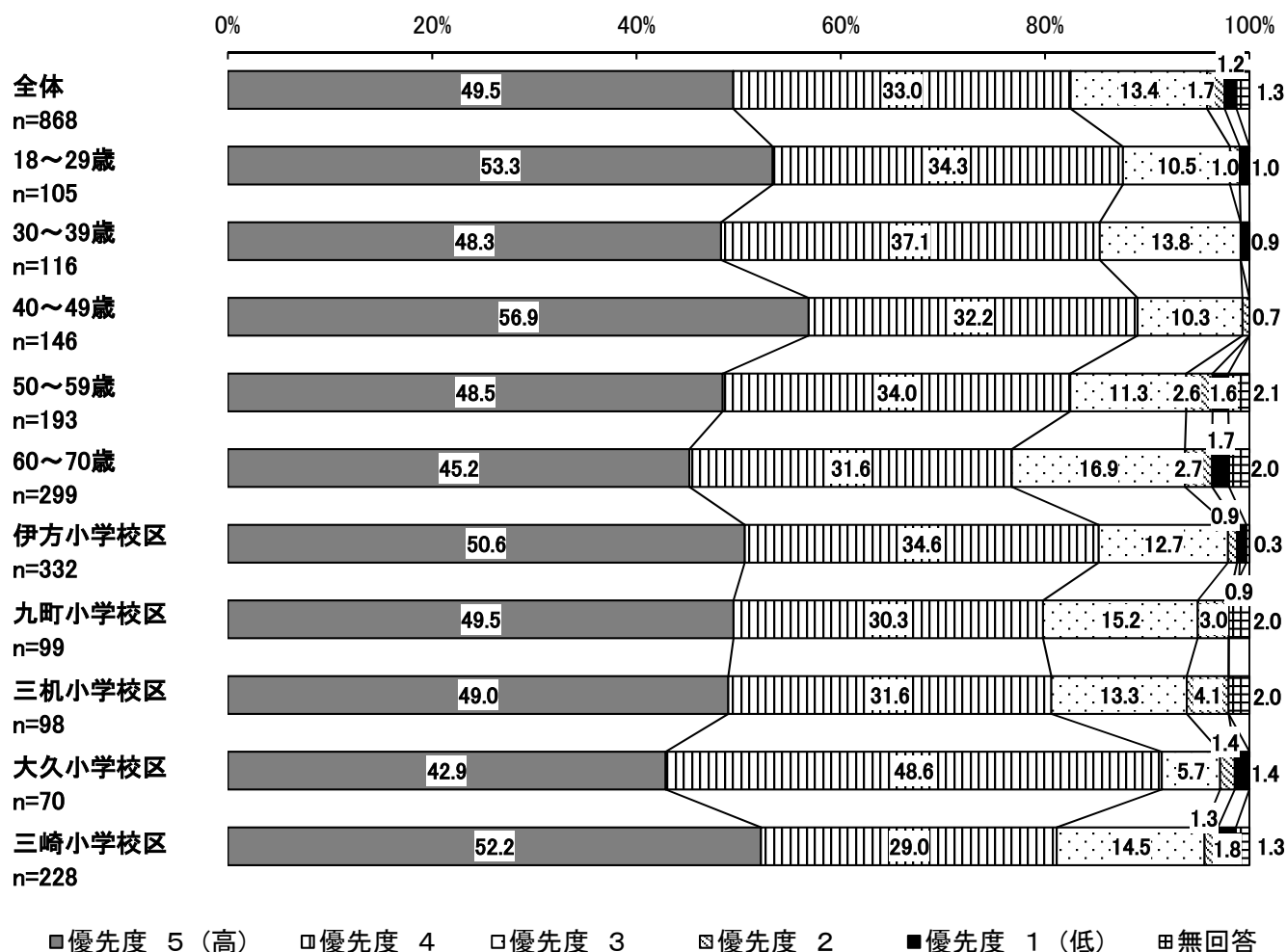
② 快適な暮らしの環境があるまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 73.5%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、年齢が高くなるほど低く、「18 歳～29 歳」では 80.0%、「60～70 歳」では 67.4%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 76.8%と最も高く、次いで「三机小学校区」で 75.5%となっています。



③ 医療・福祉・健康対策が充実したまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 82.5%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「40～49 歳」で 89.1%と最も高く、次いで「18～29 歳」で 87.6%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「大久小学校区」で 91.5%と最も高く、次いで「伊方小学校区」で 85.2%となっています。

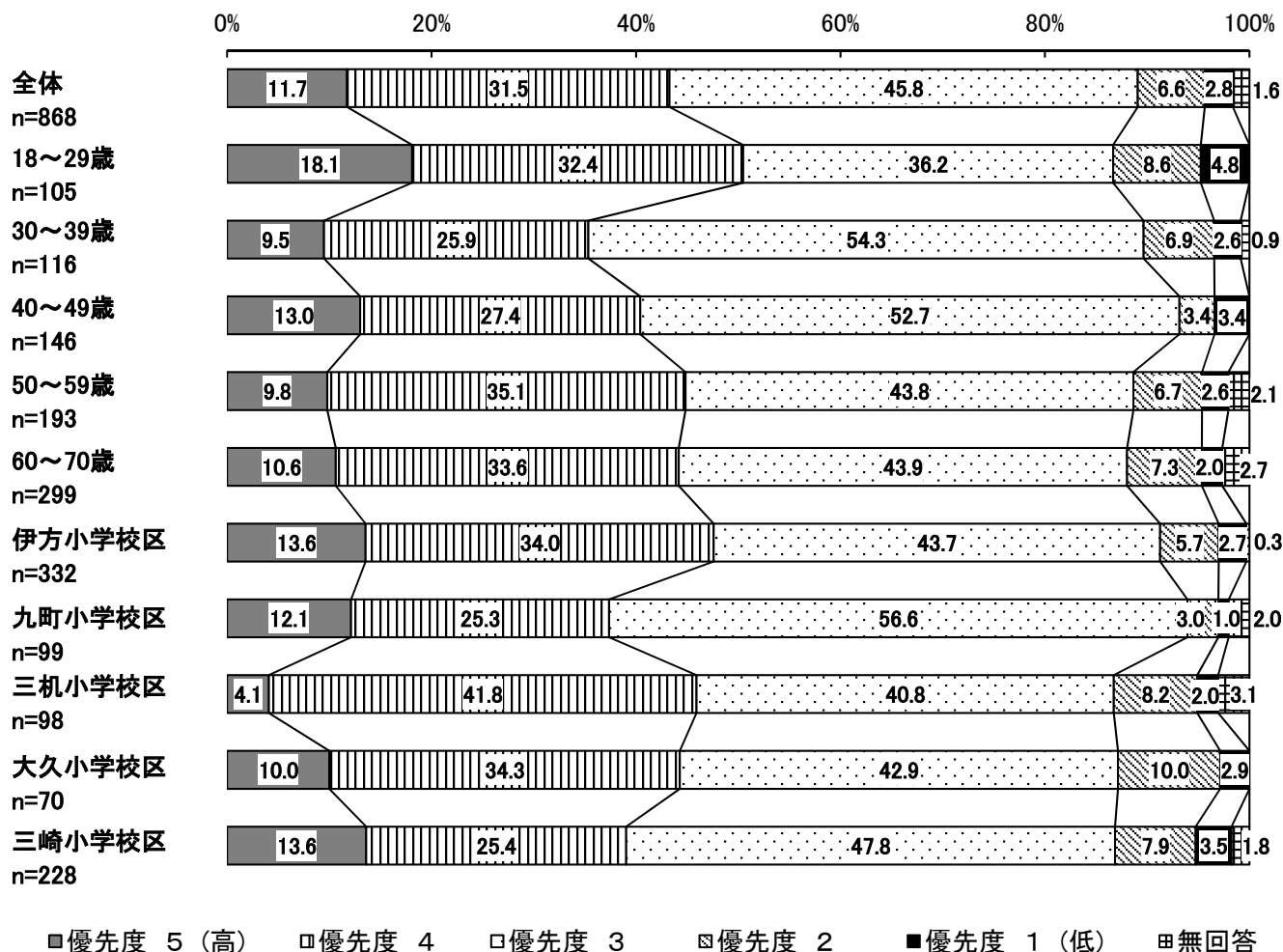


④ 健康づくりやスポーツ活動が盛んなまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 43.2%となっています。

年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 50.5%と最も高く、次いで「50～59 歳」で 44.9%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「伊方小学校区」で 47.6%と最も高く、次いで「三机小学校区」で 45.9%となっています。

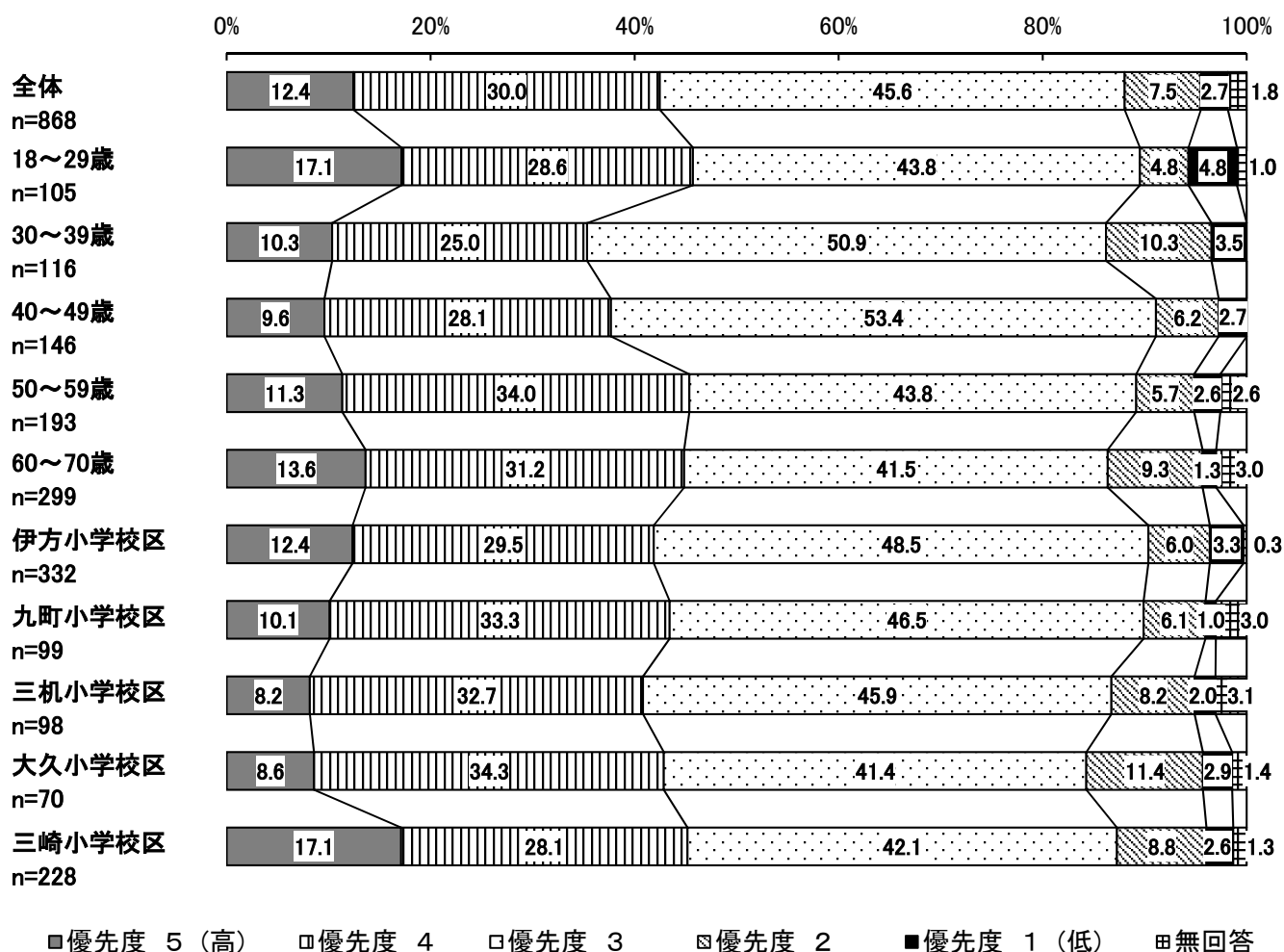


⑤ 地域文化・伝統や地域の行事を継承した文化のまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 42.4%となっています。

年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」「50～59 歳」「60～70 歳」で高く、「30～39 歳」「40～49 歳」で落ち込む傾向が見られます。最も高い「18～29 歳」で 45.7%、最も低い「30～39 歳」で 35.3%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「三崎小学校区」で 45.2%と最も高く、次いで「九町小学校区」で 43.4%となっています。



残したい地域文化、伝統や地域の行事

- ・地域の祭り 27 件
- ・秋祭りの五ツ鹿踊り、唐獅子など。
- ・秋祭りの行事は残したいです。地域の盆踊りも残したいです。
- ・盆踊りできちんと踊れるようにしていきたいと思います。
- ・半島特有の行事、おしよろ船、モウナ、伊勢踊り、ほか。
- ・郷土芸能（秋季大祭での練り）、子供から高齢者が一体となる地域行事
- ・明治の銅製練関係遺産 ・段々畑の石垣 ・豊かな自然、石垣 ・お寺の行事。
- ・高神様、三崎秋祭り、お講、実盛様、穴地藏、 ・亥の子、輪ぬけ
- ・夏まつり、伽藍まつり
- ・瀬戸の花嫁まつり ・裂織り ・イベント行事 ・フォークダンス
- ・佐田岬半島の伊予灘側の最大の港町として栄えた、三机の歴史、暮らしのわかる建造物や書物、「瀬戸の流れ」の再刊、三机の昔の街並みがわかるよう、残せるよう「十七軒屋」「御宿屋」「八間屋」「庄屋」「長麦寺」などの地図を示した案内板の設置。「九軍神」。
- ・カレンダーにあった地域ごとの昔話みたいなのがとても好きでした。
- ・文化、伝統はどれも残したいです。
- ・四季毎の地域の行事を残したい
- ・各地区に保存会を作り、話し合う。
- ・残したいけれど、若者がいない。
- ・各地域に引き継がれている行事・文化については、大切にしていきたいと思う。
- ・地域の祭り、昔からの行事はみんなが協力して残していってほしい
- ・三町合併してからその土地の特色が失われつつあるため、地域の祭りや文化は守ってほしい。祭りや季節の催しなど。
- ・人口減少で地域文化を残すことへの不安
- ・昔は地域みんなで盛り上がった祭りがあったが、残そうと思っても今はみんなですることは嫌がる。人が多く年々さびついていく。無関心な人が多いのでそのうちなくなるだろう。
- ・人の減少の中で今まで通りの行事伝承はむづかしいと思う。
- ・若者が少なくなり、残したくても残せないのが現状になっていくと思います
- ・秋祭りが若者も少なく少子化で子供もいなくなってなくなる
- ・文化、伝統を残すことより、これからまわりに迷惑かけずにどう生活してゆくのか考えるのでいっぱい。
- ・いろいろあると思うが、表記するのが難しい。
- ・暴力的な差別は刑事罰を必ずやりなさい。

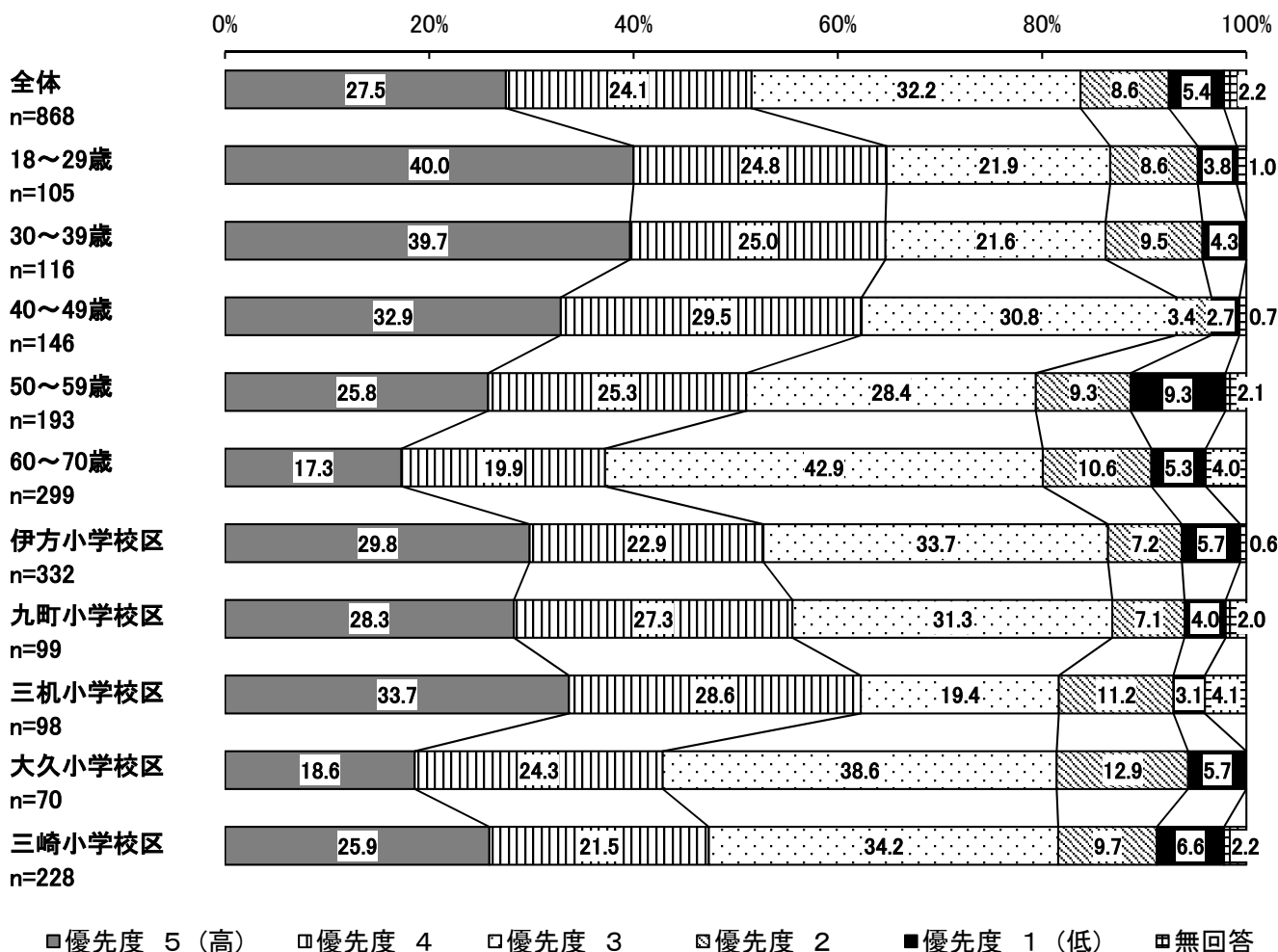
(4) 社会基盤

社会基盤分野全体をみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「① 町内のどこでも円滑にテレワークやオンライン会議ができる高速インターネット環境が整備されたまち」51.6%、「② 道路整備、交通安全対策、公共交通（バス等）が充実したまち」72.8%、「③ 上下水道が整備されたまち（浄化槽の普及を含む）」60.2%、「④ 海岸、漁港、港湾が整備されたまち」49.6%、となっています。

「② 道路整備、交通安全対策、公共交通（バス等）が充実したまち」については、7割以上の人々が、「優先度 5」または「優先度 4」と回答しており、道路整備、公共交通分野で優先度が高くなっています。

① 町内のどこでも円滑にテレワークやオンライン会議ができる高速インターネット環境が整備されたまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 51.6%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、年齢が高くなるほど低く、「18 歳～29 歳」では 64.8%、「60～70 歳」では 37.2%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「三机小学校区」で 62.3%と最も高く、次いで「九町小学校区」で 55.6%となっています。

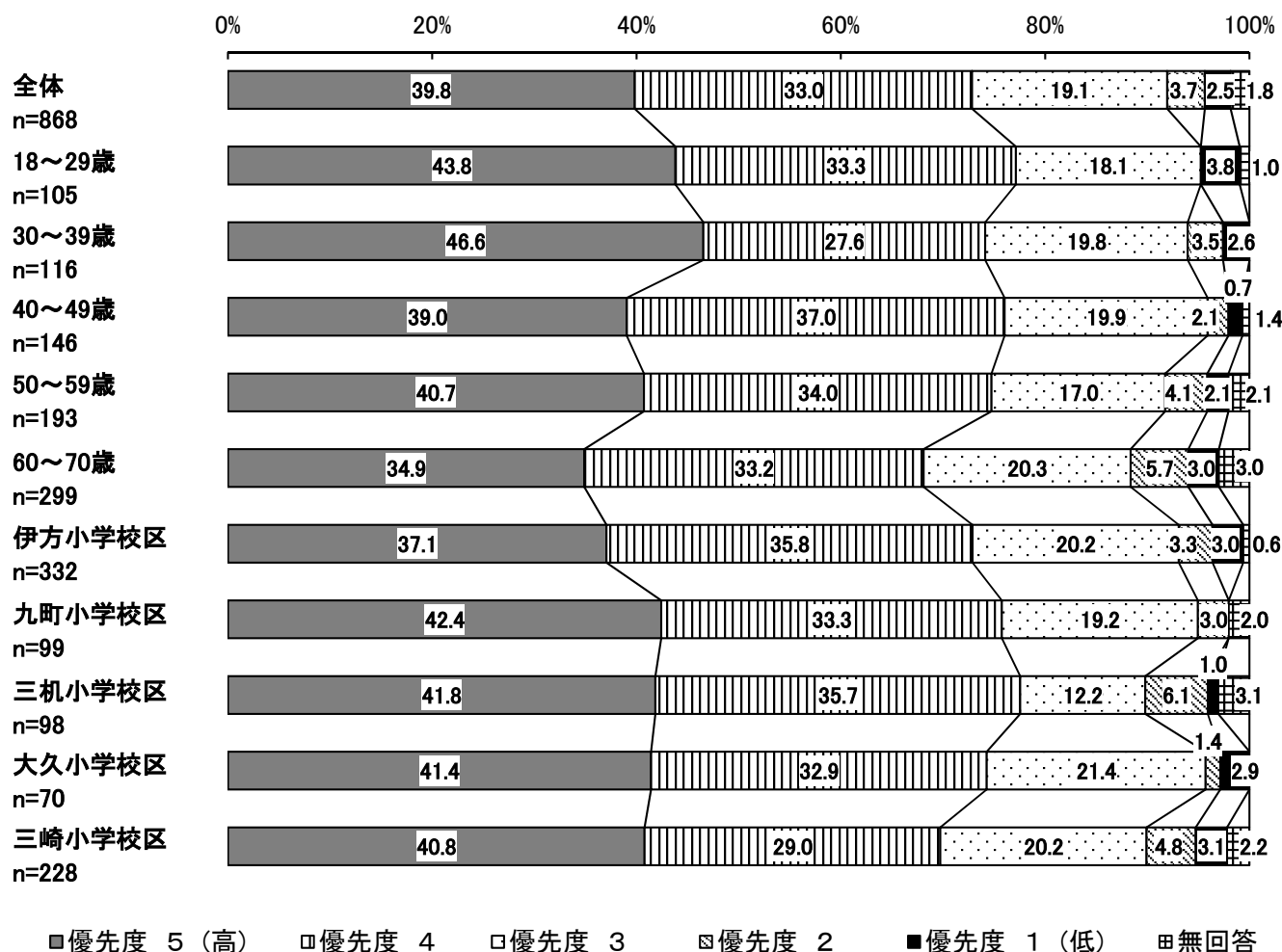


② 道路整備、交通安全対策、公共交通（バス等）が充実したまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 72.8%となっています。

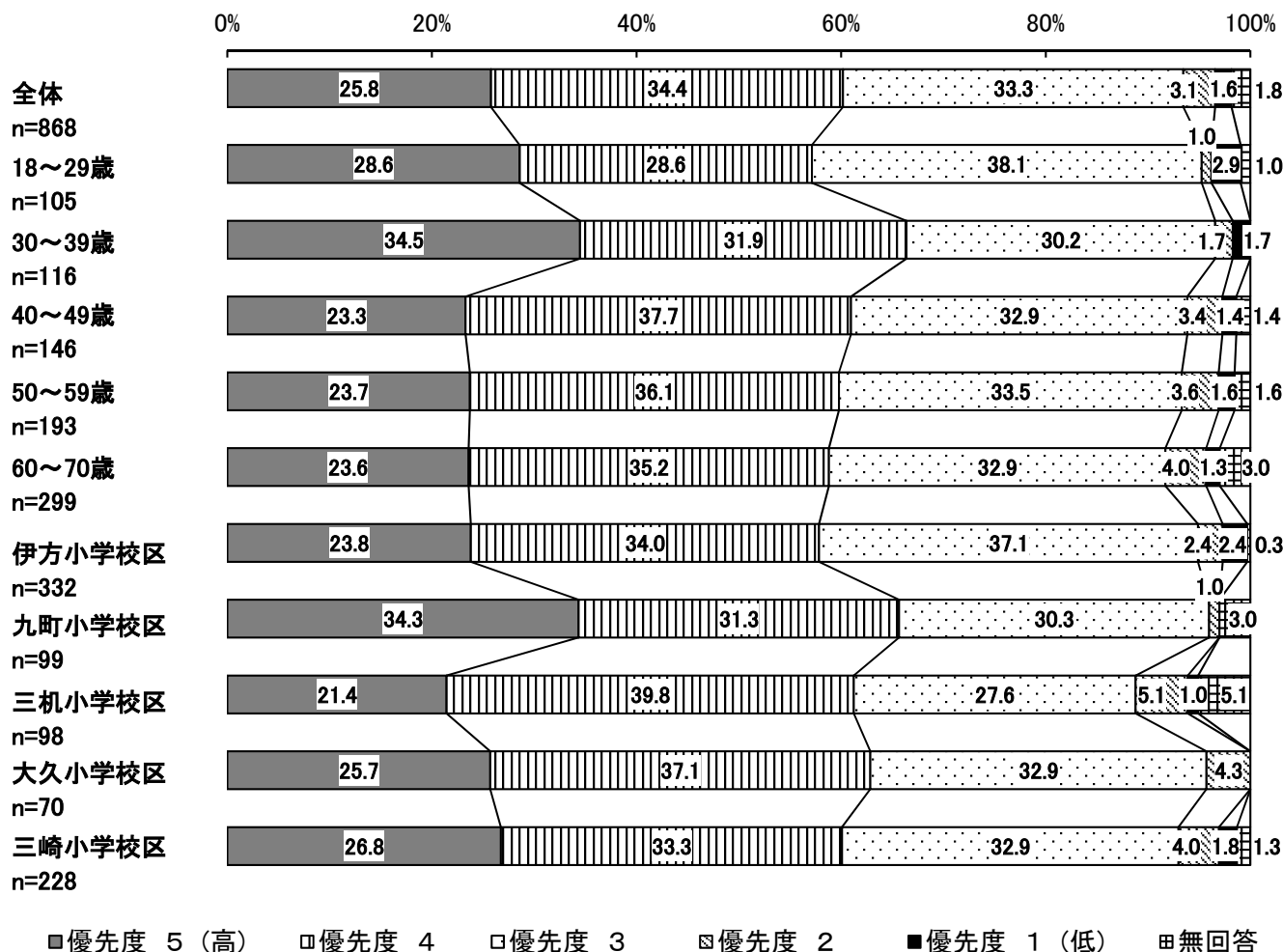
年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 77.1%と最も高く、次いで「40～49 歳」で 76.0%となっています。

居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「三机小学校区」で 77.5%と最も高く、次いで「九町小学校区」で 75.7%となっています。



③ 上下水道が整備されたまち（浄化槽の普及を含む）

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 60.2%となっています。
 年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「30～39 歳」で 66.4%と最も高く、次いで「40～49 歳」で 61.0%となっています。
 居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「九町小学校区」で 65.6%と最も高く、次いで「大久小学校区」で 62.8%となっています。

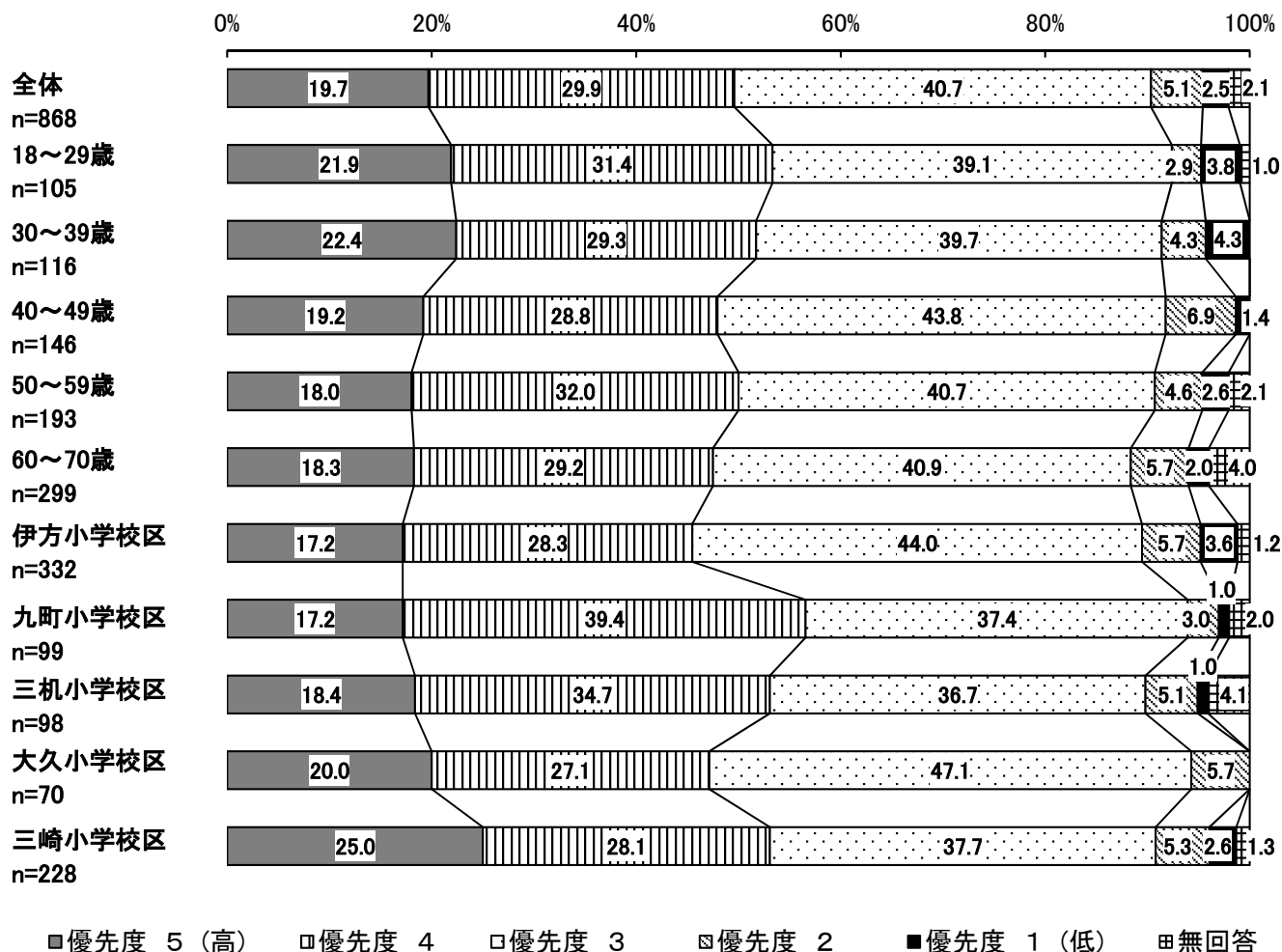


④ 海岸、漁港、港湾が整備されたまち

全体でみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は 49.6%となっています。

年齢別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「18～29 歳」で 53.3%と最も高く、次いで「30～39 歳」で 51.7%となっています。

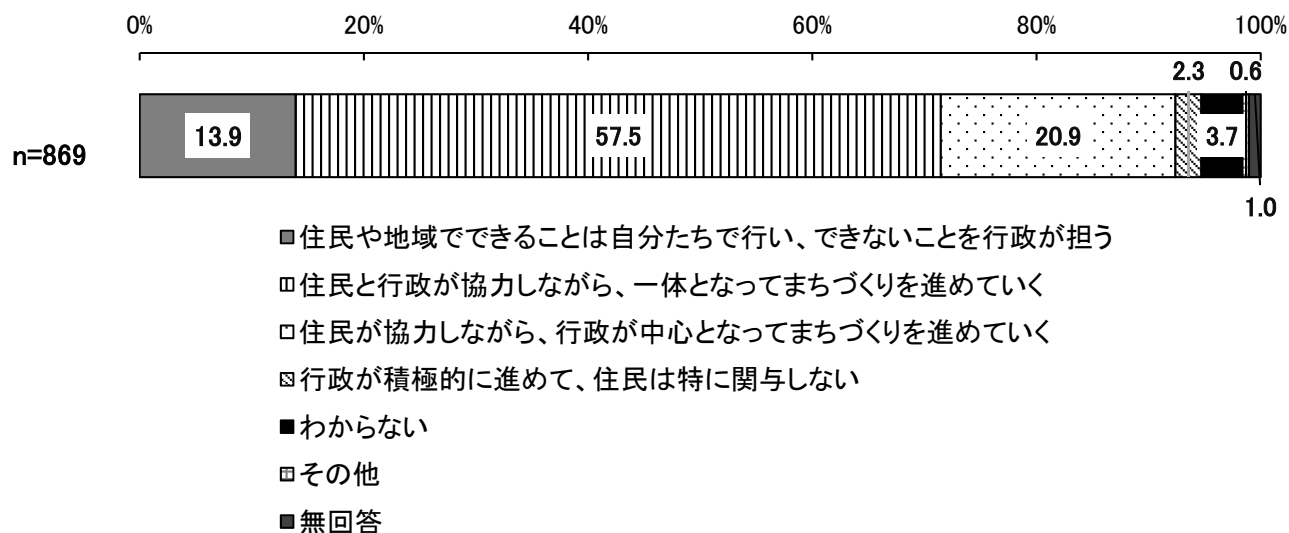
居住地区別にみると、「優先度 5」と「優先度 4」の割合の合計は、「九町小学校区」で 56.6%と最も高く、次いで「三机小学校区」で 53.1%となっています。



問9 住民と行政の役割分担について

あなたは、今後の伊方町のまちづくりを進めていくにあたり、住民と行政の役割分担についてどう思いますか。(〇は1つ)

「住民と行政が協力しながら、一体となってまちづくりを進めていく」が57.5%と最も高く、次いで「住民が協力しながら、行政が中心となってまちづくりを進めていく」が20.9%となっています。



その他の回答

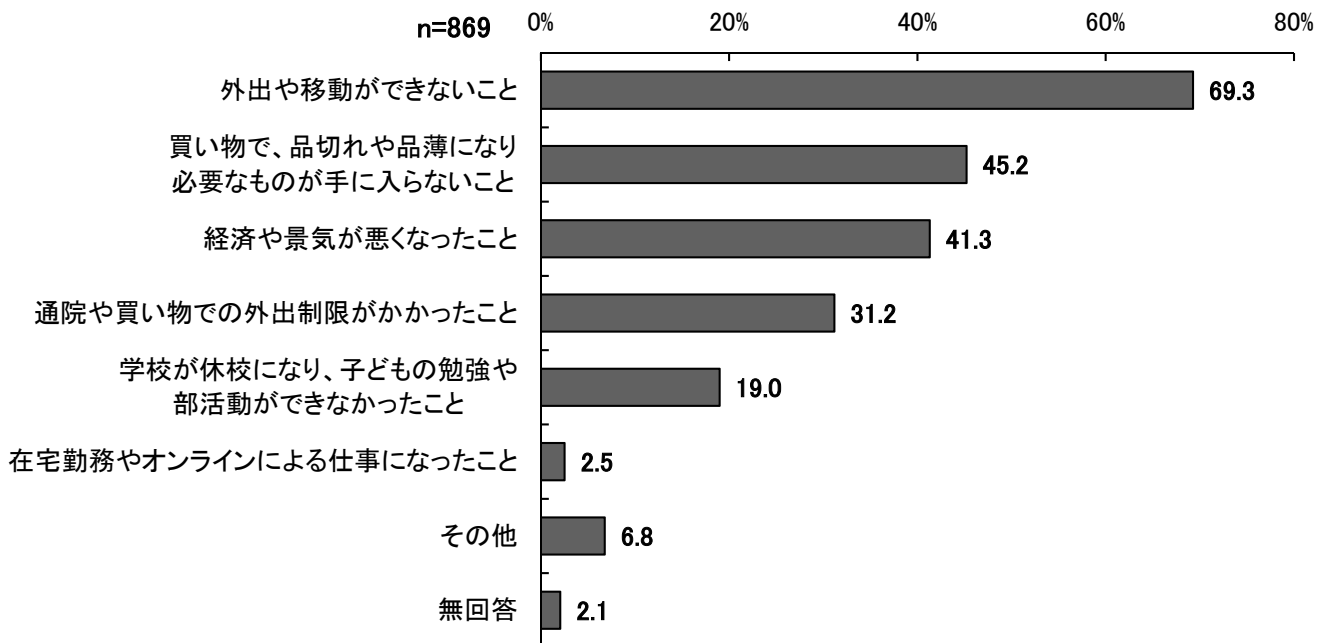
- ・ 利害関係者は必要無い社会へ。
- ・ 高齢化が進み住民では無理となってくると思う。
- ・ 行政があまりにも無責任すぎる。住民にまで感染している。
- ・ 行政からの住民への伝達事項等をきちんとしていただきたい。

5. 感染症について

問10 新型コロナウイルス感染症による身の回りへの影響

今回の新型コロナウイルス感染症が発生したことで、あなたの生活に及ぼした影響について教えてください。（〇は3つまで）

全体では、上位から「外出や移動ができないこと」69.3%、「買物で、品切れや品薄になり必要なものが手に入らないこと」45.2%、「経済や景気が悪くなったこと」41.3%となっています。



その他の回答

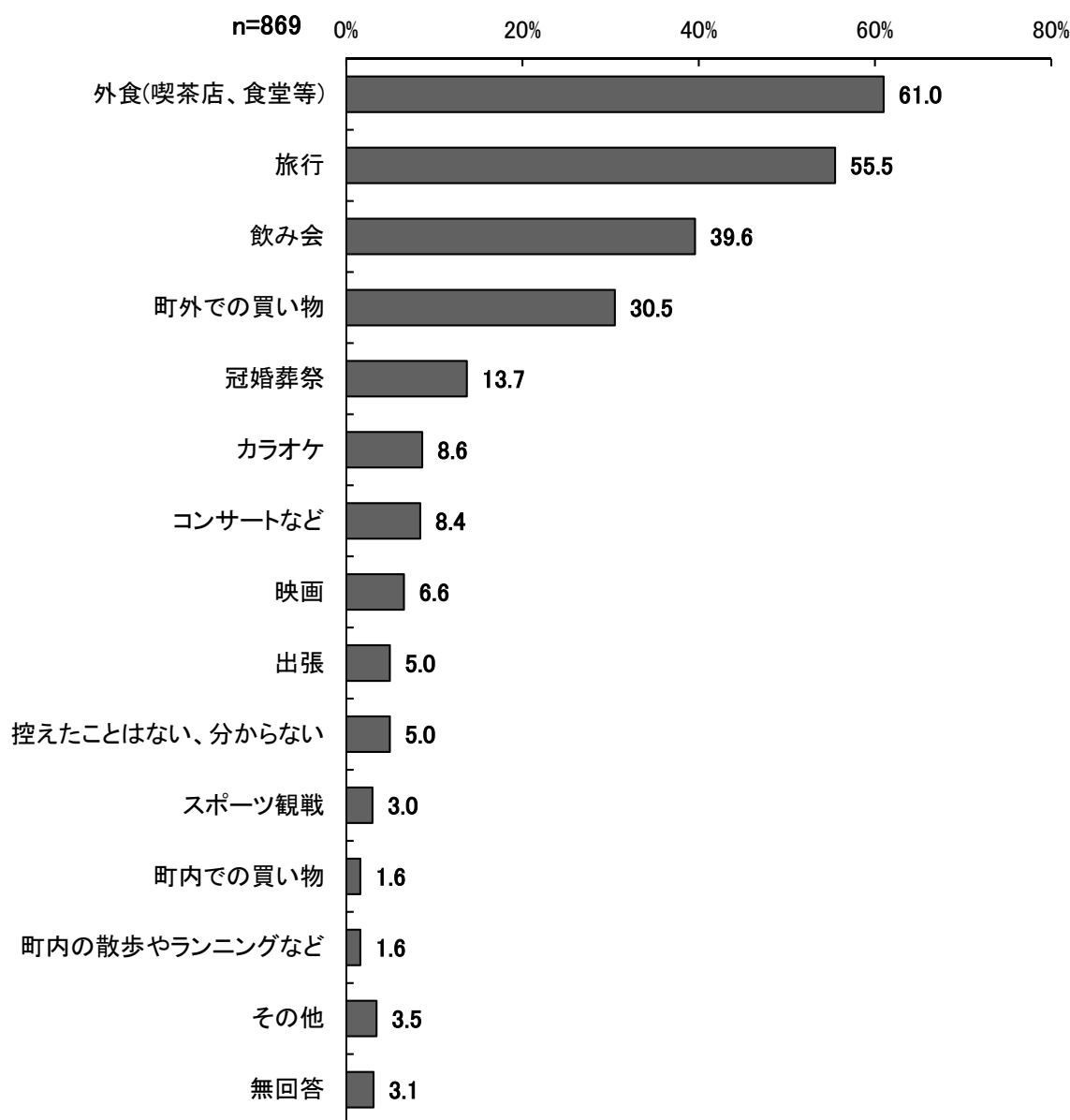
- ・特に変わらない。遠方の家族と会えなかったこと。
- ・行動の制限があり、気を遣いながら生活している。
- ・病院、特養などの施設に面会に行けないこと、感染リスクに対してのストレスなど。
- ・他県への移動が困難、人と会えない、人が来れないなど。 5件
- ・海外旅行ができない。
- ・子どもを遊びにつれて行ってあげられない。
- ・大学が前期リモートでの授業となり、就職活動も延期や募集がなくなり、思うようにできない。
- ・歌舞伎などのイベントが中止、行事（各種）が行えなかった。葬儀・会食などができなかった。
- ・行事等の中止による住民コミュニケーション不足。
- ・地域の交流活動の中止。
- ・スポーツ、イベント中止になり楽しみがなくなった。農作業しかすることがないのがさみしい。
- ・地域の集まりもなくなった。
- ・マスクが嫌いだけどしなくてはいけないこと。
- ・マスク・アルコールスプレーで体調悪化。
- ・特にマスクが買えなかった。今は以前より高いけど手に入る。

- ・これはまいりました。手洗いの石鹸、マスク、消毒薬など全くなり、人は買い占め、オイルショックのようなパニックになるのだと思いました。
- ・過疎地区で年配者が多いため気を遣う。
- ・気軽に高齢者の耳元に近づけなくなった。気を遣う。独居老人が心配である。
- ・近所の方々の冷たい対応で人間関係に影響。
- ・自分の生活を足元から見直す機会となり、身の丈にあったスローライフに切り替えることができ、より充実した生き方になった。
- ・大きく生活は変わっていない。
- ・仕事がない。
- ・コロナウイルスの発生により収入が減ったこと。
- ・大阪の会社への仕事に行けてない。
- ・葬儀参列後の 10 日間待機。
- ・仕事を休業せざるを得なくなったこと。収入が減ったこと。
- ・仕事の休みが多くなった。
- ・仕事で、より神経を使うようになった。
- ・勤務先が老人施設であるので、勤務先や通勤での感染予防に気を遣う。
- ・コロナウイルスの実態がまだよくわからず、対策や職場での決定事項など、判断が難しく、後手後手の対応となったことで、2 週間の自宅待機となった。
- ・仕事でコロナ関係の対応が増えた。(検温、記録等)
- ・公共とはなにか。子供達に本当の事をおしえてないのが不満。
- ・一緒に生活してみないと気付にくい子どもたちのメンタルの問題が金銭面より重大なニュースでした。子供達だけで毎日どのチャンネルにしてもコロナの死者や感染者のニュースを聞き、外に出られず、様々な子どもたちの心の問題が出てきました。学校に行けない、足が進まない、おねしょが始まる、いろいろ耳にしてきました。そのようなメンタルの問題はなかなか上司に報告もできず、コロナの休暇を取得する際の申請も詳細をかけず休みづらい状況でした。お金はすぐに解決できますが、心の問題は時間がかかります。

問 11 新型コロナウイルス感染症による制限、自粛

今回の新型コロナウイルス感染症が発生したことで、利用や参加を控えたことは何でしょうか。
(〇は3つまで)

全体では、上位から「外食（喫茶店、食堂等）」61.0%、「旅行」55.5%、「飲み会」39.6%となっています。



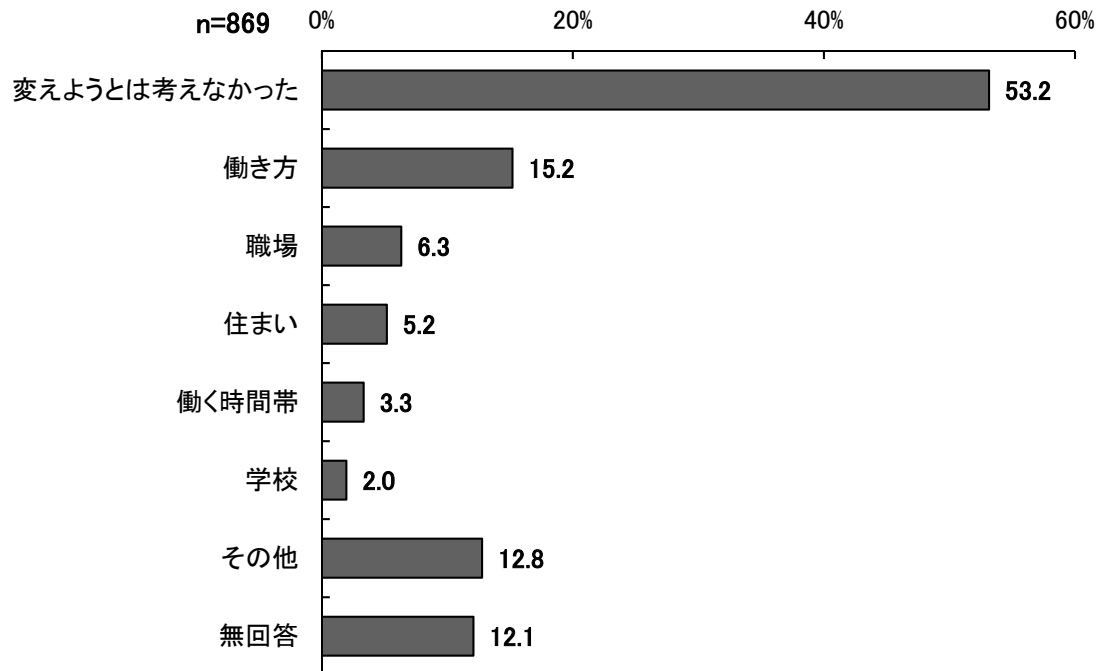
その他の回答

- ・子供達が自由に行き帰りが出来ないこと 7件
- ・実家への帰省や家族、祖父母との会食 2件
- ・外出を控えた。ひきこもりになった。
- ・南予以外の外出
- ・被災地へのボランティア
- ・ボランティア活動（高齢者に対して）
- ・義理で出ていたイベントや会合
- ・行事の参加
- ・病院、定期検査
- ・クラス会
- ・散髪、お宅訪問、飲み会
- ・生活習慣、マスクなど
- ・元々外には出ないのであまり生活に変化はない

問12 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化

今回の新型コロナウイルス感染症が発生したことで、変えようと思ったことは何でしょうか。
(〇は3つまで)

全体では、「変えようとは考えなかった」が53.2%と最も高く、半数以上の方が「変えようとは考えなかった」と回答しています。次いで「働き方」が15.2%となっています。



その他の回答

- ・外出を控えた
- ・買物に行く場所（遠出を控える）、時間、回数
- ・買物を少なくする、ＣＯ－ＯＰの利用など
- ・買い物を一か所でまとめて行う
- ・百貨店での買い物を控えた
- ・買物のツール
- ・3密を避ける
- ・ずっとマスク、手洗い、人混みを避ける
- ・人との接触の仕方
- ・個人情報
- ・外出頻度、感染予防対策
- ・行動範囲
- ・他県への移動
- ・趣味で旅行（首都圏）に行くこと
- ・友達との会食など
- ・外食
- ・感染対策、対応意識
- ・手洗い、うがい、マスク着用、消毒
- ・マスクを切らさない
- ・一人一人が責任を持った行動をとり、今まで以上に衛生面の管理
- ・予防接種や衛生面
- ・食品衛生
- ・感染対策をされている場所を頻回に利用するようになった。
- ・ソーシャルディスタンス
- ・健康第一
- ・医療体制
- ・生活スタイル
- ・全ての行動
- ・休日の過ごし方、余暇
- ・時間の使い方を考える
- ・消費生活・娯楽
- ・無駄な会議（省けるものが多かった）、会議の精選
- ・収入方法
- ・意識（コロナウイルスはどこにでもいる、3密な所にはいかない、自分のことは自分で守るという考え）
- ・生き方、毎日を悔いのないよう。
- ・職場環境
- ・就職活動
- ・テレビの情報に洗脳されない
- ・何をどうしていいのかわからない。
- ・変えようがない
- ・年金生活なので特に変える必要がない
- ・変えることができない。
- ・都会の人が変えないのに地方の人が変えられる訳がない

問 13 新型コロナウイルス感染症による産業、観光業への影響

今回の新型コロナウイルス感染症が発生したことで、以下の項目の影響について気づいたことを教えてください。

■ 農業へ与えた影響

- ・消費地での需要の減少 22件
- ・レモン、河内晩柑を出荷したのですが、いつもより安価でした。（3月から5月にかけて）これからは続くとみかん、その他の晩柑に影響がないとはわかりません。
- ・今後の経済活動が心配です。
- ・最終的には生活（収入）が大切であるが、農業は働き方としては、3密回避でき、マスクも要らないので、最高ではないか。
- ・農作物の値段上がり売れなくなったのではないか。
- ・柑橘を出荷しても値が安いし今年もこれから出荷時期を迎えるので心配だ。
- ・飲食業界の制限があり、物流が動かなかったので、農業者は大変な打撃を受けたと思います。
- ・高級品として販売している柑橘が売れない。手ごろな値段の物はよく売れたと思う。販売先が休業などで取引がなくなったり減少したりした。加工品は多くの在庫を抱えてしまった。
- ・店頭販売などができなくて売り上げが減少したそうです。
- ・外食産業の落ち込みによる果物、フルーツ系の農産物。
- ・飲食店などへの出荷が少なくなって大変だと思っています。
- ・野菜の価格が上がったこと。
- ・農産物の価格低迷による収入減。 13件
- ・インターネットによる販売に田舎の農家さんたちはついていけないのが気になった。
- ・柑橘類の売り上げ減少。（観光客の減少）
- ・第二波の発生により、来年からの販売環境が悪化しないか心配。
- ・不景気で農産物の売れ行き。
- ・今後、柑橘類が売れるかどうか心配です。
- ・単価に影響なく販売できている。
- ・飲食業、旅館、ホテル等での需要の減退などによる価格低下。
- ・飲食店や、ホテル、のお客が減少し、出荷が減り収入が減少する。
- ・売れ残ってします作物を出張（移動）販売する。柑橘類などのネット販売の強化。
- ・今年のみかんの売れ行きが心配。
- ・お野菜の値段が高くなった。お店や団体などへの納入が減り、農家の方々は収入が減ったと思う。更に一般の消費者向けのお野菜が高いと、個人消費も減り更に痛手だったろうと思う。農産物を運ぶトラックの運転手さんの不足や健康状態も心配です。
- ・外食飲み会などが減り高級食材が売れないと、その品物の購入を勧められて、支援するため購入した。
- ・農産物や加工品が売れなくなり、第一次産業関係の会社の売上が下がった。
- ・外出の規制などで週にまとめて買い物をしたり、給食の中止、学校の休学等で家庭での需要は逆に増えたと思うが野菜の単価がかなり高騰していたように思う（特に葉物類の野菜）
- ・今後、みかん等での収入、売り上げに影響するのではないか。
- ・消費行動の変化に伴い、単価変動が読めない。作っても売れるかどうかわからない。
- ・地域で感染者が確認された場合、農産物の出荷規制（人、物含む）、全国で感染拡大、農産物の販売減少。（人、物含む）
- ・今後のミカンの販売を心配している。

- ・ミカンが売れなくなる。
- ・外出自粛等、人々の買い物へ行く回数が減り需要が減った。
- ・ミカン等買い物に来る人が減ったように感じた。
- ・飲食店が休業したことで物流が減っている不安などはニュースで見っていました。
- ・全ての産業において人の動きが制限されたことにより廃業、経営不振に陥った方の情報をテレビで見るにつけ、人の動きが経済を回しあたりまえの生活ができていることに気づかされた。
- ・農産物の値段が高くなったこと。果物より野菜への影響が高かった。
- ・地域から感染者が出た場合の産地商品価値の低下。青果場から感染者が出た場合の出荷体制の影響。必要な時期に市場出荷できないなど。
- ・県内で売れるものはいいが、県外に売れなかったので、品物によってはなかなか売れなかった。たとえば干ししいたけとか。
- ・今年のみかんが売れるか心配。
- ・柑橘販売の影響。(価格)
- ・都会の業者との取引ができないことで、商品に対する評価がわかりづらい。
- ・農産品、特に日持ちがしないものは買い手の需要が下がり、収益が減ったのではないかと感じる。
- ・飲食店への出荷が減っている。
- ・みかん等、関連商品の売り上げ、減収。
- ・営業やイベント自粛による販売不振。
- ・晩柑の価格が下がった。経済がまわっていかない影響で買い控えがあった。対面販売ではなくネット販売や情報を広く流す必要がある。
- ・高級農産物の不振と物流の停滞。自家菜園が盛んになり、自給自足の食生活がアップ。
- ・今のところ大きな影響はないと思うが、冬場のみかんの売れ行きがどうなるのか不安に思う。
- ・野菜の価格が上がっている。
- ・みかんが高く取引できなくて農家の人が困っていた。
- ・いろいろなこと(農産・海産物)が緊急事態宣言や自粛で売れなくなり、経済に影響していることが分かった。逆に普段の消費活動がこれほど多いものであることも知った。
- ・経済が回らなくなったことで、農産物やその他加工品等の需要に影響が出たのではないか。
- ・新型コロナウイルスの影響で、小中学校の休校や、宴会の自粛となり給食や飲食を、提供する施設が農作物を消費する量が減少して、農作物が売れなくなったこと。
- ・作ったものを買う人が減った 野菜が高くなった。
- ・特に柑橘は需要がないと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の発生と、伊方町の農業の主力である柑橘の最盛期が重なっていないため、今のところ、大きな影響は受けていないと思うが、今後売り上げの減少などの影響が出てくるのではないかと思います。
- ・毎年のことながら収入が減少しています。コロナがというわけではないと思います。天候に左右されながら生活ができるか不安です。後継者もいますが若い者が生活できるようになればと農業はなかなか保証もないので。
- ・柑橘は主食ではないので、「なければ困るもの」ではないため不景気になると売り上げが減る。
- ・秋から冬にかけて収穫が始まり作物(柑橘)の売れ行きが心配です。
- ・農作物の流通に影響があったと聞いています。(農業でないので実感がありません)
- ・農業、漁業、飲食、物販、すべてにおいて影響は出たと思います。他の地域、県ではFMマルシェなどを活用して地域をアピールしていたようですが。伊方町ではどのようなことをして地域を

援助していたのかわかりません。国からの補助金の援助ではなく、伊方町独自でどのような援助をしたのか、今何をしているのか、もう少し具体的に発信した方がいいと思います。

- ・出荷が遅れ、店頭の商品が並ばない。
- ・収穫時の人手不足 19件
- ・特にみかん収穫においてアルバイトさんの確保が難しくなっている。
- ・収穫の手伝いのアルバイトの確保が難しく、なかなか仕事がかどらないと聞いていました。
- ・ミカン収穫の時、人が集まらないと思うので、ミカン農家の人は収穫の時のことを今から考えて対策を練る。
- ・アルバイトの受け入れができないと人手不足が深刻化し、良い商品が作れない。景気が悪化すると柑橘の需要が下がり価格に影響する。
- ・みかんのアルバイトは県外からも多い様ですが、まだまだ県外からの募集は難しいと思います。収穫時期に大きく影響してくるのでは。
- ・今のところ感じていないが、今後アルバイト等の利用制限がかかり、大変になっていくと思います。
- ・柑橘の収穫期の県外からのアルバイトを集められず、貴重な労働力が確保できない。
- ・伊方町に影響があるのかわからないのですが、ミカン収穫期に県外からのアルバイトを受け入れできない。
- ・雇用（アルバイト等の収穫時の入手）販売則近（県外等への販売が中心の為、販売による試食宣伝ができず、地域ブランドの広報活動ができていない。単価等の影響はないとも言え切れず、今後、対応を考えなければならない。
- ・今後、収穫期になり、影響を受けると思います。メロンの初せりがかなり低価だったのと同じく、安値になりやすい。コロナの第2波、第3波の影響により、アルバイトの確保がしづらく、収穫時期が多忙になる。
- ・収穫時の県外・町外のアルバイトが確保できないことで農家の仕事の負担が増加した。
- ・みかん収穫時の人材が不足しそう。（町外からの人材確保が難しくなりそう）
- ・山は密にはなりにくいように思えますが、ミカンの繁忙期の人手の確保やこちらも消費への影響が例年のような予想がしにくくなるのではと思います。
- ・みかん農家が、アルバイトをなかなか集められなくなったこと。
- ・農業の担い手として全国からアルバイトの人たちが来て大変助かっていたが、コロナ関係で今年は人手不足となる。地元の人たちは高齢者が多く雇用が困難。
- ・毎年収穫時期に国内外から若者ボランティアを募っていた。しかし今年は彼らと農家との交流も活発に行うことができず、来てもらうこと自体悩んだ。
- ・みかんアルバイトを県外から呼ぶことができなくなった、と聞く。積極的な都会への営業売り込みができなくなっている。
- ・販売先の需要減による出荷数の減少 アルバイトの確保が困難。
- ・収穫時期ではない限り影響を受けにくい業種だと思う。
- ・普通に農作業している。あまり農業近代化にかぶれていなかったので三崎町は影響は最小限で済んでいると思います。
- ・現時点ではみかん農家への影響は出ていませんが、これから終息の兆しが見えないので心配です。
- ・日頃の農作業にコロナウイルスの影響はないと思いますが、収穫した農産物の販売方法を考える必要があるのでは。
- ・2、3月からだったので特になし。

- ・山畑は心配ないと思います。
- ・伊方町に限ってはあまり影響を感じなかった。
- ・農業については、今は何もないかもしれないが、冬までコロナが続くと何らかの影響が出るだろう。
- ・現時点では無いのでは。これから影響が出てくると思う。
- ・現時点では特にないのでは？出荷時期に景気悪化により、需要の減は考えられる。
- ・柑橘については、現段階では分からない。
- ・これからが心配。
- ・伊方町の農業の主役を担うのは、かんきつ類であり、秋ごろに最盛期を迎えるので、漁業よりはコロナに影響はなかったと考えられる。
- ・家庭菜園が活発化したこと、自給にめざめたこと。
- ・家庭で料理をすることが多くなったので、料理をする子供たちが増えた。
- ・みかんの生育。
- ・贅沢しない。
- ・騒がしい一生懸命。
- ・生産へのモチベーション。販路・現金化。
- ・コロナより長雨。
- ・世界的な感染拡大による自粛生活がほとんどの分野で多大な悪影響を及ぼしている。以下の項目も同様である。
- ・金のばらまき政策のように、足元も固まっていないのに、補助事業を行い、農業者は取り扱いの業者等を混乱させた。
- ・農産物を気軽に知り合いや親類におすそわけできなくなった。
- ・栽培面ではそこまで変化はないが会議や視察などがなくなり妻としてはそれが逆によかった。
- ・感染症が発生してもその時期にやらなければならない仕事が続きから続へとあるので、なかなか自粛は難しいと思う。物流も難しいので通販など新しい物流方向を考えるべき。若い人の考えも入れえてほしい。
- ・すべてに影響がある。お先真っ暗。
- ・娯楽など生活に潤いをもたらす事業への参加が減ったのではなかろうか。
- ・大洲愛たい菜にも行かなくなりました。
- ・良い素材がもったいない。
- ・外出時期が長かったので、単ごもりになる人が増え、人の触ったものを触るのができなくなった人もいて、家庭菜園をする人が増えて、農家さんが作ったものを買わなくなった。
- ・学校や宿泊施設、飲食店等が休業し、野菜・穀物等大打撃を受けていたようだ。早くワクチンが開発され、一日も早く終息を祈るのみ。
- ・学校給食に出していた方は影響があったと思う。みかんはこれからなので状況がどうか。今後どうなるか心配。
- ・特にコロナになってから、これからの時代、どのような困難なことが再び訪れようと、農業・漁業は最後には生き残る職業であると実感した。自給自足できる町として売り出していけばいいのではないかと。食はどの時代でも最後には生き抜いていけるすばらしいものである。
- ・間接的ではありますが、子供たちを親に代わって面倒見なければならず、多少仕事に影響があったかもしれません。
- ・農業を体験できる場が少なくなった。
- ・農業は三蜜になりにくく、屋外であるため、やり方次第では伸びしろがあると思う。

漁業へ与えた影響

- ・消費地での需要の減少。 41件
- ・売値が下がってしまった。 23件
- ・コロナウイルスが発生した事でお店が閉店となっているため、魚介類、海藻類の値段が安く収入が減った。
- ・飲食店へ行く人が減るとそこへ卸す魚の量も少なくなり、数をさばけなくなる。
- ・魚の値段が半額以下になったと聞いた。売れないので、漁に出てもガソリン代の方が高くつくと感じた。
- ・外食や飲み屋の利用が減少したことにより全体的に需要が低下している。
- ・高級魚が売れなかったこと。
- ・魚の売り上げ減少（出荷）飲食の減少。（観光客居酒屋での減少）
- ・コロナで首都圏の経済が悪化しているので、地方の漁業景気悪化は避けられないと思う。漁をしても魚の送り先がなくなる。
- ・飲食店やホテルのお客減少し、出荷が減り、収入が減少する。
- ・都会への魚介類の送りができなくなり、生活苦になっていると思う。
- ・魚の消費が少なくなり、需要と供給のバランスが崩れて、魚が売れなくなった。
- ・外食、買い物回数が少なくなった分、少し影響があるように思います。
- ・自営漁業のため、魚類販売が思うようにできずに家計に影響が出た。
- ・魚がますます売れなくなっているのでは。
- ・飲食店の休業や物流の停止で在庫が過剰に余っていると聞いたが一般市場へうまく回せずもったいないと感じた。
- ・外食飲み会などが減り高級食材が売れないとその品物の購入を勧められて支援するため購入した。
- ・農産物同様、お店や団体への納入が減り、収入が厳しくなったと思う。海産物を運ぶ方々の不足や健康状態も心配です。
- ・出荷しても最終的な購買層である側のお客さんの買い控え、外出の自粛で外食産業の営業中止等で出漁しても逆に油代等で赤字になったのではないかなと思う。せっかく採れた魚等を加工して販売できるような設備があれば不漁のときには加工品を、逆に豊漁の時は加工して保存しておく等してうまく販売できればと思う。（ネット通販などで）
- ・高級食材の売れ行きが伸び悩んでいると聞いています。料亭、ホテル等の営業が自粛が続く中コロナ騒ぎがおさまらないと売れてこないのではと心配されます。
- ・食事を提供する場が減ったことで、魚を飼う人が大幅に少なくなっただろうし、特に生の刺身を扱っているところでは、加熱しないこと、日持ちしないことなど考えるとさらに影響は計り知れないように思う。
- ・娯楽など生活に潤いをもたらす事業への参加が減ったのではなかろうか。
- ・飲食業が休業や時短営業等をしている為漁にでても消費者が減少しているので漁業従事者は・大幅に収入に影響しているとおもわれる。
- ・給食が無くなり、漁師さんは困ったのでは？
- ・旅館、飲食店などの注文が減った様に思います。
- ・都会への物流が減ったので生物を扱ってる漁業では魚の生体に影響がでたと思う。旬の物を扱う漁業は大変だと思う。
- ・天然養殖を問わず、売れないものが多い。（外食産業が悪化したため）在庫を抱えた状態の為、漁師への支給額も減る。

- ・市場が閉鎖されれば、漁船漁業は終わりだ、と痛感しました。
- ・外出自粛などにより、消費減。
- ・養殖された魚が取引できなくなり、収入が減ったのに、餌代とかはかかる苦労がわかった。他県への市場にて魚を送りができないため、全体的に安くなり、収入減となった。
- ・学校や宿泊施設、飲食店等が休業し、野菜・穀物等大打撃を受けていたようだ。早くワクチンが開発され、一日も早く終息を祈るのみ。
- ・商品（水産品）の需要が減少したため、値が下がり、結果として漁業へダメージを与えたと感じる。
- ・売上の減少に、廃業が多くなっているとテレビで見て心配している。
- ・都会（町外）だよりの考え方が強いため収入が少なくなった（。のでは？）
- ・特に高級魚の需要が減っていると聞いた。
- ・都市部の店の休業により海産物、特に宴席などで好まれるものが売れないと聞きました。考えることは皆考えるので通販や加工等伸びる方向に追従することになりそうです。
- ・自粛で飲食店を利用する人が激減して魚の流通が減った。（魚が売れない）
- ・鯛やその他の魚関連も売り上げ減少。
- ・大阪、東京等の夜の飲食ができなため魚の出荷が大幅に減り漁師さんが魚を取っても安くて売れないこと。
- ・客が自粛したことで高級魚などが売れなくなったが自宅用の需要が増えた。
- ・外出自粛で新鮮でおいしい魚などを買う人が減ってしまったこと。
- ・外食、旅行の減少で魚が売れないと聞いたことはあります。
- ・高級食材の不振。海がきれいになった。毎年のことだった赤潮も今年はその心配すらない。
- ・商品の価格が落ちている。飲食店等に人が入らないから商品自体の動きが鈍くなっている。
- ・コロナだからと言って魚介類を買わないということは個人的にはなかった。知り合いの魚屋さんの話では3月～4月の行事で宴会が中止となり魚介類が必要なくなり魚が売れないと嘆いていました。
- ・価格が上昇し厳しいものが見えた。
- ・漁協に水揚げができないと話を聞いたことがあり魚を採っても大変だったと思う。
- ・飲食店の経営状況が悪いため魚が売れない。売れても安い。
- ・魚介類の価格が上がっている。
- ・卸先の飲食店等も客足が遠のき、売買されにくくなっているため、収入が減少している。
- ・コロナの影響により、飲食店での消費が低速しており、価格の下落につながっている。漁業者の収入減少。
- ・いろいろなこと（農産・海産物）が緊急事態宣言や自粛で売れなくなり、経済に影響していることがわかった。逆に普段の消費活動がこれほど多きものであることも知った。
- ・出荷する場所が減る。値段が安くなる。
- ・魚の出荷量が減り、減収となっているとニュースでの情報を聞いた。
- ・経済が回らなくなったことで、農産物やその他加工品等の需要に影響が出たのではないかと。
- ・積極的な都心への営業・売り込みができなくなっている。
- ・都会の宴会減少による、消費低迷に伴う、魚消費及び、魚価格低下が大きい。
- ・飲食店の休業等の影響にあると考えられる。
- ・風評被害による購買意欲の低下。
- ・旅行業が停滞したため、宿泊施設に卸していた高級海産物の需要が大きく減少したと考えられる。

- ・本来商いの正義が問題です。魚を取る漁師さんや一次産業者のみを保護すべきでその他の商人などの保護は不要です。
- ・贅沢しない。
- ・魚などは傷みやすいと思うので、捨てた物も多いのではないかと？
- ・大変良く働いている。
- ・家族での作業に限るが影響は限定的だと思う。
- ・魚を安くして売っていたので、儲けはあまりないです。
- ・養殖に頼らずに海の資源を大切にしていたので三崎町は影響は最小限、売れないなら海で活かしていたら良い。ただ幼魚の乱獲はホドホドにお願いします。
- ・魚の死骸。
- ・これも流通に影響があったと聞いている。
- ・釣り人のマナー。
- ・生産へのモチベーション。販路・現金化。
- ・養殖物の流通。高級品の在庫。
- ・世界的な感染拡大による自粛生活がほとんどの分野で多大な悪影響を及ぼしている。以下の項目も同様である。
- ・深刻な影響がでるのはこれからだと思う。
- ・八幡浜みなとにもいなくなりました。
- ・良い素材がもったいない！！
- ・コロナの影響で魚が売れない！と仲買は言うが、スーパー、市場等価格は高いまま。消費者のために価格は下げず、漁業者から買う価格は下げるばかり！（コロナの影響）という言葉も借りた便乗！
- ・船に人がたくさん乗ることができなくなった。
- ・漁業に関しても同上の原因で影響が出ている。
- ・当初はあまり、変わらないとの声もあったが、長引くにつれて売り上げが減っている、などの話を聞いた。
- ・漁業に関しては、鮮度が命のため、卸すところがなければ魚を取っても意味がないので、マーケットを増やすことが必要。
- ・海産物の多くは、鮮度が重要となってくるため、加工品の開発等が求められるのではないだろうか。

■ 道の駅等物販・宿泊飲食 がある観光施設へ与えた影響

- ・来館者、宿泊者の減少。 78件
- ・人の動きが制限され、観光施設の在り方を考え直さなければ、厳しい時代になってきたと思います。
- ・来訪者の減少。衛生環境、安全対策の徹底。
- ・人が来なくなって収入が下がったこと。 39件
- ・非常に大きい！！打開策がない。
- ・お客さんが減って、売り上げが伸びない。常に消毒をしないといけないので大変。
- ・宿泊客のキャンセルなど、食品の無駄が出た。商品が入ってこない、品切れ。
- ・お土産を半額にして売っていたので、儲けはあまりないです。
- ・観光客減少により、売り上げも下がり、それに伴い労働者の雇用にも影響している。
- ・人の移動がこれだけ少なくなれば影響大のところが多く廃業とかするところがあるのではないかと。

- ・ 集客、収入、設備。
- ・ 利用客の減少。キャンセル者等増加によるスタッフの業務量増加、シフトの変化、収支の乱れ。コロナ対策等に関する価値観の違いによって生まれる冷やかし、嫌み、などの中傷。
- ・ 県外からの来訪者が多いので、訪れる人が減少したのではないかな。
- ・ 観光客の減少。営業自粛、制限による売り上げの低下。
- ・ 顧客数の減少。コロナ対策によるスタッフ等への業務量の増加。
- ・ 人の動きが少なくなるので必然的に観光施設への影響は大きいと思う。
- ・ 一定期間の営業停止や店を閉めないといけなくなる施設等が出て経済的にもすごく影響が出たと思う。
- ・ お客の減少による収入の減少。感染対策によるアルコールやシールドの設備への出費、その他のいろいろの出費。いろいろなお客が来ることによる感染への不安。
- ・ 土産が売れない。宿泊施設に泊まらない。大人数の飲食敬遠。
- ・ 観光客が来ないと収入が得られない。普段から観光客だけでなく地元向けの商品も必要だと思う。通信販売も必要。
- ・ フェリー利用者が少なくなった。
- ・ コロナが発生して町内の道の駅、1度も行ってないです。客足は減ったでしょうね。
- ・ 外出の自粛により売上が減少したようにおもいます。
- ・ 観光客が減った事で売り上げが減った。
- ・ 外出を控えたことによる売り上げの減少。
- ・ 行こうと思ってもつい控えてしまいます。施設の方々は売り上げが減って大変でしょう。
- ・ 人が集まる場所は行かないようにしたので赤字だったのではないかな。人数制限したり消毒したりと対策しても人はこないのではないかな。今後も。
- ・ 外出自粛のため町外からの観光客が減少した。
休業要請や緊急事態宣言が出たので宿泊、飲食業が一斉に自粛したので収入減で大幅に影響したと思う。
- ・ メロディーライン沿いの道の駅や、飲食店にはお客様の数が減ったように思う。物産品も今までより少なくなったように感じた。車での移動が少ないように、人の流れが止まったように感じた。
- ・ 客数減少により収入が減り、長引くことであらゆる意欲も減に。
- ・ 自粛に伴い、収益減キャンセル増。休業せざるを得なくなり不安。
- ・ 移動の自粛や、人の集まる場所への滞在の自粛が呼びかけられたため、利用者が減り、収益は減少したと感じる。
- ・ 多大。お客さんが来ないので、店、ホテル、飲食はとくに厳しいと思う。
- ・ 人が動かなくなり、倒産するところが増えてきて心配している。
- ・ 県外からの観光客が減り、バス、飛行機、汽車の利益が激減した。
- ・ イベントができない（不特定多数参加となるため）客数が減った。コロナ対策が大変。
- ・ 人が少ない。利用者がいない。
- ・ 一部の施設を除いて影響はある。（自粛ムードなので当たり前のことではあるが）
- ・ 自粛で人が動かないので利用しなくなり経営は厳しい。
- ・ 人が来ない。最近では、佐田岬はなはなは新しくリニューアルオープンしたが、フェリー利用客（県外からの）が多いうえに、そこにさらに新しくなった施設に来ようと人が集まっている。瀬戸のだんだんも県外から客が大勢来ていた。少し心配。
- ・ 人が動くのが悪とされたのだから、気の毒なくらい客商売は不景気。

- ・自粛で人の動きが少なくまた自粛が終わっても控えていると思うのでやはり昨年に比べると売り上げ自体が落ちているように思う。
- ・県外からの移動が大幅に減少したことにより、利用客や売り上げが減少。
- ・人の移動がなくなり、観光、旅行業界は大きな被害を受けていると思います。町外の人に物販、宿泊、飲食でお金を落としてもらわないとそれらを生活の糧にしている人々にとっては死活問題だと思います。
- ・観光客が減少したことて経済の活性化が低下した。地域外からの訪れる人が減少したため街の賑わいがない。
- ・外出を出来るだけしない様にしたので、来る人も少なかったのでは？
- ・経済が回らなくなったことで、農産物やその他加工品等の需要に影響が出たのではないかな。
- ・コロナウイルスへの感染予防のため、観光客が減ったこと。
- ・観光客が減少し、活気がなくなったこと。
- ・宿泊のキャンセルや飲食店等の収入が激減したこと。
- ・観光自粛の影響は大きいと思う。
- ・観光客に来てほしいという思いもあるが、感染のリスクを考えると難しい状況にあると思う。観光客は確実に減っている。
- ・行動の制限がかかる中、宿泊・観光施設に足が向かない。
- ・緊急事態宣言の発令等により、県外からの観光客は大きく減少した。伊方町は九四フェリーを擁し、年間50万人以上の利用客を誇る。そのうちの多くを占める観光客が減少したことで、道の駅をはじめとする観光施設の入客減少が考えられる。
- ・旅行者の減少に伴う、全体的な売上減少が大きいのではないかな。
- ・観光客の減少、利用客の減少、売り上げの減少、経営状態の悪化。
- ・来町者が単純に減ったことが影響を与えていると思う。
- ・はなはなから三崎住民を締め出すのは、やめてください。指定管理であろうと地方公共団体の責任は果たしてください。
- ・土日になるとはなはなに沢山の車が来るのでコロナを持って来ないかと心配。バイクがバリバリうるさくて頭が痛い日がある。
- ・前の「はなはな」は中途半端で利用者数も少なかったが、今回の「はなはな」は利用者が増えていいのでは。「きらら館」は利便性で見映えがいいのでこれも利用者が多い。
- ・このような世の中の状態では道の駅のオープンはおかしい、問題外！！
- ・コロナの中で、はなはなオープンだったのでどうかと思いますがますます発展してほしい。
- ・はなはなのグランドオープンが行われたことは、あの時期にしては思い切ったと思いましたが、先延ばしでもよくなっていたとは言えないので、今できることをやっていくしかないのかなと感じた出来事です。
- ・県外への移動が自粛されているため、リニューアルオープンをしたはなはなへの来客は増加したのではないかと考える。
- ・はなはなが新しくなったことにより、集客力は増したが、コロナの影響のため、本来はもっとあったのではないかなと思った。伊方には元々観光地などはないため、収入面での影響は少ないと思う。
- ・三崎のはなはなは別世界。人が多く三崎が元気に見える。
- ・新しくできたはなはなで大勢の人が出入りしていることが心配です。今すべきことなのでしょうか？
- ・ステイホームで大きな影響があったと思う。回復には時間がかかるのでは。

- ・多大な影響を与えたと思う。
- ・物販、飲食の影響は不勉強のため存じないものの町内では最も影響が大きいと思う。ただコロナウイルスによる影響を受ける業種が少ないということが、伊方町の弱いところだと思う。
- ・住まいの近くにあるけれど行ったことのないところも結構あるので、そういった近場で楽しむのもありかなと思った。
- ・思った以上に多い人が来店していて驚いています。伊方町にとっても三崎住民にとっても街がにぎわうことは大変喜ばしいことだと思います。逆に宿泊業は厳しいです。
- ・外出を控えていたので営業することもままならなかったことと思います。
物が売れなくて客足が途絶えたところがあったこと。宿泊するのにも人数制限などこれまでとは全く違った状態。
- ・マスク、アルコール消毒の危険。
- ・人の移動減少による業績の悪化そして長期化、雇用の削減、賃金カット。
- ・お客さんが少ないのは目に見えてわかります。何かしらの対策が必要ではないかと思います。
- ・コンビニの袋が3円になった。
- ・そもそも来客が多いイメージがないため不明。
- ・観光客は来てほしいが、他県のコロナウイルス発生状況もあり、地元の人がそこ（施設）に行くことを控えてしまうと思う。今回、温泉施設が休館となって安心した面はある。
- ・町民、近隣の市町村民に積極的に利用してもらえるような工夫をする。（割引、おまけをつけるなど）
- ・遠いので行かない。温泉券ももらって行きたい反面、デマンドも乗り換えて不便である。
- ・世界的な感染拡大による自粛生活がほとんどの分野で多大な悪影響を及ぼしている。以下の項目も同様である。
- ・旅行に行けなくなった。イベントが中止になった。
- ・知らない内にコロナに感染してしまうのではないかとすると不特定多数の人が出入りする所へは行こうと思わなかった。同じように考えている人も多かった。特に県外ナンバーの車が止まっていると余計に出入りするのをためらってしまった。
- ・自粛。
- ・深刻な影響がでるのはこれからだと思う。
- ・コロナ禍。
- ・大きなイベントをして多くの人を呼び込むよりも地元を大事にして地元の人たちに支えられる施設への方向転換になった。
- ・地元の食材利用が少ない。もっといいものがあるはずです。
- ・亀ヶ池温泉も行かなくなりました。
- ・温泉へ行く回数が減った。
- ・休業要請の為、施設自体の利用減がある。観光施設は、観光をする人が収入減のため、今回利用を控えた人が多く、減収の施設、廃業した施設が多かった。
- ・旅行へ行くことが出来なかった。
- ・愛南町へ行ったとき、地方のお土産を買えなかった。（人にあげられなかった）
- ・人手が少ない。
- ・道の駅は今まで通りとはいかないまでも、人は入っていたと思います。
- ・緊急事態宣言とかで、県をまたいでの外出が自粛となったため、キャンセルとかが出て大変だと感じた。
- ・クラスターになるのを恐れて、他県による宿泊者を嫌がったり、周りの目を気にする。

- ・今回のコロナウイルス感染症で一番被害を被っているのが観光業だと思う。そして、運輸（観光バス、航空便、鉄道他）、今後どう立て直すことができるのか非常に心配である。
- ・コロナウイルス感染症者が多く出ている地域には特に施工したくないと思った。テレビ等の報道を見ていると観光地までに行く交通機関（バス、電車、飛行機）土産店、宿泊施設のキャンセル等、与えた影響は大きいと思う。
- ・多くの人が自粛または、自粛を考えている。
- ・消費者感情の減退による収入減への不安。
- ・日本・世界の観光業が日ごろの経済にも影響していることを身近に感じた。
- ・人が来ない。感染リスクが高まる。
- ・県外からの来客の対応には気を使われたのではと思います。
- ・今まで以上に消毒の徹底をする必要があるため、手が取られる。
- ・県内外の利用者が多く立ち寄りそうな施設の利用は控えています。

飲食・物販の商業施設へ与えた影響

- ・来場者の減少。 45件
- ・3密をさけての事が多くなったからお客さんが少なくなる時もある。
- ・来訪者、来客の減少。衛生環境、安全対策の徹底。
- ・消費者が自由に行動できなくなって、お客さんが減少。
- ・三密にならないようにして客が減った。
- ・外食の減少。
- ・客数減少により収入が減 長引くことであらゆる意欲も減に。
- ・観光客の減少。営業自粛、制限による売り上げの低下。
- ・飲食：外出自粛の影響で売り上げの低下。物販：買いだめによる品薄。
- ・客数が減り売り上げにも影響。
- ・売上の低下。 30件
- ・出歩けてないので外食しない家庭が増えたので売り上げ低下。
- ・外食しないので、物は売れないと思う。外での飲食控えているので、スーパーの食品は売れると思います。
- ・一時期減少したが回復しつつある。
- ・お客の減少による収入の減少。感染対策によるアルコールやシールドの設備への出費（その他いろいろの出費）いろいろなお客が来ることによる感染への不安。
- ・イベント、集会、各地域での行事が減ったり外出の自粛などの影響で買い控えがあり売上が減少したように思います。
- ・人の動きが抑えられたことで物流がうまく流れなくなったり売り上げが減ったりした。
- ・試食販売が禁止され、商品のPRが難しくなった。「免疫力向上」や「風邪予防」という言葉に消費者が敏感になった。
- ・利用客の減少、売り上げの減少、経営状態の悪化。
- ・出かける頻度や人の出入りが不足し、収入減収してしまった。
- ・不特定通の人との接触はしない様、極力外出を控える人が多かったと思うので、売上はかなり減っていると思う。
- ・飲み会の機会（外会）を減らす人が増えてたため店の営業が苦しくなっている。
- ・飲食は客が減り、経済的に大変だと思います。
- ・今までの経営方法では、厳しい時代になってきたと思います。テイクアウトやネットの有効な活用がより必要になってきたと思います。

- ・テイクアウトが増えた。 3 件
- ・テイクアウトによるごみが増えた。
- ・飲食はパッケージ（テイクアウト）物販はインターネットに変わってしまった。
- ・宅配注文の増加。
- ・家にいる時間が長くなったことで、テイクアウトの需要が高まった。また、現在パスタなどの長期保存できて手軽に調理できる食品の需要が高まっており、小売店には在庫状況などに偏りが生じているのではないかと考えられる。
- ・閉店している店が多く、営業者は大変。
- ・感染を恐れ外食を人々が控えるので食品ロスが出る。
- ・外出禁止がいけねえなあ。
- ・ある程度の影響は受けていると思うが、発生前からの落ち込みは極端に大きくはないと思う。
- ・回転寿司、うどん、セルフなどのところが衛生上でより一層の衛生管理をする。
- ・人の動きが少なくなるので必然的に観光施設への影響は大きいと思う。
- ・今残っている店舗が継続できるように考えて下さい。まずは町民の利益、インバウンドは二の次。
- ・人の移動減少による業績の悪化そして長期化、雇用の削減、賃金カットに加え、小規模事業者の廃業。
- ・もともと人が少ないのにコロナの影響でさらに少なくなったと感じています。他市では応援チケットを販売しており、テイクアウトなどでお客さんに応援をお願いしていました。このような対策をしてもよろしいのでは？
- ・回し飲みをしているので心配。
- ・これからは企画が大きく左右します。ただ資本がある業者だけがになってしまうと一人勝ちになってしまう。
- ・マスクの欠品や学校休校によりそれぞれの家庭で過ごす時間が増える中で食品（粉類等）の欠品が続いたり物流が止まる様な事が起こり対応に追われたと思う。
- ・移動、出張販売をする。
- ・町外での買い物の比率が減ったので少し町内の物販施設で買うようになった。
- ・とくに外食に関しては外食がなくなった分影響あると感じております。
- ・食品へのウイルスの感染がないか不安。
- ・物販は通販のみ。飲食は店ではしない。
- ・世界的な感染拡大による自粛生活がほとんどの分野で多大な悪影響を及ぼしている。以下の項目も同様である。
- ・特売チラシが停止した。
- ・外出せず買い物できる生協の利用高が増えた。
- ・飲食店は客が来なくて大変だったと思う。お店はティッシュペーパー等がなかなか入荷せず大変だったと思う。客が大勢押し寄せた時の対応が大変だったと思う。接客しなくては行けないが、お互いの感染が不安だったと思う。
- ・営業自粛。
- ・外出の自粛され、物が売れない。
- ・商業施設とは、どこの事？旧伊方町にあるのでしょうか？影響なんて私にはわかりません。深刻な影響がでるのはこれからだと思う。
- ・衛生面を考えた場合、清潔を心掛ける良い機会になった。人の流れを考えた陳列の見直し等も考えべき。

- ・誰もが外食、外出の自粛している。窮屈でしょうがない。
- ・欲しいものが手に入らない。
- ・外食する機会がなくなり、飲食店は収入がなくなった。
- ・店になるべく入らずにテイクアウトで社内で飲食をした。買物も月 2 回に減らしコープやインターネットでの購入が増えました。
- ・食料品、日用品は日常生活に不可欠なので、販売についてはそんなに大きな影響はないと考えられるが、ただ会食、飲み会等は自粛だったので飲食店の方たちは、生活が大変だと思う。
- ・感染対策の負担と利用者激減。
- ・不安を抱えたまま仕事をしている。
- ・物の流通が減るため、物販自体が減ることがあった。
- ・流通の滞り。
- ・食品、破棄、休業。
- ・三密にならない様気を使われているところが多かった。消毒とかもしているが、なかなか手に入らなかったりしているようだった。
- ・人との接触を嫌がり、話したり、話しかけられる状態を嫌がる。店に客が減り、物が売りづらい。商業施設も上記同様に多額の赤字経営で閉店に追い込まれているようだ。経営主だけに収まらず、そこで働いている従業員の今後の気にかかる。その家族も。
- ・人の集まる機会を減らす等、呼びかけがあったため、飲食（外食）の機会は減った。中止となったものもあった。ジャンルにもよるが、今後への不安から買い控えがあったように感じる。
- ・多大。お客さんが来ないので、店、ホテル、飲食はとくに厳しいと思う。
- ・テイクアウトなどしているところが多いが、大変厳しい感じがする。
- ・外出を控えるようになり、お客さんが減って店が閉まる。
- ・人の移動がなくなり、観光、旅行業界は大きな被害を受けていると思います。町外の人に物販、宿泊、飲食でお金を落としてもらわないとそれらを生活の糧にしている人々にとっては死活問題だと思います。
- ・収入が減り、人件費等大変でしたね。
- ・消費が減った分、商業施設は厳しいと思います。人の動きが減ったことがこれほどになるのを予想は難しいとも。打開のきっかけでも歴史が教えてくれるといいのですが。
- ・飛沫感染防止のため足が向かない。飲みに行けない。カラオケに行けない。
- ・自炊が増えたので、物販は良くなったと思う。
- ・3密を避けるため飲食店の営業等を制限され収入が激減した。
- ・人それぞれの考え方の違い。価値観の違い。
- ・外出制限により外食産業に影響を与えた。
- ・自宅でできることに目が向けられ外食は控えられDIY関連の購入が進んだ。
- ・物販はネットショップもあると思うが上記に記したことと同じことがいえると思う。
- ・感染を防ぐため外出を控えてスーパー、デパートには行く回数が減った。
- ・町外に出れない分、地元で買い物や飲食をしている人が多かったように思います。
- ・自炊が増え買い物に行くにもまとめ買いが増えたため欠品等がある店も増えている。
- ・お客さんが減った。衛生面の強化の負担。
- ・ネットで日用品等を購入する人が増えている。
- ・外出自粛する傾向があった際は収入は格段に減少している。
- ・通販やテイクアウトへの移行が図られている。

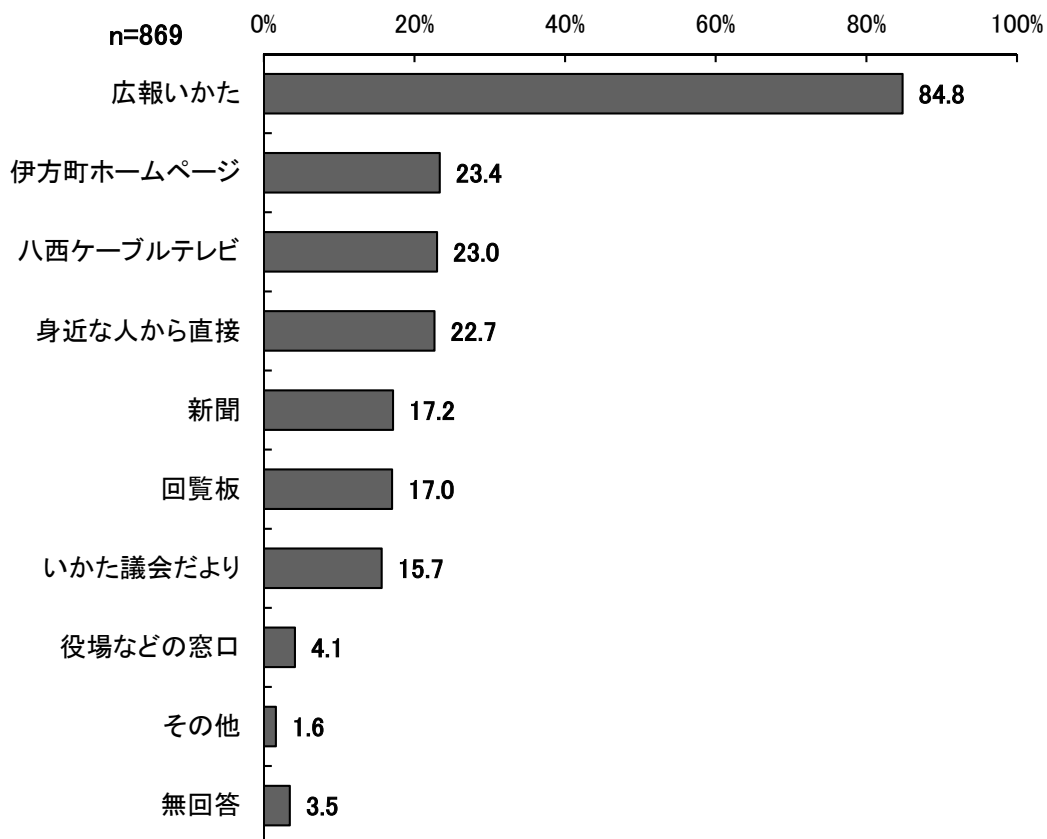
- ・ 物品、飲食については、ひと昔、ふた昔よりずいぶん贅沢になり、影響を多く受ける人がいることを知った。
- ・ 人が来ない。感染リスクが高まる。
- ・ 経済が回らなくなったことで、農産物やその他加工品等の需要に影響が出たのではないか。
- ・ 経済が回らない。
- ・ 人が動いていないので、影響大と思う。
- ・ 直接話を聞く機会はあまりないが、外出・外食を控えている影響を大きく受けていると思う。
- ・ 飲食業については、営業時間短縮等で客が困り、時間帯の制限など生産効率が非常に悪い。
- ・ 雇用者のリストラ。物流の滞りによる物資の不足。
- ・ 都会に比べては影響は少ないかもしれないが、多少はあるのではないか。
- ・ 自粛等により、飲食は厳しくなっていて、その反面、インターネット等を利用した物販は伸びているのでは、と考える。
- ・ イベント等がほぼ中止になり、業者への収入も落ちてしまったのではないか。

6. 町政への参加について

問14 町政に関する情報の入手先

あなたは、町政に関する情報を主にどこから得ていますか。(〇は3つまで)

全体では、「広報いかた」が84.8%と最も高く、8割以上の方が「広報いかた」と回答しています。次いで「伊方町ホームページ」が23.4%となっています。



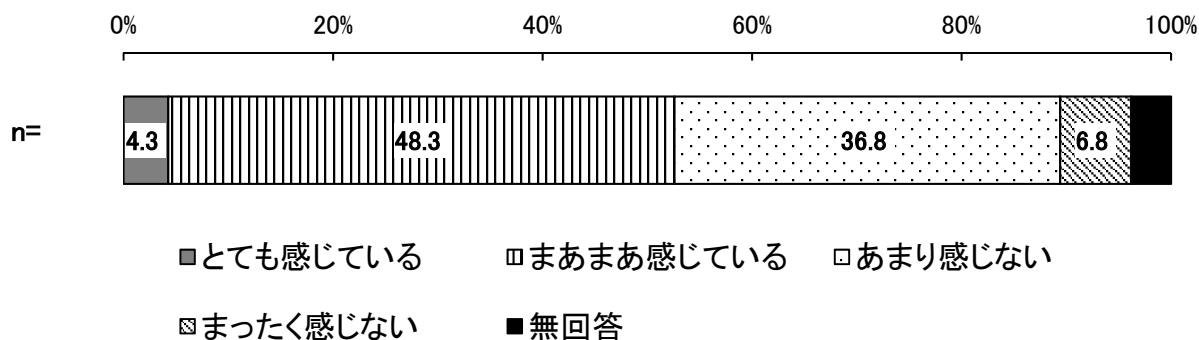
その他の回答

- ・ 職場 3件
- ・ 図書館
- ・ 町内放送
- ・ うわさ
- ・ 気にしていない
- ・ マイク放送
- ・ 特に重要でない
- ・ 防災無線戸別受信機にて
- ・ 最近若い職員を中心にホームページ掲載で職務終了の感があります。「危険情報」「コロナ」
- ・ 情報発信が少なすぎる
- ・ 難しい質問、風の便り
- ・ 得たい情報なし

問 15 情報提供、情報公開について

あなたは、町の行財政運営に関して、情報の提供や公開が十分と感じていますか。(○は1つ)

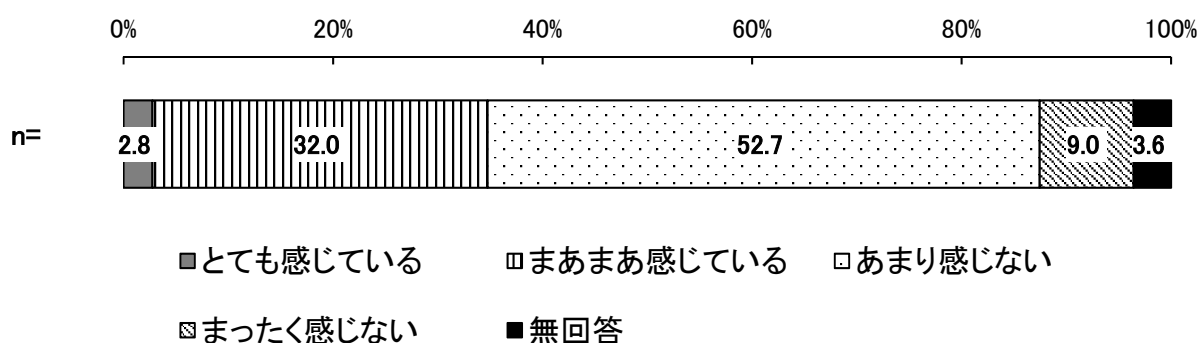
全体では、「まあまあ感じている」が48.3%と最も高く、次いで「あまり感じない」が36.8%となっています。



問 16 住民の町政への参画機会について

あなたは、住民の町政への参画機会が十分であると感じていますか。(○は1つ)

全体では、「あまり感じない」が52.7%と最も高く、次いで「まあまあ感じている」が32.0%となっています。



問17 伊方町のこれからのまちづくりについて

伊方町のこれからのまちづくりについてのご意見・ご提案がありましたら、ぜひお書きください。

■保健・医療・福祉に関すること

- ・眼科、耳鼻科、薬局が必要。
- ・地区の集会所で（看護師のサポート付）オンライン診療をしてほしい。
- ・子ども医療費助成制度の対象者を中学校卒業前からもう少し伸ばしてほしい。
- ・医療体制の充実。新型コロナ（感染症や災害発生時も含む）に対して、伊方町としても緊急医療のとれる体制を望みます。
- ・地域医療体制で高齢者しかいない伊方町で、少しでも自宅で最期看取りができる住み続けられる伊方町で在宅医療サービスを充実するようになったらと思う。
- ・伊方町はコロナの発症は今のところなく安心ですが、発症した時を考えると医療が心配です。今でも開業医だけで時間外、休日などの診察について（急患も）どこに診察してもらえばいいのか、時には大洲の方まで行ったことがあります。医療の充実を願います。
- ・生まれてからずっと町外に出なくても困らない町作りをして欲しい。そのために病院（医療機関）の充実を望みます。
- ・医療補助・福祉に関してはある程度、目に見える形で町民に寄り添う形で政策が見えていると思いますが、町内で在宅医療をしている方の支援体制を整えてほしいです。
- ・高齢者が多い伊方町、ひざや腰の痛みで病院に通っている人が多い。整形外科の先生がいない中、町外の病院に通院している人が多い。車の運転ができず不便な思いをしている人が多い。
- ・大きな病院が八幡浜市民病院しかないのはとても心配。大洲市や宇和島市まで行くのはとても遠方です。
- ・休みでも急患で、病院で診ていただくことができました。瀬戸診の対応にありがたかったです。
- ・病院がない（身近に感じない）。医療充実させてほしい。将来子どもをこの土地で育てられると思わない。高校に行くにも不便である。高校の選択が少なくなる。
- ・救急車を利用した時、受け入れ先の病院がなかなか決まらないことへの不安。遠い病院などになるととても不便になると思います。救急なのに時間がかかりすぎると助からないこともあるのでは。不安は常にあります。
- ・高齢者が今後増えていく中で老人ホームの増加を考えるべきだと思う。学校統合によって廃校になった学校を利用して施設を作るとか。
- ・更に高齢化社会が進む中、福祉に力を入れていかなければならないと思います。交通の便も悪いので心配です。
- ・介護施設の充実。
- ・高齢者や介護者への支援について、わからないことがある。わかりやすくして欲しい。
- ・現在、高齢者が入居できる施設が少なく、あっても空き待ちのため、自宅で過ごされている方が多数いらっしゃいます。訪問介護、訪問看護だけでまかなえる量を超えており、町外のサービスを利用している方も多くいます。施設の検討や、外出する他者と触れ合うような場がもう少し整備されていれば、住みやすい町になるのではないのでしょうか。
- ・伊方町には、高齢者支援の必要な人が利用できるサービスの数が少ない。そのため、必要なサービスを受けにくい。多様なサービスの中からその人の状態に合わせて、選択できるようになればいいと思う。高齢者でも簡単に利用できる筋力アップのためのマシーンを充実させた施設があればいいと思う。
- ・高齢者が多くなっている今、施設の件で心配している方が時々聞きます。

- ・旧伊方町に高齢者施設を作るべき。
- ・高齢者がますます増えるが人口は減っていく。福祉サービス、医療の充実。
- ・子育て支援。
- ・子育て支援に力をいれていることはよく分かるがお金を支援するばかりではなく商品券の活用に力をいれたらよいと思う。子どもを育てるには食は欠かせない。商品券をもらうと町内で買い物をどんどんして経済も上手くまわる。お金になると町外で買い物をするようになる。大人の必要なものを買うようになる。
- ・子育て支援もとても大切に考えていただき現在も他町村に比べると恵まれている部分が多いと感じており、大変感謝しております。その中で、子育て支援の在り方について幅広く考えてほしいと願う面もあります（障がい児に対する支援等）。だれもが住みよい伊方町になるよう、産業の発展等、今後とも取り組んでいくことが重要と思います。
- ・仕事はしたいけれど、体の状況が悪く、働きにくい。できる仕事はと思うが、ほかの場所で働くには、迷惑がかかるとなると、今後、衰えていったときに家族等に負担をかけるようになるのかと思うと不安がある。その際には受け入れてもらえるような施設の整備ができることを望みます。
- ・あまりにも毎回コロナの有線放送が多すぎ。またコロナといった感じで必要な情報を聞きもらす場合があるので、有線放送も適度に！！（コロナ）
- ・仕事上、福祉の充実、特に高齢者・障がい者に対して、今まで以上に医療体制を整えてほしいと思います。
- ・ずっと住み続けていける町にするためには、交通の利便性の向上や医療、福祉の充実をお願いしたいです。静かに暮らせる環境があるので、どの世代も安心して暮らせるまちづくりを少しずつ整備してほしいです。
- ・ひとつ気になることは、警報が発令され小・中・高と自宅待機になっている場合にも保育所には多くの子どもたちが来ている現状です。保護者の方が仕事で安全に過ごせないご家庭の子どもさんは保育所で安全に過ごし、保護者の方にも安心して預けてもらえる場所が保育所であると思いますが、保育所に子どもさんを預けて保護者の方は自宅にいるという場合も珍しくありません。幼い子どもにとって不安や恐怖を感じる時、そばにいてその不安や恐怖を取り除いて守ってあげるのは（可能な限り）やはり保護者であり家族であってほしいと思います。安心安全の基地が父親であったり、母親であったりする中で育った子どもさんは大きくなって大好きな両親の住むこの伊方町のことも好きになるのではないのでしょうか。経済的には本当に手厚い子育て支援の町だと思います。今後はお金では買えない親子の愛情や信頼関係が深まる子育て支援をしてもっともっと伊方町のことが大好きな子どもたちを育てるお手伝いができればと私自身思っています。
- ・高齢者が多い地域でも安心して暮らせる町。専門医療機関（眼科、耳鼻科、整形外科等）に受診するのにタクシーを利用している人の声→定期的通院するのにタクシー代がかかる。一人暮らしの安否確認→隣近所の人が声かける、町外に住んで連絡する等、地域が支える。気軽に集う場所づくり（高齢者だけでなく子ども達も含めて）。
- ・やはり、今後町外から戻ってこようと思える町にすることが重要だと思う。若い世代がいなくなれば盛り上がることも少なく少子化につながってしまう。「結婚、子育て」に対する補助金と働く場所を増やし安心できる町になれば活気が戻ってくると思う。
- ・高齢者の増加に伴い、高齢者への支援、伊方の将来を担う子どもたちへの細やかな支援が今後も引き続き大切になってくると思います。

- ・子育て支援、障がい児支援、高齢者支援等、福祉関係の充実に向け、力を注いでいただきありがとうございます。また、障がい児に対して、保護者の方の子育ての大変さの手助けができる環境づくり等、幅広い福祉の環境をお願いしたいと思います。

■社会基盤に関すること

- ・人口を増やすことが大事なので、住みやすい町づくりをして欲しい。道路整備をし、生活しやすい様にする。
- ・三崎から佐田岬灯台へ走っている他県の方々は車の運転に一苦労だと思います。道路幅の狭さ、急カーブにカーブミラーがない、あっても劣化してよく見えない、草刈りも年に1回程度、しかも腐葉土がいったまり道路を狭くしてその上は草だらけ。佐田岬灯台は観光地では？せめて道路幅はできた当時と同じでなければいけないと思います。覆い被さった木も観光のさまたげになっている（中、大型バス）。いくら県道と言えど伊方町です。なんとか県と連携をして改善してほしいものです。以上、交通事故にもつながるので宜しくお願いします。
- ・トンネルをもっと明るくしてほしい（補修も）。学生にとって安全な通学路か確認してほしい。街灯を増やしてほしい。災害があった時の町民への対応をどうするかシミュレーションしてほしい。津波対策、崖崩れ対策、コロナ対策、川の決壊対策、地震対策をしてほしい。警察のパトロールを増やしてほしい（町の安全安心のために）。
- ・国道に「海」のメロディがあるところの、宇和海側が木などを切って宇和海が一望できるようになったことで、毎日通っても気持ちよく通れるようになったので、反対側の瀬戸内海側は同じようにしてもらえたら、町民の方も、他から来られる方も、気持ちよく通れると思うのでよろしくお願いします。
- ・道路の補修と整備充実。
- ・生活道路の整備を一番強く希望する。
- ・県外や遠方の人が来られた場合標識が少なく、道が解りにくく、カーナビなどにも出ないとの声が多く困惑している。集落ごとの標識も必要である。二又路、三又路の分かれ道に標識も必要である。道路整備も悪く区長等に申し立てても「町」に言っているが対応しないとの返答でのりりくすり交わす程度。何かあってからでは遅いので素早い対応が必要。高齢者になって車が乗れなくなれば生活困難が生じるため県外脱出も余儀されない。住みやすい町には程遠く高齢社会の対応や交通充実等、町民の立場になって考えるべきである。
- ・道路等、何年も直らずそのままになっている場所がある。良くなる場所はすぐ良くなるが、放っておかれる所は何年たっても直らない。どうすれば良いかと思う。
- ・都会から来た人はトンネルの電気が暗くて怖いと言います。
- ・三崎港の防潮堤の出入口、八幡浜方面から来る車が、道路がカーブになっているため視界に入りづらく、すごく危険で通行しにくい。事故が起こりそうです。
- ・メロディーラインの道路の草が伸びている事が多いので草刈りをお願いしたい。
- ・メロディーラインの海を見えるように木々を整備したことがよかった。瀬戸内側もあればよいと思う。町道、農道にひびが入り、草が生い茂っている。町民から言われるより先に見回って直してほしい。車で走るとき草が（木が）当たって傷がついてしまいました。農地が次々あれていたり空き地が増えてきた。空き家対策もしていただいている。農地対策はどうにかならないか？
- ・メロディロードはなくてもいいと思う。住んでいる人には騒音でしかないと思うから。
- ・メロディーラインの景観維持に力を入れてほしいです。今も、整備をしていただいているのですが、夏場の雑草が目立ち、残念に思うことがあります。

- ・どこを見ても木が高くなりすぎたり、せっかくのすばらしい景色が見られなくなっている。小さいころはどの道を通っても美しい海を見て移動することができた。メロディーラインが最近木を切った所があるが、至る所の国道沿いの木を切って欲しい。
- ・ごみ出しの件について、商品の処理に「プラ」となっているので透明のゴミ袋に入れて指定の日に出しても持って行かず、仕方がないので持って帰る事が多いのですがどうしたらいいのでしょうか？
- ・伊方の豊かな海で育ち、貝や魚の味は忘れられない。しかし、最近ごみが増え、魚は減り、水質も悪くなってきたと感じる。放っておいても豊かな海があると思うのは間違いで、町として海の環境を守り、ごみのポイ捨てやマイクロプラスチックに対する対策をとってほしい。町民として協力していきたい。孫の代までも美しく豊かな海が自慢の伊方町であってほしい。
- ・プラスチックごみの回収回数を増やしてほしい（週1程度）。プラごみは量もあるし、かさばるため、衣類も袋に入れて出せるようにしてほしい。しぼるのが面倒。災害時（大雨、台風、地震）、避難所が海の近くのため行くのが怖い。
- ・ゴミ収集日が5週目の日は可燃ゴミ以外回収されないのが不便です。正月休みでゴミの日も休みなのはわかりますが、普段の日は5週目を飛ばすことなく回収してもらえたらありがたいです。
- ・山地における不法投棄が目立ちます。ごみを回収すると同時に防止策（監視カメラ設置等）の推進をお願いします。
- ・国道197号線のきらら館から三崎へ向かう方向でバスが放置されていて大変見苦しい。撤去してほしい。観光に来た人にも体裁が悪いです。
- ・自然：風車やソーラーパネルなど各個人の所有地であっても規制してほしい。数年後の廃棄を考慮して保証金をデポするべきでは？
- ・ここは中国に近いせいか黄砂やPM2.5が飛んでくる値が多そうですね。朝の天気予報で見ると、佐田岬の数値がわかればなと思うのですが、PM今日は九州多いです。
- ・自然との調和がとれた町づくり。
- ・自然を生かした町づくりを。風車だけが立ち並ぶ山はあまりいいものではありません。
- ・自然豊かで大変過ごしやすく感じています。
- ・伊方町の特色である自然環境や住みやすさに関してさらに改善させてもらいたい。
- ・水道の基本料金が無料になったことはうれしかったです。

■防災・減災に関すること

- ・原子力発電所の廃止に向けて動いてほしい。
- ・原発に頼らない町運営をめざしてください。
- ・原子力政策の見直し。原子力の安全性、経済性を考えると共存は不可能。負の遺産を将来世代に遺すことは無責任。
- ・原発は必要と思うが事故は人の命も奪うので必ずないようにしなければならない。
- ・災害に強い町、県と国との災害時の連絡手段の確保、町民にわかりやすい災害時の放送。
- ・津波が起きた場合の、高所への避難する道路の整備をしてほしい。例えば、伊方小学校からの子どもたちが避難することとなっている農道はおそらく地震で崖崩れになると思います。危険が少しでもないような避難をしやすい広い道を作ってほしいです。お願いします。
- ・防災。防犯のために壊れかけている空き家を壊してきれいに空き地にしてほしいです。
- ・自然災害が増えているので、避難所の整備、場所の変更。

- ・近年の大雨災害の多発、草木が茂り通行の妨げになっている場所がほとんどで、佐田岬灯台をアピールするのであれば、そこに行くまでの除草と側溝の落ち葉などの回収を、梅雨に入るまでにすべきではと感じます。
- ・豪雨時の坂道の氾濫が危険に思います。川みたいになっています。
- ・子どもたちが安全に登下校できるように、道路の整備や、危険個所を早く直してほしい。
- ・一番気になるのは、伊方小学校の子どもたちの下校時の事です。父兄か先生がいない時があります。川永田までの道路が狭い所もあり、子ども達だけでは、交通面で不安があります。何度か注意もしました。朝夕のトラックや、みかん時期の車の量が増えるからです。5年後も災害の無い今まで通りの伊方町であってほしいと思います。
- ・人口がどんどん減り、この三崎地域でも空き家が非常に多くなった。人が住んでいないとなると、倒壊の恐れがあり、大変危険である。行政では何割かの補助があり、古い家屋を崩してくれるところはまだよい。しかし、建物だけではなく、家財道具の処分に多額の費用が掛かり、簡単には事は進まないのが現状だ。家財の費用まで行政の補助とは町財政はいくらあっても足りない。子どもたちの通学路、大人たちの買い物路、従来何とか対策して、安心して通れるようにしてほしい。
- ・自然に恵まれている反面、野生動物からの被害もあるので対策。リゾート居住ですが、個々の交流しかない。遊休地等、有効に使えていない。海岸道路の充実（例えば、原発までの瀬戸内側、舗装道路造成）。八幡浜～大洲道路が遅い。防災ラジオがいまだに未設置。業者の都合でしか連絡してこない。
- ・町のお知らせなどにLINEなどの活用を。平時に活用していたら町の担当の方も災害時にタブレットですぐ対応できると思うし、町民もわからないことがあればSNSを開き、迅速に判断できると思います。タブレット購入の補助などがあれば、スマホを使用していない高齢の方の閲覧者も増えると思います。閲覧方法などの講習は必要になるかとは思いますが。防災無線について、戸別受信機でも聞きづらい時、全然聞こえない時が多々あります（受信機の故障ではなく無線の調子だとは思いますが）。町のHPで八西CATVのdボタンでも確認できるとありますが、最新の情報ではなかったようです。停電の時にも確認できるよう、SNSを利用して確認できたらよいと思います。災害時のペットと同伴・同行の避難方法について町としてどのように決められていますか？飼主にとって、ペットは大事な家族です。今災害が起きても、ペットと一緒に避難できないのであれば車中避難するしかありません。至急検討をお願いします。
- ・家屋の裏が急傾斜地である。山止めはしてあるが、そのすぐ上の畑の石垣が一部崩れ、石垣自体膨れて、この災害の多発している時期、地主には伝えたが知らんぷり。行政で何とか対策できないものか？
- ・自然災害への対応が迅速になり避難所などの開設を早い段階で行っていただいて心強いです。
- ・亀ヶ池温泉ができたことで周辺のごみのポイ捨てが目立つようになった。客の運転が乱暴であり、スピードの出しすぎ、あおり運転の話もよく聞く。交通事故も増えた。亀ヶ池温泉は本当に必要ですか？地元住民からすれば廃業してもらっても支障ない。町政は真剣に向き合い考えていただきたい
- ・避難場所のコロナ対策ができているのか、が気になった。高齢者は床から立ち上がれない人が多いため、段ボールベッドが必要。プライバシーや感染症対策にもなる仕切りはあるのか。マスクや消毒はあるのか。そういった心配から家にいるという人も多いと思う。情報も少ないので、設備があっても知らない。人口が減少しているのに、イベントが多すぎる。旧町単位で行う行事などもある程度減らさないと、参加者もボランティアも毎回同じメンバーで、休日のたびに駆り出されてうんざりする。

- ・生活の直結するインフラ整備が必要。原子力災害時の救援・救護活動を強力に支援する地域防災拠点の整備（後方支援の拠点、物資の中継点、災害時の電力、水源・用水の確保）・普段、災害時でない時は、平常時でも利用できる複合施設にしていくことで、有効活用を図る（風評被害などを受けない産業拠点としてのシンボリック役割、再生エネルギーを利用した災害に強いエコな産業の創出拠点にしていけばよいと考える）。

■移住・定住に関すること

- ・九町は田んぼの土地がそのままになっており、何か利用して頂けませんか。
- ・車のない人にとって交通機関はとても大切です。これからも町にあったバスとか交通手段の手配をお願いします。
- ・食料品などの大型スーパー、子ども服等などの店が近場でできると便利でありがたい。交通が不便で転居する人が増えているので、子どもの数が少ない。
- ・老人の住みやすい町にしないといけない（老人が多い）。元気な人は仕事をしてもらう、デイサービス以外の集まる場所を作ってあげる、老人ホームを作る。若者が住みたくなる町にしないといけない（若者が少ない）。マリンスポーツ店に力を入れてみる、海の家など。
- ・政策秘書へ。船場はデマンドが外されましたが、買い物が不便。週一回、ワンボックスカーを運行してください。
- ・若い人の就職先が少ないので過疎化対策の実施。
- ・車がなければ住めない町！！通勤手段のバスが通らなくて、仕事に行くにも自家用車でないとダメ。今は運転して行けるが、運転できなくなった時に、即仕事に行けなくなる。町のバスがあるが、あくまで通院、買い物のためのバスであり、仕事に行くには時間があわず、自分で仕事に行くしかない。持ち家があっても売れない。将来年金だけで暮らす時に近くの店は１個１個が高くて物（食品が）買えない。もっと安く食品が買える店がなければ、生活そのものの食べる事だけで精一杯で病院にも行けない。介護も受けられない、そんな将来しか今の伊方町には見えません。原発で地元で働いている人が少ない。事故があった時に一番困るのは地元の人たち。高い給料をもらって自分たちは安全な大洲や三瓶で暮らす。これっておかしくないですか！！
- ・使用されない土地、空屋が多くあるが、うまく利用できていない。
- ・コロナウイルスの関連でネット環境が整備されていれば日本中どこにいても仕事ができるのをテレビで見ました。伊方町も空き家が多いので、若い人達に住んでもらって起業してもらえれば活気が出てくると思います。
- ・バスの運行時間やバス停の設置場所。車の免許を持ってるのが前提としてのアンケートかな？
- ・若者達がＵターン又は地元に残り子どもを作り、少子化防止。そのための施策を行政の方で考えてみては？
- ・伊方町地域巡回バスが使いづらいという話をよく聞きます。主な利用者は高齢者だと思いますが、運賃を上げて停留回数を増やすことはできないのかと思います。
- ・町内に働く場所が少ないのでどうしても若者が少なく、人口流出、減少が続いている。民間にお願いしても無理でうまくいかないと思う。昔は第三セクターが一時代をかざったが当町ではこれがよいのではないかと思う。三セクで農業、漁業、観光といった事業を行うのもよいと思う。クリエイト伊方を充実する方法もあると思う。コロナを機に都市（東京）の人口（働き手）の移動が進むと思われる。インターネット環境と職場（働く場所）を充実して、都市部から伊方町にＵターンを進めていくとよいと思う。

- ・若い力を集めて活気のあふれた町にしてもらいたいです！伊方町は好きだけれど職場がないため、他の地域で働こうと思っています。でも、できることなら伊方町で暮らしたいので頑張っていきたいです！！
- ・行政は町民の目線で推進してほしい。伊方町は農業と漁業が元気で活性化しないと。町単補助事業の充実を希望します。空き家対策を徹底してほしい。人口＝町力なので企業誘致等、若者が地元に残れる対策を。交流人口を増やす工夫を（観光）。
- ・公共バスで時間帯を往復。午前午後利用できるように考えてもらったら幸いです。
- ・以前は電話で、利用で来ていたバスがとてもよかった。ありがたいと思っていた。温泉にも行けた。今のバスは不便で分かりにくいことが多く、使うのに不安、不明、利用できない。もっと生活に便利なバスを走らせてください。お願いします。温泉のチケットがあっても、行けないので残念です。
- ・若者が町外に移住される人が多く、田舎はどんどん高齢化が進んでいきます。5～10年後がとても不安になります。
- ・伊方で若い人が生活できる仕事があればいいと思います。これといった働くところがないので地元を離れてしまう人と増えるのだと思います。
- ・近所で子どもの声が聞けないのでとてもさみしいです。昔のように保育所がにぎやかになることを願っています。
- ・高齢者が多く車の運転ができない人が多い。バスとか移動方法を教えてほしい。タクシーで行くにもお金がかかる。瀬戸・三崎の方は大変だと思います。
- ・全国的にみても高齢化率が高いので独居老人、高齢になっても、安心して暮らせる町にして欲しいです。若い方達が増え、働ける様な居心地の良い町にして欲しいです。コロナ感染が拡大していますが、感染対策、感染者が出た時の対応もしっかりしていただきたらと思います。町民が安心できる対応をお願いしたいです。
- ・スクールバスを地域の交通として利用したのはすばらしい取り組みだと思いました。しかしながら、学校としての利用に制限も多いと聞きます。また、生徒たちと一般の人が同乗する際には感染症や防犯の観点からも不安が残ります。地域便としては大変ありがたいので、地域バスとして別に用意できるようであればよいと思います。
- ・まちづくりと言うよりも空き家対策を考えてほしい。空き家がふえて古くなって瓦が道に落ちたりしている所があります。事故が起こらないうちに対策をしてほしい。
- ・高齢者が多いので仕方ないとは思いますが、若者に向けた政策にも力を入れてほしいです。伊方の魅力が自然しか思い浮かびません。若者向けするようなもの、おしゃれなカフェ、インスタ映えスポットなどあればよいかなと思います。全て中途半端で古くさいです。目新しいものがあれば。今のままでは若者は増えないと思います。
- ・八幡浜市のバスを出してほしい。
- ・コンビニが各部落に出来れば良いと思う。
- ・伊方町の高齢化率は県内でも高く、当アンケートは昔ながらの古い考えを基に回答される方も少なくないと思います。特に若い方々（例えば30才未満）の意見に重きを置き集計してはいいのでしょうか。若い人の雇用の方が少なく、インフラの整備も充分でなく、快適な住環境に恵まれているとは思えません。一方この新型コロナ禍に直面して、“一極集中”の不都合が浮彫りになっています。これは伊方町にとって「まちづくりのチャンス」だと思われます。例えば、役場、役場関係者（職員含む）、各診療所、学校はもちろん、町民全員が利用できるWi-Fi環境及び機材の提供など、他地域に先駆けた取り組みを期待します。快適な住環境とインフラ整備が実

現できれば、あえて雇用の方が少なくても、若い人は集まると思います。チャンスは今しかありません。

- ・若者が働ける場所ができたと思います。
- ・これからも地域の安心安全な町、通院や買い物などに行くのに不便のないようなバス便がもっとあればと思います。
- ・空き家、空地は隣接する住民に多大な被害と草刈りなどの労力を課している。所有者の権利があれば責任もあるので対策を強化してほしい。
- ・高齢者の交通を考慮してほしい。斜面に住居がある地域が多いので、そういう地域で高齢者は友達のところにも行けず孤独を囲う。自分の目で見える買い物の楽しみなどのため定期的な買い物のための小さな車、ワゴン車あるいは白タクでよいので少額の交通費をとって充実させてほしい。
- ・子どもたちが住みたいと思えるまちづくりをしてほしい。住みやすい伊方、と思えるようにしてほしいですね。何が大切で、必要なのかを見極めてほしいと思います。
- ・子どもから高齢の方々、3世代が何かと集うことができる場が、もっとあれば良いのにと 생각합니다。例えば、高齢者施設と保育所が同じ敷地内にもしあったら、お互いに行き来しやすく、自然と交流も増え、世代を超えて皆が心豊かな日々を過ごすことができるのではと想像できます。また、元気な高齢の方がボランティア（有償が理想ですが）として地域や学校などで活躍してもらえればもっと増えたら良いと思います。子どもと高齢の方との交流は、お互いにとても良い刺激となり、得るものもとても多いと思います。
- ・若者、老人の支援策は種々あるようですが、人口比が多い中年ぐらいの世代に対する支援はないのでしょうか。独身の方も多いのですが、適齢期を過ぎ介護等はまだの年代ですが、何も町の施策もなく取り残されている感じがあります。あまり人とかかわることをしなくなった中年世代が増えたのが町の停滞感の一因のような気がします。
- ・少子高齢化、加速化、簡単に解消できないけれど、何とかしないといけない。生まれ育った若者がUターンして生活が成り立つようになればいいと思います。コロナ禍で働き方変えるチャンス。伊方町で生活しながら仕事ができるシステムを整える。
- ・原発に頼らなくても、雇用がある町。商業施設の充実や、観光地化をはかり、働ける場所を作る。
- ・自然を生かした高齢化の進まない町づくり。
- ・新型コロナをチャンスとした町づくり。
- ・これからますます高齢化となり、交通の便利が悪くなり、買い物、通院など不便になり、道路環境の悪い半島部は取り残されていくばかりにならないか心配です。
- ・瀬戸は“風車”、三崎は“はなはな”、しかし伊方は何があるだろう。みんなが集えて遊ぶ場がないと若者は息が詰まる。焼肉屋、居酒屋、喫茶店が減り、中年が集えて楽しむ場は他町にいくしかないのだろうか。
- ・町内にドラッグストアがあればいいと思う。
- ・三崎の数少ない公園「三崎ロケット公園」の整備をしてほしいという子どもの声が多数寄せられているそうです。トイレが壊れているようです。よろしく願いいたします。
- ・これからの世の中、もしかしたら大学もリモート授業のみとか、仕事もリモート作業のみの人が出てくるかもしれません。そうしたら、高等学校を卒業してもずっと町内にいられる人が増えると思います。医療、介護、教育等、何もかも充実していて何歳の人でも男性でも女性でも町内で何不自由なく生活できる町作りをして欲しいです。（勿論、私を含め町民一人一人の努力が必要）

- ・飲食店や持ち帰りのお弁当屋さん、スーパーなどが増えたらとても助かります。これから高齢になったときに買い物難民になるなら引越したいと思い悩みます。車も運転できなくなった時の事も心配です。老後も安心して暮らせるようなまちにしたいです。
- ・少子高齢化の当町、第一次産業では人手不足が問題だと思います。大都会では以前はホームレスの人達のことをニュースなどで知っていましたが、今回コロナで失業した人達も多いと聞きます。その人達を人手不足の地方に来てもらって、住環境を考えてあげて移住してもらったら人口も増えて伊方町も今以上に潤うのではないのでしょうか？当地区、子育て世代の人がいるのにほとんどの人が保内地区で生活しています。伊方町に住まない理由、その世帯に聞いた方がいいのでは？発電所も停止中で先が見えない。産業がなければ若者は出て行きます。一山、造成して、企業誘致などどうでしょう。観光、観光と言われますが、旧伊方町は素通りのような気がします。
- ・水ヶ浦小学校跡地の活用は、移住者の住宅確保、充実。住宅が最優先されるものだと思います。
- ・バスも来なくなりとても不便です。
- ・外国人の受入（移住）はやめてほしい。社会保障費の増大、地域文化の崩壊、治安の悪化などのため。
- ・若者が暮らしやすいまちづくりをしてほしい（若者の意見を取り入れて）。
- ・空き家問題が深刻だと思います。移住がいたり、Ｕターン者が来られる町がいいのではと思います。
- ・今は親と一緒に住んでいますが転勤で町外に出る可能性もあります。親が歳をとって車の運転をやめた時に買い物や病院などが心配です。高齢者にやさしい町作りをお願いします。
- ・将来主人が免許証返納したり、一人になれば役場、スーパーマーケット、郵便局、銀行、病院等に行くすべがありません。バスかタクシーになりますが、バスだと一日がかりかな。先の事ですが交通手段が１番の心配事です。伊方にはドラッグストアやホームセンターが見当たらず、八幡浜や大洲に行っています。ほか、美容院もあるのでしょうか。前のところでは地域の地図をもらっていたのですが、この辺はどんなお店があるのかよくわかりません。
- ・交通機関を町内だけでなく、八西地域全体で考えてほしい。通学のための交通機関、自動車免許を取得してない人でも生活しやすい町づくりを考えてほしい。（学生・老人）
- ・学生がバイトできるような機会があると良い。空いているアパートや空き家を有効活用してほしい。（人口を増やしてほしいから）
- ・若者が都会ばかり出ず、いかに多く伊方町に残るかが今後の伊方町の一番の課題である。大企業のような、働くところが重要となるので伊方町で土地を無料で提供して入ってもらいたいと思う。また農業等、独身者も多く、子どもができず人口の減少も大変なことになっているので、結婚相談など力を入れてもらいたい。
- ・空き家の活用を。移住促進（コロナの影響でリモートワークが増加？）
- ・佐田岬灯台までの交通手段として、土日祝だけでも三崎港から灯台までの船便があればよいと思う。
- ・若者が定住できる仕事が多くあれば。
- ・私の住んでいる地区でも、８０代の方がたくさんおられます。５年後、１０年後の人口がとても心配です。若い人達が住んでくれやすい町を望みます。
- ・若者の流出が止まらないと思います。
- ・若者が住みたい、と思う町にして行かないといけないと思います。そのために、継続的な取り組みをしていく必要があると思います。１回だけの取り組みではなかなか住み続けたいとは思わない。また、周りに同年代（若者）が少ないということも定住しにくい理由であると思います。周

りに若者がいて、共に活動できる場所があれば住み続けるのではないかと思います。住みたい、と思えるような政策の立案をよろしくお願いします。

- ・歳を取った方が介護が必要となっても受け入れがあるか心配です。年金だけで生活できるのか不安です。今は大丈夫でも、車に乗れなくなると、病院へ行くのにも、食料調達にも困ります。販売車も来なくなりました。移動図書館もなくなりました。昔のほうが集落の人口も多かったけれど、便利は良かったように思います。過疎化するからこそ生活を助けるまちづくりをお願いします。まちづくりについて意見を申し上げる機会を与えて下さりありがとうございます。
- ・（町民）高齢者が安心して楽しく暮らせる伊方町になるようにお願いします。伊方町地域巡回バスを利用したことはありませんが、大変良いことだと思います。今後も継続をお願いします。
- ・若い世代の方が、結婚や新居建築等で町外に出る方が多いと聞きます。①空き家・空地の情報提供②町が造成して少しでも安価に販売する、などの方法で流出を止めることができないでしょうか（具体的な資料があつての提案ではないのですか？）。
- ・伊方町も超高齢化。若者が保内、八幡浜に行かないように、町営住宅、コンビニ、スーパーでも誘致してはどうか？道路もくねくね道で危ないし、散歩ものんびりできる道をつくる。閉校になった学校も再利用できることを考えて、例えば教室もみかんアルバイターが使える居住スペース、イノシシの解体施設、老人ホームにする。廃園をソーラーパネルにする。廃園をなくす。伐採していく。ハ西地区に陸上競技場（サッカー場）を造る。伊方町の小さな器に留まらず、もっとよそを見て活性化しないと若者は卒業したら伊方に帰ってきませんよ。これからの5年間に何ができるのか注目してみます。町の職員も後ろ向きな人多いですよ。原発があるけん大丈夫ということもなくなりました。これに頼らずひとつずつ解決していこう。伊方もいいねと言われるようにリーダーシップとってください。
- ・交通の便が悪い（通院、通学、町外の買い物）車がなくては伊方町内では日常生活が不便。デマンドも新しい時間に変わり利用するには不便になりました。コロナウイルスが発生しているのに診療所、病院に3～4時間バス待ちは考えて頂きたいと思います。デマンドを町外バスに合わせると町内でも不便なく生活ができると思います。亀ヶ池温泉も車のない人には便利悪く温泉行きデマンドが有るといいと思います。
- ・インターネットで住みたい田舎ランキングというのがあり、愛媛県西条市が1位でした。その理由の1つに気になったものがありました。「水道代が無料の地域もある」と書いていました。人口が減り続けている伊方町においても、住みたい！と思える魅力の発信が大切だと思いました。また、団地やマンションなど湊浦や九町、三崎にはたくさんありますが他の地域にはあまりないイメージがあります。例えば結婚して家を建てるまでに時間がかかる、家を建てない人もいると思いますが、どうしても多くのマンションがある地域を選びがちだと思います。生まれ育った地区で、家は建てられないけれど住み続けたいと思っている人も少なからずいると思うので、マンションがない地域でも1つ小さいマンションを建てるのかしたら良いのかなと思いました。
- ・高齢者が多く、車の運転が必要なことはわかるが、交通マナーが悪く、怖いと感じることが多い。国道での事故が多い。スーパーやコンビニを増やしてほしい。薬局がほしい買い物は町外になってしまう。
- ・買い物難民をなくす。若者が希望もてるよう助成してほしい。移住者が増えるよう努力してほしい。
- ・定年後の仕事がない。
- ・リゾート地区のむかいパーク有効活用を前向きに検討してほしいと思います。
- ・湊浦や三崎のほうはいろいろ病院等固まってあり、行きやすいが、他の場所は不便。バスの時間も中途半端で利用しづらい。はなはなが新しくリニューアルされたが、もう少し何かあればよい

と思う。伊方のここまできても食べたいものや来る価値があるという目玉商品の開発や少し時間が過ごせる温泉施設など。八幡浜、大洲の大きい病院に行く直通バスは無理だとしても、乗り換えずに行きやすい方法（高齢者が1人でも行けるシステム）。子どもがいない家庭はタクシーで行かないといけないので、そうなると伊方町ではとても暮らしていけないから、町外に出ざるを得ない。今の伊方町では老後はとても心配です。買い物も地元での購入は高いので、結局八幡浜、大洲で買うので同価格で提供できるところがあればいい。（フジとか）野菜も地元のところは品質もあまりよくないのに高いから、まとめて八幡浜等に行きに行ってしまう。はなはなも観光地価格だから、みなっとうに行く。ただあるだけでは魅力は感じないです。

- ・飲食店が少なすぎる。若老人の住む場所の提供など（土地の提供など）。
- ・人口減少は永遠の課題。どんなに良いサービスがあっても住む場所、仕事がなく定住にはつながらないと思う。また大分等と橋やトンネルでつながると状況は変わってくるかもしれない。
- ・町外への転出者が増加しているため、町内へ新築する者への補助であったり、若者向けの住宅等を新築する必要があると思う。
- ・公園の整備、噴水を付けたり、夏でも涼めるところがあれば集える。サダンディー公園とかは？光の町ならば、街灯が少ない。おしゃれな街灯があったら面白い。サダンディー型ちょうちんとか魚型、ミカン型、とか。雑草が多い。草木も生い茂っている。夜が怖い。船を使っただけの観光業は？はなはなまで船で行くとか。釣り船、釣り大会、船観光。コインランドリーがあったら良い。水族館。海の生き物を集め、生きた魚を漁師さんと組み、活かしておく。珍しい魚とか。今日はこの魚で、とか。楽しくかわいく面白い街、伊方町になると人も集まるかな。
- ・もう少し商業関係が発展してほしいなと感じているところです（瀬戸地区にもコンビニがあれば、と少し思います）。
- ・人口分布から見ても、伊方町は高齢者が多い。高齢者が住みやすい町は子ども、若者も住みやすい町になると思う。若者定住促進をアピールするより、「高齢者にやさしい町づくり」にシフトするのも一案と思う。
- ・一人暮らしでも安く住める町営住宅があればいいです。パートで働いていると、民間のアパートは家賃が高くて住めないのです。
- ・若い世代が住みよい町にしていきたい。※若い世代、40代まで。若い世代の意見を重点に町づくりをすべき。
- ・移住対策はアフターコロナ後の対応が重要な課題である。直ちに取り組むものとする。定住対策は、様々な方策を取っているが、PR不足が感じられる。上手に集客する必要あり。若者に「魅力ある町」にするために、何が必要かは、「まちづくり」と同じ課題であると思う。
- ・日本全国の人口が減少していく中で、町外・県外からの移住を進めていき、外国人材の受け入れについても、積極的に検討すべき。集落が小規模で点在し、行政サービスや交通網が非効率となっていることから、ある程度の人口集約もやむを得ないのではないかと。
- ・例えば、「ポツンと佐田岬」。不便は自由だ！をテーマに、移住定住者に畑と伝馬船を与え、定期的に猪肉を提供、収穫された魚屋野菜は町で売り、学校や高齢者向けの給食の食材として利用し、移住者は月に数回、環境整備のボランティアを行ってもらう等、一見すると、過疎・高齢化の末期の状態と思われるものを、循環する仕組みを行政が増設することにより、Win-Winの関係が構築され、もしかすると、新たな産業の創出、働く場所の確保、健康な食生活、人口減の抑制、自然環境の維持、などの効果も期待できるかもしれません。ただし、医療と福祉に関しては、町単体では限界もあると思いますので、近隣の市町との連携も模索し、総合的、且つ、広域的な取り組みで、何かあった時の安心の確保は必要不可欠な絶対要素だと思います。

- ・現在のコロナ渦における新しい生活様式は、コロナがおさまっても元の状態になることはないと考えています。様々なところでリモートワーク、テレワークの導入が進み、オンラインでのやりとりが基本になってきました。これを機に、伊方町の産業分野、まちづくり分野もよりデジタル化に力を入れて、地理的不利をものとしめない体制づくりができればいいのではと思います。
- ・近い将来人口減少で人がいなくなる。子どもがいつまでも20人しか生まれていない。ここで結婚して家を建てるより八幡浜、保内で子どもの事を考えると仕方ないと思う。原子力の町で他の市町村よりお金があると聞けるが、将来の若者の事を考えないと誰も人が残らない。コロナウイルスで都会から田舎に帰ってくる人をテレビ報道で見たが、今の伊方町にはメリットがなくほかの市町に移るのではと心配。コロナのチャンスととらえ町を作り直してください。

■産業・観光に関すること

- ・農業・漁業他関連の事業を活発にする。
- ・農業、漁業の衰退は伊方町の衰退とイコールだと思います。後継者、若い担い手などの支援。
- ・農業支援や漁業支援も有りがなかった。町長さんにこれからも期待しています。
- ・農業・漁業の活性化。観光・移住（若い人の）が多くなると伊方町が力がついて将来が楽しい町になるのではと思う。エコロジーを中心に活性化していけたらいい。
- ・大学卒業をした若者を自社で採用できないかと考えています。農業もこれからは自分で作ったものを自分で販売していく時代だと思います。8月28、29、30日に近大農学部の子生5名が我が社へ農業体験に来ます。今後この活動は続けていく予定ですが、彼らの中から伊方町の農業後継者が現れてくることを願いながら、農業体験を受け入れます。今回は私が個人的に金銭の応援をしますが、今後、農業支援センターとの交流も考えています。
- ・農業・漁業者支援。
- ・小規模個人経営型の農業から、企業経営型の農業を推進し、周年収穫による所得向上、外部からの就農移住を促す。若者の定住促進策を多角的に検討すべし。女性の95%が20才から39才の期間に出産している事実を考えると、若者不在の町はいずれ消滅することになってしまう。
- ・地場産業（農業、漁業）への保証を手厚くし、若者が満足できる環境、賃金になれば、人が戻る（集まる）可能性もあるのではないかと思います。
- ・原発に頼らなくてもやっていけるように、それに替わる産業などを育てていくことが必要だと思う。
- ・農業・漁業が主の場所なので後継者が育つ場所にしてほしい。
- ・第一次産業、低迷しており、漁獲量（魚）の激減により、もはや漁業従事者は生活が成り立たなくなっています。地球温暖化と、異常気象により、コロナウイルスも影響して、これからの世界は1つにならない限り、一人類の危機を迎えることになるかもしれません。
- ・農業・漁業の一次産業の町として、産業を盛り上げてもらいたい。地域ブランドがなくなれば、新規就農が生まれず、住環境の良い近隣の地区に住んで農業をする人が増えてくる。地域ブランドを守り、集落営農や生産法人など産業の発展と雇用促進に向けた多対策を拡充し、町として支えてほしいと思う。
- ・加周の温泉ですが、もっとお客さんが来られるように、宿泊できると、お盆、お正月に地元に戻る方、遊びに来られる方が泊まれるので家族も助かります。すみません、後からいろいろ思い出したので書きました。

- ・手つかずの自然がある一方で、手入れされた自然を自由に行ける場所が欲しい。例えばキャンプ場・芸術の森・星空が楽しめる場所・野外ライブや年間を通してパネリストによるワークショップ。伊方町（佐田岬）アドベンチャーコース（ガイド付）。
- ・釣り客やツーリングに訪れる人々が多いため、自然環境や交通の便に強みがあると思われる。これを利用して、最近人口が増えつつあるキャンプ等のレジャー環境を整えてはどうでしょうか。また、人や車の出入りが多いと感じる割にはコンビニや買い物ができる店舗が少なく物価も少し高いと感じます。そのため伊方町にお金を落としていく人が少ないのだと思います。漁業や農業に関しては、販路はインターネットを使えばどうとでもなるとは思います。後継者不足が深刻だと思います。なので、上記にて人の出入りを増やし、この町の良さを知ってもらい、住みたいと思った人が地域の仲間に入りやすく、また漁業・農業に関しても新規参入及びその後のサポート等が充実した環境を整えることが必要だと思います。
- ・町内の道路、畑等を整備して来町者に町のいい心に残る風景を構築して観光客を増やす。
- ・各道の駅に年寄り等の入店しやすいように案内看板の見直し。
- ・他の町のことになるが、下灘駅などは「ただそこに駅があってキレイ」のような利用があるだけで観光スポットになっている。伊方町にも景色のいい場所やいわゆる写真映えするスポットはたくさんあるはず。そこを開拓し、若い人が訪れたいくなるスポットをいくつも作るべきだと思う。海に面しており、九州からのお客さんも訪れやすい立地であるから、若い人に対して影響力のある方法で観光スポット群にしまえばコロナで密を避けたい人も「景色や自然なら」と訪れやすく、魅力を感じる町になるのではないかなと思った。あと、道（特に仁田之浜の山あたり）を広げてほしい。
- ・観光：メロディーラインにおいて休憩所の充実、道の駅にカフェ等を開設。
- ・自然が多い割に、家族で自然を楽しむ場所（キャンプ場、釣り、公園、海水浴場など）があまり整備されていないように感じ、もったいないなと思います。子どもも積極的に自然の中で楽しむところがあればよいのにはと思います（レッドウイングパークしか思い浮かばないです）。
- ・古民家を利用したカフェやレストランで海の幸を提供。
- ・キャンプが流行しているので、キャンプ場を充実させる。
- ・自然が多いのはいいが、山の景観をもう少し整えてほしい。レッドウイングパークがもう少しキレイに整備してほしい。時期によって、荒れ果てて使用できない。古い町営団地の整備をした方がいいのでは？
- ・サイクリストが増えているように思います。保内ー三崎間のe-Bike貸し出し（乗り捨て）など行ってみてはどうでしょうか。カフェ等作ってサイクリングの聖地にしてみても。漁業の販売が弱いように思います。市場などで岬サバ、岬アジ等をもっと身近に売り出してはどうでしょうか。
- ・現状の伊方町で整備すべき所は三崎ではありません。旧伊方です。役場があるにもかかわらず活気がないのに気づいてください。現状町外の人々が来る魅力がありません。道の駅を湊浦につくってください。
- ・フェリー乗り場、もしくは「はなはな」に24時間使えるシャワー室を設置してはどうかなと思う。（コイン式有料）深夜や早朝に活動する県外や町外からの釣り人、バイク愛好家、サーファーなどの利用が増えて、町内での消費活動が増えることが期待できる。フェリーを利用する長距離ドライバーがフェリーの待機時間に利用することが期待できる。災害などの緊急時、町民が利用できる。衛生対策として。
- ・はなはな、もう少し栄えさせた方がよい（一度行けばもう良いかなと感じた）。「八幡浜みなと」の方がまた行こうかなと感じた。

- ・お祭りを盛大にしてほしい。イルミネーションを戻してほしい。
- ・元々、観光地がなく、観光の町というイメージがないところに、観光で成功させるというイメージがわからない。その中で、中途半端に観光に取り組むということになれば、町の向くべき方向が定まらなくなると考える。今後、まちづくりを目指す中でのビジョンをしっかりと持つことが重要。一次産業の町、福祉施設が充実等、なにかに特化するのがいいかと考える。
- ・「197号線沿いに町見資料館を移動し、伊方の文化・歴史を大々的にアピールする。伊方のマスコット”サダンディ”をもっとアピールしてほしい。”サダンディ”のグッズもたくさん作ってほしい。特化すべきだと思う。
- ・美容院等、町内の店の宣伝。20年ぶりに帰ってきたが、いろいろ新しくなっていて、どこに何があるのかあまりわからない。移転したしらす食堂に知り合いが行ったが、店員が不愛想で「箸をとってください」など何の声かけもなく、二度と行かないと言っていた。観光施設での接客の指導をした方がよい。
- ・人口の減少、高齢化が進む中で、一次産業の発展があまり望めないと思うので、農水産物品の開発、観光資源の開発等をして、集客に力を入れる。
- ・既存の施設等を整備し、集客ができるように。
- ・この景色を見るために県外からでも足を運ばせたい！と思うような「映える」メロディーラインにしたいです。春には桜の並木道、秋には黄色一色になるようなイチョウの並木道、並木道を抜けると、海の景色が広がる。そうなればとても素敵だと思います。草刈をただけで、海がとてもきれいになった場所がありましたので、景観を損なう支障樹や草、ゴミを撤去して町民全体のプロジェクトとして「映えるメロディーライン」にしたいです。
- ・はなはなが、10億とは思えない。三崎漁協の海の産品ない。
- ・はなはなは補助事業であり、三崎の土地に有りながら、三崎漁協が入っておらないことは私たち第三者には分かりかねますが、結果として町の怠慢に過ぎません。何かに公表願います。建物も、高いようにも思いますが、詳しく知らせていただきたいです。
- ・大金をかけて三崎にはなはなを建設したのは疑問です。もっと他に使い道あるでしょう。どん詰まりどん詰まりの地に作っても集客持続できるのか？発展を求めるのなら、九州へと続く橋を架けてもらいたいものです。是非、橋を作ってください。これは四国全体の発展につながります。大久展望台のところにコンビニを作るべきです。エミフル松前のような大型スーパーがあれば人も増える。
- ・三崎に「はなはな」ができたのに『三崎漁協』や『西宇和農協』が出店していないことに強い違和感があります。本来であれば町をあげて施設を盛り上げていかないといけないと思いますが一部の業者だけが潤っている感じがします。5年後、10年後もみんなが集まる施設にしてほしいです。もっと地元の思いや意見をくみとって施設運営をしてください。大久展望台が何もなく建物は立派なのに寂しい感じがします。イベント等、有効活用すれば良いと思います。原発があるというのは地元の方、声を大にしては言いにくいのですがとても不安です。くれぐれも安心、安全でお願いしたいです。
- ・三崎地域にあるはなはなについて、地元の農産物を気軽に販売できるようになればいいと思います。地域から使用しにくいと多くの声を聴き、以前は小さな団体がマーマレード等を手作りし、売っていましたが、手数料等の理由から販売をやめたようです。
- ・伊方町へ来てよかったと思っています。山があって海があって、瀬戸内海と宇和海が見ることができ、自然がいっぱいです。住めば都。本当だと思います。伊方へ入ったらメロディーライン音楽が鳴る道路、ちょっと短くて残念ですが、3か所もあるので、楽しめます。人がいいのも大切だと思います。30年経ち、風車が続々と建ち自然が変わりました。地域でも空き家が増えてき

ました。コロナの影響でテレワークとか在宅とか言われてきたので、働き方改革でもっと移住（伊方へ）してもらうようアピールしたらいいと思います。若い人が多くなるとうれしいです。子どもの声がすると元気が出ます。

- ・家の近くを猫が出現するため駆除して欲しい。子どもも危険であると感じている。
- ・まちづくりではないのですが、魚釣りの客のマナーの悪さ、ゴミ捨て、トイレなどで釣り場が大変汚れているのが気になります。（道路にも捨てる）
- ・有害鳥獣対策の強化。
- ・イノシシ被害の対策。
- ・このアンケートは私個人の事を聞かれたところは答えられますが、伊方町のまちづくり等の産業や経済のことなどよくわからないまま答えました。議員の方々は町民の代表なので役目を果たしていただいていたらこのようなアンケートはいらないと思います。がんばってほしいです。
- ・老人が多くなり、土地が荒れてしまって、イノシシやほかの動物たちの住処になっているので、それを何とかしないといけないと思う。
- ・空き家が多くなり、害虫が多くなったり、危ない建物があるので何とかしていただきたい。
- ・町外出身者としては、伊方町でエネルギーと聞くと原子力発電を思い浮かべてしまう。けれども風車の風力発電等も含め、他のエネルギー関連の事柄もある。エネルギー産業と一括りにせず、ほかの部分についても昨今の取り組みをPRしていくのがよいのではないかと感じる。
- ・三崎だけでなく伊方の手前の町にも道の駅を作るといいと思う。三崎にわざわざ行く人は限られている。
- ・まちづくりの前に接客時の「いらっしゃいませ」、「ありがとうございました」の挨拶ができていない方が多いのが気になります。何よりも一番大事なことが出来ていないでまちづくりをしても人は来ません。
- ・地元優先の社会にし、伊方町が生き残るには伊方町の会社、施設などを利用することで経済も回っていくと思います。助け合っていく社会にしてほしいと思います。商業も潤っていくと思います。地元のお店などは価格が高いため利用する方も減少している中、行政が優先的に利用することで地元のお店や会社なども生き残っていけると思います。そうすれば若い方も地元で助け、伊方町に戻り生活でき過疎化も止められるのではないのでしょうか？今のままだと人口も減り伊方町も合併しないといけない状況になりそうなので不安だらけです。伊方町の名が残るよう希望します。行政が頑張って下さるようお願いします。
- ・もっと大きな企業を誘致して働くところを増やし安定した生活ができるようにすれば活気づくと思う。漁業、農業の町なのでブランド化に取り組んで漁師、農家の収入を上げ魅力のある仕事にすれば自然と後継者が増えると思います。
- ・経済を回せというが、経済力がない者に言っても仕方がないことである。娯楽もなければ、観光地もたいしたものがない伊方町に、少なすぎる所得を求めてやってくる人などそもそも皆無であり、今後ますます衰退していくのが目に見えている。なぜ、抜本的な改革を行わないのか。高齢者は死にゆく者たちで、彼らのことばかり考えていても未来はない。なぜ未来に目を向けないのか。なぜ伊方の若者が八幡浜に住むのかがわからないような行政では、あまりにも考えがなさすぎる。今の伊方町に何か魅力が少しでもあると思っているのならそのような愚か者は行政にかかわらない方がよい。最終処分場を受け入れてもして、産業を作った方が将来のためである。

■教育・スポーツ・文化に関すること

- ・子どもが伊方スポーツセンターのスイミングスクールに通っているのですが、指導者が無資格だと聞いたので町外のスクールに変えようかと思っているのですが、できれば町内の方が子どもも通いやすいので、町の方から有資格者を派遣することはできないでしょうか。
- ・町内の子ども達（中学生）のために、現在の三崎高校を伊方町（中心地）の便利な場所に新設してほしい。
- ・町民はアリーナを無料にしてほしい（プール、体育館、ジム）。
- ・今ある施設をもっと有効利用するべき。伊方町スポーツセンターでもっとスポーツジムやスイミングスクールを実施するなど。室の鼻公園をもっと整備して地元の人間が年中利用できるようにする。宿泊施設の整備、プールの整備、キャンプができるように周辺を整備。子どもが遊べるようなアスレチックを作る。有効な土地の利用。亀が池に水上ゴルフ場を建設など。瀬戸アグリトピアにツーリング客が休憩できるような施設を建設など（ツーリング客以外でも県外や帰省してきた人がもっと利用しやすくする）。
- ・三崎高校の新入生が増えてうれしく思っています。一時的でなく、継続できるように先生方も頑張っているので一日も早く寮の完成を希望します。
- ・三崎高校の生徒数確保のために活動されている方々の支援をお願いします。経験のある熱心な方の支援が受けられるよう人材確保も必要と考えます。寮の整備だけでなく生活面のサポートや指導をお願いできる方がいてくれれば今後も安心して遠方からの生徒を受け入れできると思います。
- ・三崎地域に住んでいますが、道の駅などの観光を頑張るより図書館を作ったり公園を作ったりこれからの世代を担う子どもたちのことを最優先として考えていただきたいです。また、夏休み限定でもいいので中学生対象（地域の誰でもOKでもいいのですが）の伊方の図書館専用バスなどがあればいいのではないかと考えます。
- ・学校もなくさないで欲しいです。
- ・子どもの進学（高校）を考えると不安です。三崎地区に住んでいるから三崎高校へ進学する！と決めつけられた考えは絶対に嫌です。八幡浜高校への通学も大変だと思うので町内からも八幡浜高校行きのバスや支援をしてほしいです。また、少人数の中学校、小学校ではメリットよりもデメリットの方がはるかに多い。町内の中学校、小学校の統合を早急に進めてもらいたい。地区にいる子どもがいなくなります。このようなアンケートや意見などを書くにしても誰が書いたのか？特定されるのですごく書きにくいです。
- ・保育所、小中学校の統合など早急に進めてほしいと思う。5年、10年先には児童、生徒数は減少していると思います。何度も統合するよりもなるべく回数を少なくしてできるようやってもらいたい。
- ・今の小・中学生が現住所からでも広域の入学ができるようになればいい。学校活動や部活動等、少子化で減っている中で、地域での活動も大切にしつつ子どもが自ら選べる社会になってくれると嬉しいと思います。少子化も進み、また進学等で町外に出ざる負えない中でも行政もバックアップや見守ってくれていると感じられるような体制が欲しいです。
- ・SDGsを実現していく。ESDを教育の中で、積極的に取り組む。
- ・子ども、子育てへの整備事業はとても良いと思います。その点、小学校・中学校での学力低下や運動が苦手な児童・生徒が最近多くなっていると思います。習い事など各ご家庭の都合もあるかと思いますが、スポーツ少年団や各自治体支援のためにも、支援金等準備、支給できれば、参加率もアップされるのではないのでしょうか？今回の、新型コロナウイルスなど、未知の支援として、各ご家庭のWi-Fiサポートを行ってほしいと思います。設置していない家庭、設置し

- ている家庭等もあると思いますが、それぞれで対応、支援金など、捻出できれば、オンラインでの授業、会議等に活かせるのではないのでしょうか。
- ・伊方小、伊方中を1つにする。それぞれ1校に。高校へ通う交通の便を考える。毎回親御さんが送り迎えをしている家庭が案外多いので。田舎が都会に近づこうとしても無理なので、田舎は田舎らしく過ごせればよい。原発があるので、住みたくない、移住はしたくない、と友達が言っていた。「大丈夫？」とすごく心配される。学校であったことなど、先生方で話し合いがされていない気がした。同校だけでなく、他校の事例とかも引き継いだほうが良いと思う。親を守るのではなく、子どもを守ってほしい。
 - ・高等学校の教員住宅が本当に可哀想なくらい汚過ぎる。三崎や伊方の存続のためにかなりの力を注ぎ、今年は多くの県外生の入学もあり、朝の通学風景も町民に喜びを与えている。高校の教員は子持ちも多いので、その人たちが一時的にでもこの町に住んだら小中学校の人数も増える。また、結婚している人たちもいるので夫婦で住める。快適な住まいをつくってほしい。あれは人間が住めるところではないです。ぜひ町で支援して助けていただきたいです。廃校になった小学校、中学校を宿泊施設にしたらいいと思う。長期休暇中に使用できるようにするだけでも活気がでると思う。三崎にコンサートのできるホールが欲しい。町民文化会館がなくなってかなり音楽文化の普及ができなくなっている。
 - ・三崎高校が、なかなかがんばっているようで、八幡浜あたりをはじめ、よそから志望してくれている若者が増えているそうです。自分のころは生徒が減り、分校化の危機が常にあり、学力で勝負したい人はよそへ行くから、皆そこそこの中で、でも自由にいじめもないようなイメージで。この間中学生の子をもつお母さんに聞いた時はおどろきました。時代が変わったようで。若い人達が、のびのびしていけるようなサポートをしてあげてほしいです。情報や流行は今の時代、さまざまに得るでしょう。コロナの中だからかもしれませんが、生き抜いていく力をつけていてほしいです。若い人（子どもも含めて）の伸びる力を大事にしていけば、活力につながるように思えます。高齢者のサポートも引き続いてお願いします。集落毎の個性があるようですが、長い経験とその能力が死んでいく日まで尊重されることを願います。
 - ・私は三崎高校出身者です。町内唯一の高校として三崎高校には大きな役割があると感じています。町運営の公営塾や生徒寮の完備等にご支援をいただき、感謝申し上げます。高校独自の地域活性化・まちおこしと行政の支援により、今年度は多くの入学者が県内外から来てくれました。今後ともぜひ「伊方町」と「三崎高校」の関係を深めていってほしいとおもいます。なぜなら、高校の魅力化・地域の活性化は行政の協力がなくては成しえないからです。現状では、何か要望等あれば、町に協力してもらったり、高校生がお願いをしに行ったりしています。しかし、より密接な常時的な関係作りを目指してほしいと思います。例えば、町政に高校生の意見を取り入れる活動を行ったり、まちおこしの取り組みやプロジェクトに町が全面的に関わったりすることです。私が三崎高校を卒業して感じたことに、「高校生の力」というものがあります。一昔前とは違い、いまや高校とは進学を目指すだけの場所ではなく、やりたいことに挑戦したり、自分の夢を形作ったりするための様々な経験ができる場です。そういった意味で三崎高校は今後「選ばれる高校」となっていかなければなりません。その最大のコンセプトが、地域活性化、まちおこしです。この町にきて良かった、三崎高校にきて良かったと全ての生徒が思える高校にするために、伊方町との連携が必要です。地域活性化に成功している県外の地域を見ても同じことが言えます。教育現場と行政との連携です。同じ町内にあるのですから、互いに協力・連携し合ってより良い町づくりを目指していただきたいです。
 - ・図書館まで行くのに遠い為利用しづらい。
 - ・各地域に自由に本を読める借りられる場所。

- ・子どもの人数が少ないですが学校が休日の場合、子ども、お母さんが利用できる場所。
- ・子どもたちにとって住みよいまちづくり（教育面）
- ・学校再編（中学校）。
- ・子育て支援に関して、障がい児に対する学童や支援をもう少し考えていただき、だれもが住みよい町にしていきたい。
- ・障がいを感じる子を持つ保護者の要望・要求を毎年伺う機会を作ってもらえたらと思います。現在、学童クラブに入れないということで不安を感じている方がおられるので、ぜひ、体制を考えて誰でも受け入れられるようにしてもらえたらと思います。
- ・伽藍山に行く所。そのままにしていたらどうなるだろう。直してもらいたい。お願いします。明神農協前のすべりの所も何年も直してほしいと考えるが、直してほしい。お盆にささ舟を流す重要な場所、県の方に頼んでもらいたい。年寄、子どもが転ばないかと考える。そのままにしていたらどうなるのだろう。大切な財産がこわれてしまう。無形な文化財（ささ舟流し）お願いしたい。
- ・町の良さは外部から来た者の目によくわかるようだ。三崎高校は外部から多くの人間が集まりいろいろな刺激になっている。本町最大の人材育成機関として今後の活躍に期待しているし、町の適切な支援にも期待している。少子高齢化はますます進むと思うので若者が働ける場所、居たいと思うまちづくりが大事だと思います。

■住民協働・行財政に関すること

- ・全てを行政に頼るのではなく、町民自らが町を良くしたいという思い、提案が出てくる町になればいいと思う。
- ・住居地域でできることは、自分たちで行い、できないことを行政が担う。そのために、行政はなるべく予算と権限を住民に地域に持たすようにしてほしい。また、住民や地域と行政を分けるのではなく、全員が住民として同じテーブルにつけるようにしてほしい。
- ・毎日何事なく過ごさせていただけのも町政がしっかりしているお陰です。これからも協力して伊方町が良くなるようにしていきますので、これからもよろしくお願いします。
- ・北朝鮮ではないのですから、理不尽な差別等で犯罪的な行政暴力はやめてほしい。他の自治会からも同様ですから、子どもに笑われますから直ちに改めてください。
- ・今後とも、町民の声に寄りそったまちづくりをお願いしたいと思います。
- ・私達高齢者近所周りも高齢者、皆が高齢者、確かに防災の事、地域の事、しっかり参加すべきだし、70才を過ぎても区長もやらなければなりません。自分たちの日々を成り立たせるのに一生懸命なのに地域の役目等も本当に苦になるし、頭がついていきません。先の自分たちが病院や買い物どうするのだろうかの心配と同じぐらい地域での役割をどうしたらいいのかの心配もあります。静かにのんびり暮らしたいけれどなかなかそうはいきそうにありません。先は考えると暗くなります。
- ・区長に言っても町政に（町役場に）意見が伝わらない。
- ・伊方町になり十数年が過ぎました。それぞれの地区の長所を活かしながら、町として、公正・公平な行政の取り組みを希望します。
- ・20代や30代の人たちがなかなか地域の事に関心を持ってくれません。人数が少なくいつも決まったメンバーであれこれ考えてもダメだと思います。何か変えるなら一部の人たちだけではなく、少し強引にでも話し合いの場に参加するように声がけしなくてはならないと思います。
- ・ふるさと納税にもっと力を入れてほしい。

- ・町会議員の活動日が少ないのに議員の報酬が多すぎるので活動した日当に対しての報酬にして欲しい。
- ・町議員について、旧三町の人工割の議員数にする方が良いと思います。議員はもう少し仕事をしないと（町のために）給料取りでは各区長の方が良い。
- ・皆様一所懸命行っています。頭が下がります。これ以上望むは勿体無く思います。日を見るよりも有無易いと言う。いいえ今が大切な時ですよ。決して焦らず邁進してってください。陰ながら応援を無力なれど、見守らせて頂きとう存じます。失礼します。未来の伊方町、有り難き俸せです。愛しいなあ。陰ながら見ています。いつでも側に居て様子を伺ってる彼方を見ていますよ。頑張ってください。誇り高き伊方町。
- ・役場へ行くのは住民票の必要な時だけですか？内部の職員さんたちは、今も１０時１５時とお茶タイムをやっているのでしょうか？以前その時間帯に窓口に行ったとき、女の子が上司の方々にマイカップらしきの机に置いていましたが、飲みたい人が自分でする方がいいと思いました。まだ女子のお茶くみが残っているかと思いました。地域おこし協力隊（他県）の方々が地元に来て下さって、新しい風を入れていることに大いに期待しています。コロナでどこも大変ですが、皆で頑張りたいと思います。
- ・少ない財政予算の中、職員が知恵を出し補助金等の活用を含め、しっかりと町民を守ってください。町民も無理を言わず自分のできるところはやっていきたい。甘える時代は終わった。
- ・まちづくりの検討委員はあて職でなく積極的に意見を述べてくれる人を選任した方がよいのではないかな？農業従事者の高齢化に伴い、町独自の補助・助成を広く活用できるようにしてほしい。本町の高齢化率が県内で下から２番目となっている。人口の半数が高齢者で運営されている高齢者にもっと安心できるような町づくり推進（予算）を行って！
- ・町づくりには役場職員の質や対応が大切だと思う。良い職員もいるが、ぼーっとしている者も多いと聞く。まじめな職員できちんと町民と公平公正にしてほしい！町の声をよく聞くこと、これからに期待します。若者が伊方町から出ないように住宅やもっと働く場所があると良いと思う。高齢者にも簡単な仕事を！町づくりは町と町民が一体となっていなければ進まないから、我々も協力して住みよい伊方町にするように努力しなければいけない。
- ・地域リーダーの育成。職員 OB や職員が地域とのコミュニケーションが取れていない？
- ・地域内循環型社会を目指すとともに、これまでの中央寄りの政策でなく地域分散ネットワーク型の政策を推進すべき。
- ・行政の町の施設や町づくりの考え方がおかしいと思う。動いてくれる人や新しいアイデアを出す者は外野になって何もしない、何のアイデアも出さない。言ったら自分の意見も言わないが対する人にも何も文句を言わない人が多い（そういう人が上司になっている）。現在ある施設に対し非協力的、他人事の人が多施設に対してアフターがない。マニュアル化しすぎている。情や町に対しての愛が感じられない。まちづくりに活気がない。経営者まかせでしらん顔。
- ・国の政治が悪いので市・町・村レベルではなかなか変わらないのではないかと思います。なので、県と話し合い少しでも国へ意見、提案できる様な機会が持てるようにして都会と田舎との格差を少しでも減らせれば若者も少しは田舎へ移住すると思います。これから変えていかないと日本の田舎は崩壊していくと思います。また、最近の若年層は政治への関心がないのではなく、変わらない日本の政治に対して諦めているのではないのでしょうか？なので、若年者が関心を持てる政治をしなければいけないと思います。
- ・少子化により閉校になった学校等を再利用（開放）して、もう少し学校支援等や地域活動の活性化もできるのではないかと、とても感じます。週に一回ずつでもよいと思うので開放して、現在はコロナウイルス等もあり、考えることはあると思いますが、進め方次第では対応も十分可能

- ではないか？と感じています。学校支援（不登校、学校に行き難い生徒への対応）の充実等、そんな子ども達の居場所作り、集いの場、保護同士の集いの場（意見交換の場）など。
- ・行政ではないけれど議員が報告会を全く行わないことに驚いた。
 - ・アンケートするぐらいなら、もっと積極的に動くべき。
 - ・若者が活動的に楽しく生きるには住民の意識改革、彼らを中心に置く。50%以上の高齢社会で高齢者が生き生きと生きなければ魅力のない町。
 - ・伊方町民みんなが笑顔でふれあえたら楽しい町づくりになるのではと思います。
 - ・1. 町長と語る会を実施してほしい。各地を年一回程度。町長は外部から見れば、消極的なタイプに見える。もっと表に出て、積極的に動いてほしい。町長室にこもってはダメ。2. 議会に対して①財政が厳しい折、議員さんは身を切る努力をしてほしい。手当を下げる、他町と比較しない。議員定数を2減にしているが不十分。ボーナスも不要。ボーナスは年間頑張っている人、民間が利益を出した場合に出すもの。肩書だけで与えてはいけない。町の面積÷議員数＝1人当たり〇〇㎡。他市町と比較してほしい。②「議会だより」の研修報告で2人の議員が同じ研修をし、報告を同じ（内容が同じ）ようにやる必要があるのか。1人でよい。③議会に対して。毎回同じ人（1期）が質問している。理解できない。私は自分の支持した議員の声も聞きたい。各議員は年間1回以上の質問をしてほしい。するように制度を変えるべき。議員はただ座っているだけでは、勉強しなくなる。無気力、無関心になる。議員は住民の代表であることを忘れないように。3. 敬老会の補助。70歳以上にしては。他に金の使い道があると思う。65歳は現役。
 - ・善悪のわからない方が地区にいる。他人にどれだけ嫌な思いをしているのか。自分の行動をよく考えてほしい。困っている人、老人、子どもたちにやさしく、助け合いの精神が必要。皆さんの前ではなかなか意見は言いづらいと思うので、地区に意見箱を置いたらいいのでは。
 - ・広報いかたなどの配り物が多いので、もう少し減らす方向でいってください
 - ・小中高生がまちづくりに尽力しているように思います。小中高生のアイデアと行政で協力して何かやってみてはどうでしょうか。学校は何かやりたくても金銭面が原因でできていないと聞きました。
 - ・三崎ばかりに力が入っている。残された瀬戸、九町はさびれるばかり。もっと平等にしてほしい。
 - ・配達をしてくださるお店が減り、本当に困っています。お買い物代行の組織を作って欲しいです。そこに電話をして、欲しい品を伝えと、代わりに買ってきてくださる仕組みを作って欲しいです。お店も指名できたら有り難いです。買い物代行を含め、何でも屋、便利屋があって、困っていることを何でもしてくださる業者があればと思います。役場にも「何でも課」ができると有り難いです。利用料が高額の場合、町が一部負担してくださると有り難いです。とにかく、弱者に優しい町に更になって欲しい。
 - ・スマートシティ的な発想を少し取り入れて頂きたい。町長をはじめとする議会などの町政構想が住民に伝わらない。
 - ・人との思いやりと認め合う心。受け入れの気持ち。
 - ・高齢化率の高い伊方町としては、高齢者にやさしい住みやすい町づくりをめざしてほしい。空き家対策、増える独居老人、少子化など、課題は山積みですが若い人が安心して子育て、仕事が出る様にしてほしい。独居老人も家に閉じこもらず引っ込み思案にならないよう、近所で見守り、応援していける町づくりをする。
 - ・広報いかたを家族で楽しみにしています。今後5年間、廃止にならないよう、公平さを保つためにも出版してください。お願いします。一円一銭たりとも無駄にならないよう、ことの重大さをも受け継いでほしいです。

- ・問い合わせの電話の際に、その課の窓口に直接しているのにわからない職員が多すぎる。若手の採用は積極的にされるべきですが、教育もされるべきでは？と思います。保留にされ切られたことも何度がありました。電話の使い方からご指導しなければならない方もいらっしゃるのでは？丁寧に対応してくださる方がいる分、残念に思います。まちづくりの基盤は伊方町舎の職員の教育からと思いますので検討をお願いします。
- ・特定の地域だけが優遇される傾向があると思う。
- ・原発立地により得られる利益を最大限にするための意識改革及び施策。
- ・行政は本当に伊方町の将来について考えているのか不信感を感じる。なぜ三崎地区ばかり気にして税金を投じているのか、と思うことが多々ある。町民アンケートも、必要だろうが、行政からのアピールをもっとすべき。アンケートをしたところで、フィードバックしてくれるのか？町長の伊方町に対する将来像を発信してほしい。全く感じられない。町長はもっと町民に対しいろいろアピールをしてもらいたい。何をしているのか、考えているのかが全く伝わってこない。町職員も将来像について真剣に考えてほしい。今更ながら、少々の失敗は気にしていない。逆に何もしていないように思えることが不信感を覚える。職員は税金で自己の生活が成り立っているということをもっと自覚しないとだめだ。町長始め、議員も同様、議員はただの名誉職ではないのですよ！伊方町の将来ビジョンを早く示してほしい、大事だと私は思います。
- ・伊方町は、経済的には余裕があると思われる。大きく町が変わる、政策を今のうちに行うべきであると考えている。ちまちまとした政策ではなく、１０年、２０年後を見据えた計画を立ち上げ、進めてほしい
- ・行政を信じ、協力する気持ちを持ち、自分の生活を大切に丁寧に過ごしていけ良いと思う
- ・伊方町役場の職員（正職員）を、コネで入れるのも結構ですが、全く仕事のできない人を入れなくてほしい。なぜこの人が？という人が多い気がします。こんなことを続ける様では、この先伊方町には若い人は残らないだろうな、と感じる。伊方に帰ってきてほしいのであれば、きちんと収入を得ることのできる場所をもっと増やすべき。伊方を出ていかざるを得ない状況を伊方町自体が作り出しているのでは？
- ・モノづくりより、人づくりだと思います。
- ・何事においても（町民）すみずみまで行き届いてない。役場関係のみで行っている様子。町（役所）の人たちの思いだけで動いているようです。
- ・伊方のために、汗をかいて、頑張っている姿職員には、それなりの対応を願います。もちろん、反対の職員にはそれなりの対応を！！
- ・高齢化が進み、担い手が少なく、負担になることが多くなる。地域のため、サービス精神はある方ではあるが、仕事が収入減となり、やりがいよりは、役などが終わったあと、やれやれ、とってしまう。地域に貢献したい気持ちはあるが、せめて６０代からなど落ち着いたときに大役はしたいと思っています。若い方は、休みにくいと感じ、町外に出ていかれると聞きます。負担を少なくすること、５０代までは働きやすい環境でいることが望みます。役などもそれを仕事として、６０歳以上のしっかりした方に、給料を（バイト料など）支払ってしてもらおう、仕事として考えていったなら、地域もうまく回る気がします。
- ・何がしたいのか方向性が見えにくい！議員による力関係の予算の動き方がおもしろい。
- ・住民の数に対して、議員数が多いと思う。選挙の時、所信表明演説もないまま、選出される方法は考え直すべきだと思います。長期的な町づくりに努めてほしい。
- ・行政と町民（住民）の一体感を感じない。合併前の３町間に温度差がある。将来の世代のことを考えていない。素晴らしい自然に恵まれた地域なのに小さな派閥が絶えない。

- ・このようなアンケートを行い町民の意見や考えを聞くことは大変良いことだと思います。しかしどのような意見が出てきたのか、集計してどのような考えが多かったのかという結果を町民に公表することが少ないのではないかと思います。またアンケートの結果をふまえて行政は具体的にどのように動き、そしてその結果、成果はどうだったのか、一連の流れがあってはじめてこのアンケートを実施した意味があると考えます。一方的や事務的なアンケートの実施だけだと全く意味がないと思うのでしっかりと実践に移してほしいです。
- ・募金が強制に感じるので住みづらい。政治の透明性は他の市町村に比べて低い。政治が活発に感じない。若さがほしい。
- ・伊方町の生活について特に不平不満があるわけではなく普通に生活できる町であるとは思いますが。しかし、ただ１点、なぜ老人会に６５歳で強制的に入会しなければならないのか。親子で入り、親は子どもに遠慮して老人会に出席しないという話も聞きます。本末転倒などと思います。今、６５才は老人ではないと思うのですが。個人的に時々このことで町外に住みたいと思ってしまいます。
- ・このコロナ渦の時人とのつながりが最も大切だと言われています。一部の企業や住民のための行政では未来はありません。町内住民だけではなくグローバルな人と人とのつながりをもてる環境づくりが必要です。持続可能な社会であることも！
- ・少ない人数なので、住民と行政が協力しながらまちづくりを進めていったらいいと思います。
- ・行政の中心を伊方の本所に集中されており、三崎、瀬戸地区の対応が不十分だと思います。三崎はなはなに地域の方ではない、町外の出店を受け入れていることに不信感があります。保健事業も支所が不在で困ります。
- ・町政いろいろと取り組んでいて私が知らないことがあると思います。地域で気になることを支所に行きお願いに行くと職員がすぐ対応してもらい感謝しています。
- ・友人が役場で働いているので申し訳ない部分もあるが、自分が実際見たこと、また、聞いたことも含めて書かせていただきたい。アンケートで住民の意見も大切だが、そもそも住民の意見を反映させて働こうとする行政側の職員（役場職員）自体に大きな課題があるのでは？以下、気付いたこと（聞いたこと含む）。コロナ渦への対応。町民や庁舎を利用する人にはマスク着用を求めるが、役場職員でマスクを着用してない人も多勢いたように思う。危機感がない。消毒もあまりしていないようだし、役場に行ったらだいたい同じ人がやっているそうだが。行政全体が一体になってやっていこうという感じがしない。町民には求めるのに。上の人は何を見ているのか？伊方は安全だと過信しているのか？・日々の職員の仕事のやり方。ネット画面を見ている人がいる。（小さい画面にしているなど、姑息）調べ物があるのかも知れないが、暇なら忙しい部署に回せ。または、給料のムダ。何らかの管理システム？で１日の大半をインターネットでＨＰやニュースをみている者を把握して、何らかの対応を。上の人は分かっているのか？歩きタバコを普通にやっている職員が多い。子どもがいたら危ないだろう！タバコを日に何回も吸いに行き、ゲームをしながら自席に戻ってくる、というような人がいると聞いたのだが、まじめに働いている友人が不憫である。タバコを吸う人と吸わない人で年休に差をつけているような市町も県外などにはあるそうだが、どうなのか。職員に不満があるようなら、町民のために働こうと思わない（そこまで気が回らない）のでは？職員そのものの態度も気になるし、職員の働き方に対して、何も対応をしていないように思われる。上の方々のやり方もどうかと思う。職員もその職員の家族も”町民”であることをお忘れなく。今後、これらの意見を見た上でどのような対応をされるのか、ということも注視させていただきます。

- ・ある地区では、風力発電の実施に関して地区住民と業者の間に反対運動が生じていると聞きますが、近隣の市においては条例を作成し、再生可能エネルギー発電事業と地域との共生に関する条例により施行されています。
- ・伊方町においても、業者と住民のトラブルを解消するためにも条例制定が必要ではないでしょうか。
- ・町が主体となっている事業やイベントが多いように思うので、住民が主体となって行う事業やイベントもあっていいと思う。
- ・過疎化、高齢化等により、コミュニティ（自治活動）活動ができない地域がある現状。
- ・財政的には豊かだと思われる伊方町だが、お金の使い道が有効的とは思わない。財力もっと生かし、オリジナルな活性化ができるようアイデアを出し、魅力ある伊方町を作ってほしい。僻地であるため、いろいろな制限があるが、優秀な人材を育成できるよう、力を入れてほしい。今後の人口の増減や、年齢層を見据え、5年先、10年先等、中・長期的な計画を立て、町民・各関係に伝え、行政としてどうしていきたいか、どうすべきか、という方針を明確に示していただきたい。自然はいっぱいあるが、農村、漁業は衰退し、海の環境も変わってきている。山は作る人がいなく、野生動物が増え、農作物を作り人が困っている。日本的にも少子高齢化になって、都市部中心型の人々増加となるなか、少しでも生活しやすい、伊方町を目指していただきたい。乱筆ですみません
- ・議員の定数が多すぎる。
- ・原子力発電所の恩恵に頼らずとも、自立していけるよう町政運営を抜本的に行い、見直し、スクラップアンドビルドを徹底していくべき。
- ・他市町との合併。限界集落を放棄させてコンパクトシティ化。
- ・持続可能な町づくりをしていただきたいと思っている。現在の伊方町の財政力指数が他の類似自治体と比較しても高い水準を保っている要因として、原子力発電があることが挙げられるだろう。この先、原発がなくなるかもしれない。その時に持ちこたえることができるような町をつかってほしい。
- ・若い職員の方の対応は大変親切でわかりやすいが、中年男性の職員の方の対応に不満がある人がいるような気がする。長年のキャリア・知恵を生かして、若い職員さんに負けない対応をお願いします。